

山形県立博物館研究報告

第 7 号

BULLETIN
OF
THE YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

No. 7

山 形 県 立 博 物 館

YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

Kajo Machi, Yamagata City, Japan

March, 1 9 8 6

序

当博物館の研究報告書第7号を発行いたします。当博物館は、地学・植物・動物・考古・歴史・民俗・教育資料館の7部門をもつ総合博物館で、山形県を中心に、自然・人文の両面にわたり、広く関係資料を収集・保存し、これをもとに展示・調査研究・教育普及の諸活動を行っております。

調査研究は、博物館の諸活動の中でも、とくに重要な分野であり、ある意味では博物館の生命でもあります。これらの研究は基礎的な地味なものが多いので、余り人目につかないことが多いのですが、これらの集積があつてこそ確実なことがわかつて参ります。当博物館は、多くの方々の協力をいただきながらこれらの研究を積み重ね、いつの日にか「山形学」ともいふべき郷土の学を建設して参りたいと願っています。

本号に収録した研究は、いずれも館職員の日頃の研究をまとめたものです。「ヤマガタダイカイギュウ化石整備事業報告」は、昭和53年の発見以来すすめてきた整備事業の一応の完成を機にこの事業の経過をまとめたものであり、「山形県の蛾類分布資料」は、本県内では、まとめたものとしては、初めてのものです。また、「山形県における木地物・曲物・刳物の製作」は、いわゆる木地屋文書を中心に考察したもので、「資料紹介 最上川絵図」とともに、企画展・特別展に関連しての成果であります。「山形師範学校初代校長斎藤篤信の遺稿について」は、明治初期の山形県の師範教育の理念をうかがい得る初めての論文であります。

これらの諸論考が、郷土山形の自然や文化の理解のためにいささかでも裨益するところがあれば幸いです。大方のご活用を願する次第です。

昭和61年2月

山形県立博物館長

大友義助

目 次

高橋 静 夫	： ヤマガタダイカイギュウ化石整備事業報告	1
木 俣 繁	： 山形県の蛾類分布資料(I).....	9
金 山 耕 三	： 資料紹介 最上川絵図	右35
松 田 源 恵	： 山形県師範学校初代校長斎藤篤信遺稿について	右21
野 口 一 雄	： 山形県における木地物・曲物・刳物の製作 一近世期を中心に一	右 1

ヤマガタダイカイギュウ化石整備事業報告

主任学芸員 高橋 静夫

I はじめに

昭和53年8月、西村山郡大江町字用地内を流れる最上川の川床の岩盤で、二人の少年が発見した大型動物化石の発掘以来、本館では、年次計画を立ててその整備をすすめてきた。

博物館資料として、クリーニング、産状レプリカ、骨格レプリカの製作・展示の整備と、調査研究、特に鑑定、論文記載を並行して行ってきた。

この大型動物化石は、調査研究、整備とも各方面からの絶大なる御協力を得て、骨格レプリカ等の常設展示を完了することができた。

ここに骨格レプリカの製作・展示の経過を報告するものである。(発掘・調査研究の経過については、ヤマガタダイカイギュウ発掘調査報告書；1986, ヤマガタダイカイギュウ；1961, いずれも山形県立博物館発行を参照)

この整備事業、調査研究にあたって、御指導、御協力賜わったDaryl P. Domning氏(アメリカハワード大学助教授)、斎藤常正氏(山形大学教授)、長谷川善和氏(横浜国立大学教授)はじめ、調査委員の先生方、大江町の方がた他多数の関係者に深甚なる感謝の意を表します。

II 経過の概略

発掘当時、クジラらしい骨格であると考えていたが、骨格をレリーフ状にクリーニング中、摺り減った機能歯が見つかった。

昭和54年3月、この歯と写真資料を、斎藤常正氏を通じ、ニューヨーク自然史博物館のRichard H. Tedford氏に送った。Tedford氏からDomning

氏に資料が転送され、大海牛の化石であるとの返事が同年4月に届いた。

その間もクリーニング作業を続け、頭蓋、下顎骨、左右肩甲骨、左右上腕骨、左右橈骨、尺骨、胸椎、肋骨、歯などの骨格が確認された。

同年の特別展「化石展」で一般公開した。その後、産状の状態でも常設展示した。

翌年から骨格化石の整備事業の年次計画を立て、予算要求を行い、ほぼ計画通り予算化され、整備事業は軌道にのった。

昭和55年度、現地付近の地質調査、二体目骨格化石の調査。

昭和56年度、二体目大型動物骨格化石の発掘。

昭和57年度、大海牛化石の調査研究、鑑定。

Domning氏を招聘し鑑定依頼。

昭和58年度、産状レプリカの製作を西尾製作所(京都市)に委託。全骨格化石の完全なクリーニング作業。

昭和59年度、骨格レプリカの製作を西尾製作所



図1. クリーニングされた化石の産状

に委託。

昭和60年度、骨格レプリカの公開（化石が語る太古のロマン：特別展）、自然部門の常設展示。

以上、大海牛化石の整備事業が完了した。

III 化石の整備にあたって

(1) 本標本の発見は、国内では、大海牛化石の第二番目の発見例である。最初の発見は、長野県戸隠村産のリチナ海牛のものとされた肋骨1本で、新第三紀鮮新世のものである。本標本は、腰椎の一部を含む上半身ほぼ完全なものであり、新第三紀後期中新世のものである。

国内でも発見例の少ない骨格化石であること、上半身がほぼ完全なことなどから、調査委員会を組織し、調査研究を進め、全身骨格化レプリカの製作に向けて検討をはじめた。

(2) 昭和57年、ドムニグ氏に鑑定を依頼したところ、新種の大海牛化石であることが判明し、「ヤマガタダイカイギュウ」（和名）と命名した。

ヤマガタダイカイギュウは、各骨格の形態、特に、機能歯と前肢の形態から、*Dusisirem jordani* と *Hydorodamalis-cuestae* を継ぐ「失われた鎖」としての骨格の形態を備えている。このような特異な骨格形態を持ち備えている本標本の骨格レプリカの製作・展示は、大海牛の進化を解明する展示物としてふさわしい資料である。

(3) 本資料の展示は、産状レプリカがあつてはじめて意味があり、骨格レプリカだけの展示はあり得ない。

骨格レプリカの製作は、既存の骨格化石を完全にクリーニングする必要がある。そこで、クリーニングの前に産状レプリカの製作を行った。

(4) 既存の化石の変形した部分については、可能な限り補正して型取りを行うが、欠損部分の骨格は、造形し、既存の化石と欠損部分の骨格の彩色を異にして、区別できるように製作する。

(5) 骨格の組み立てにより、大海牛が、呼吸のため、水面に浮き上がろうとするポーズにし、動きを表現する。

(6) 監修は、長谷川善和氏、斎藤常正氏に依頼する。

以上のような基本方針のもと大海牛化石整備事業をすすめた。

IV 化石整備の仕様について

各年度の整備事業は、つぎの仕様に基づいて実施した。

<昭和58年度>

ヤマガタダイカイギュウレプリカ製作及びクリーニング作業については下記仕様による。

1 産状レプリカ

- (1) 現在展示中の化石は、一部クリーニングが完了しているため、発見された当時に復元して製作しなくてはならない。
- (2) 当時の写真資料及び調査資料にもとづき原資料をあたかも母岩に含有されている様に粘土で造形したうえでシリコンゴムで型取りを行う。
- (3) 型取りは原資料を傷つけない様、綿密にその強さ等を検討したうえで、その部分に錫箔で被膜をつくり、また、補強作業をしたうえで型取りを行う。
- (4) 型取りを終了した時、原資料を現状に復帰し、清掃する。
- (5) (1)~(4)は館内で作業するものとする。
- (6) 雌型は、工場に於てF・R・Pで成型補正したうえで、基本的な彩色をする。
- (7) 着色仕上げは、館に搬入し、原資料を確認しながら行う。
- (8) この全工程を昭和58年11月1日から12月31

日まで行う。

2. クリーニング

- (1) 母岩から化石を掘り出すにあたっては、館担当者の指示により、破損及び毀損を生じないように細心の注意を払い、電気工具及び工具を使用して行う。
- (2) 破損した場合は、その都度状態に応じて接着剤を選定して接着を行う。
- (3) 化石が部分的にもろく弱いところは、バインダーもしくは、パラロイド溶液を浸透させ強化する。
- (4) 作業期間は、昭和58年11月1日より昭和59年3月21日とする。

3. 部分レプリカ

- (1) 現在までクリーニング済みの化石のレプリカ製作を行う。
- (2) その品目は、頭蓋骨、下顎骨、左上腕骨、左尺骨・橈骨とする。
- (3) 型取りはシリコンゴムで行うが、原資料を傷つけないよう綿密にその強さを検討したうえ、その部分により錫箔で被膜をつくり、また補強をしたうえで型取りを行う。
- (4) 型取りを終了した時、化石に付着した異物を清掃し現状に復帰する。
- (5) (3)、(4)の作業は館内で行う。
- (6) 雄型は工場に於てF・R・Pで成型したうえで、基本的な彩色を行う。
- (7) 着色仕上げは、館に搬入し、原資料を確認して行う。
- (8) 型取りの工程は、昭和58年11月1日から12月31日までに、また、着色仕上げは、昭和59年3月25日までに完了するものとする。

4. 雌型の所有権

型の所有は、山形県立博物館に所属する。

5. 工程写真

各工程を必ず撮影し、作業完了後提出するものとする。



図2. 完成した産状レプリカ

<昭和59年度>

ヤマガタダイカイギュウ骨格復元レプリカ及び部分レプリカ製作については下記仕様書による。

1 骨格復元レプリカ

- (1) 山形県立博物館（以下本館という）所有のヤマガタダイカイギュウ骨格化石のレプリカ製作を行う。
- (2) その品目及び数量は、歯10点、左右肩甲骨各1点、左右上腕骨各1点、左右尺骨・橈骨各1点、頸椎7点、胸椎19点（一部欠損）腰椎3点、（一部欠損）、右肋骨16点（一部欠損）左肋骨12点（一部欠損）、胸骨2点、手根骨・中手骨および指骨15点（一部欠損）舌骨5点とする。
- (3) 型取りは、シリコンゴムで行うが原資料を傷つけないよう綿密にその強さ等を検討したうえ、その部分に錫箔で被膜をつくり、また補強作業をしたうえで行う。
- (4) 型取りを終了した時点で化石に付着した異

V 資料調査

骨格レプリカを製作のため、製作担当者と各種の資料調査を行った。

1 鳥羽水族館のジュゴン骨格標本

生後1年ぐらいの幼獣であるが、頭蓋、下顎骨、頸椎(7)、胸椎(19)、腰椎(3)、仙骨(1)、尾椎(28)、V字骨(13)、肋骨(左右各19)、胸骨、左右肩甲骨、左右桡骨、尺骨、手骨などの組み合わせや位置関係について調査を行った。舌骨、寛骨は組み立てていなかった。

2 東海大学自然史博物館のステラーカイギュウ

レプリカであるが頸椎が4個、尾椎8個、肋骨左右17本ずつで完全ではなく、寛骨、V字骨、舌骨は欠損している。特に、胸椎と肋骨の組合せ、頭骨と下顎骨の組合せについて調査した。

3 ハリテリウム骨格標本

昭和59年9月、東京で開催されていた東ドイツの「大恐竜展」のハリテリウムの骨格を調査した。

体長2.3メートルほどで、ほぼ完全な形の骨である。頭蓋、下顎骨、頸椎(7)胸椎(19)、腰椎(3)、仙骨(1)、尾椎(26)、寛骨(1対)、肋骨(19)胸骨、V字骨(8)が、一部欠損している部分は造形し、彩色を実物と区別できる色に彩色してある。舌骨は欠損している。頭骨から尾椎まで、自然な形の彎曲があり、各骨格の組合せが良く、非常に参考になった。係官の特別の配慮で写真撮影の許可も得た。

4 タキワカカイギュウ骨格標本

完全な形での復元は完了していないが、寛骨の形態、頭骨の欠損部分の造形の仕方など骨格の組立て方などについて調査した。

以上、4点の資料調査の他、ドミング氏より借用した、*D. jordani* 77037標本の写真資料を使い、本標本の欠損部分の図面作成を行い、造形を進めた。

VI 各骨格部の補正 造形と型取り

頭骨 左頬骨、左前上顎骨が欠損しているが、右頬骨、右前上顎骨を使い造形し、型取り。

下顎骨 左右の関節突起、筋突起が欠損、さらに左歯槽部も欠損しているが、関節突起、筋突起は *D. jordani* 77037標本の計測値を使い造形、左歯槽部は、右歯槽部の形態を使い造形し型取り、左右のずれの変形があるが、成型の接着時に少々補正。

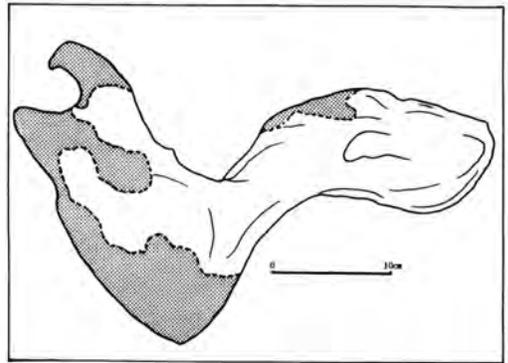


図3. 下顎骨の補正図

歯 12本中既存の10本は型取り、左右下顎第1臼歯が欠損しているが、造形せず。

環椎 既存の化石ほぼ完全、そのまま型取り。

軸椎 既存の化石ほぼ完全、そのまま型取り。

第3頸椎 上関節面、横突起の一部欠損、左の欠損部は既存の右の形を使い造形し型取り。

第4頸椎 椎弓の一部、横突起の一部欠損、左右の形を使い造形し型取り。

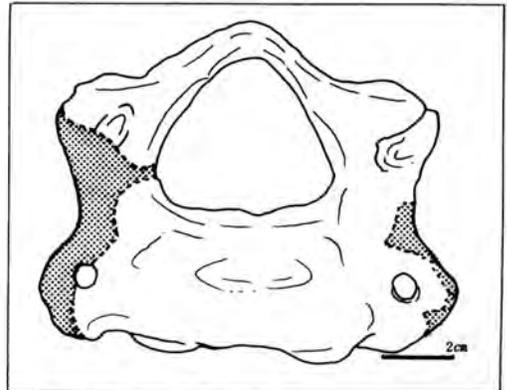


図4. 第3頸椎の補正図

第5、6頸椎 上関節面，棘突起欠損，*D. jordanai* 77037 標本の計測値を使い造形し型取り。

第7頸椎 横突起の一部欠損，既存の右の形を使い造形，型取り。

第1胸椎 棘突起欠損，*D. jordanai* の計測値を使い造形し型取り。

第2～8胸椎 既存の化石ほぼ完全，そのまま型取り。

第9～13胸椎 棘突起，横突起欠損，*D. jordanai* 77037 標本を使い造形し型取り。

第14、15胸椎 すべて欠損，*D. jordanai* 77037 標本の計測値，写真を使い造形し，型取り。

第16～21胸椎 椎体の一部のみ既存，棘突起，横突起は欠損，*D. jordanai* 77037 標本の計測値，写真を使い造形し，型取り。

第1～3腰椎 椎体のみ既存，棘突起，横突起欠損，*D. jordanai* 77037 標本，写真を使い造形し，型取り。

仙骨 すべて欠損，*D. jordanai* 77037 標本の写真を使い造形し，型取り。

寛骨 すべて欠損，*D. jordanai* 77037 標本の写真を使い造形し型取り。

第1～32尾椎 すべて欠損，*D. jordanai* 77037 標本の計測値と写真を使い造形し，型取り。

V字骨 すべて欠損，東ドイツの大恐竜展に展示のミオシーレン（1984，於東京都新宿）のV字骨を参考に造形し，型取り。

肩甲骨 左肩甲骨上角の一部，左肩甲骨の肩峰の一部が欠損し，左肩甲骨が若干変型しているが，既存のまま型取り。

左上上腕骨 左右ともほぼ完全な形，そのまま型取り。

左右橈骨・尺骨 左橈骨の莖状突起，左尺骨の

莖状突起の一部欠損。完全な右橈骨，尺骨の形を使い造形し型取り。右橈骨・尺骨はそのまま型取り。

左右手根骨 左手根骨欠損。右手根骨完全に既存，そのまま型取り。左手根骨は，右手根骨の形を使い造形し型取り。

左右中手骨 右中手骨は完全な形で既存，そのまま型取り。左中手骨は，第三中手骨以外は欠損，右中手骨の形を使い造形し，型取り。

左右指骨 右中指の指骨1本以外は右指骨は既

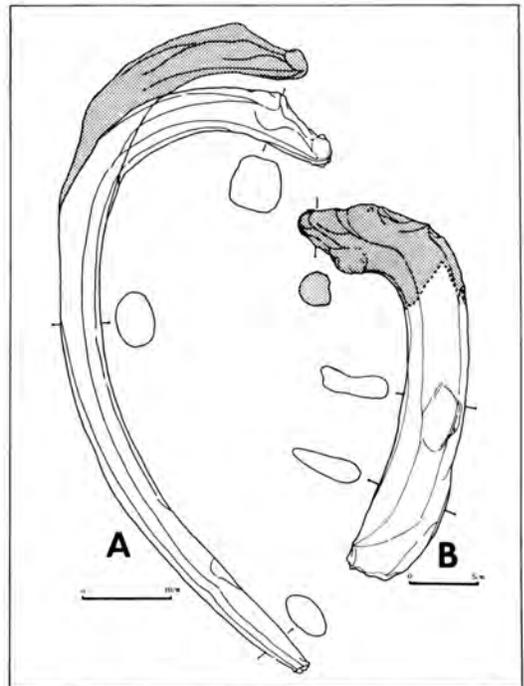


図5. 肋骨の補正図，A：左第8，B：左第1、

存，右中指の指骨は造形し，他はそのまま型取り。左指骨はすべて欠損，右指骨の形をつかい造形し，型取り。

胸骨 ほぼ完全な形で既存。そのまま型取り。

舌骨 ほぼ完全な形に既存。そのまま型取り。

右第1～7，12，13，14，15肋骨 ほぼ完全な形で既存。そのまま型取り。

右第8～11肋骨 肋骨端の部分欠損。左第8肋骨の形をつかい造形し，型取り。

右第16肋骨 肋骨頭，肋骨端欠損。*D. jordanai*

anai 77037 標本の各肋骨の計測比と、ヤマガタダイカイギュウの既存の肋骨の計測比を比較して造形し、型取り。

右第17～21肋骨 すべて欠損。*D. jordanai* 77037 標本の計測比とヤマガタダイカイギュウの肋骨の計測比を比較して造形し、型取り。

左第1～6肋骨 肋骨頭の一部欠損、右第1～6肋骨の形を使い造形し、型取り。

左第7肋骨 ほぼ完全な形で既存、そのまま型取り。

左第8肋骨 肋骨頭から肋骨幅のカーブが、ひどく変形。右第8肋骨の形を使い補正して造形し、型取り。

左第9～12肋骨 肋骨端欠損、右第12肋骨の肋骨端の形を使い、造形し、型取り。

左第13～21肋骨 すべて欠損、左第15肋骨までは、右肋骨の形を使って造形し型取り。左第16～21肋骨は、右肋骨の造形を使って型取り。

Ⅶ 検収

1 産状レプリカ

型取りが館で行なわれたので、特に、完全にクリーニングした頭蓋、下顎骨、歯などの骨格部分の粒土による産状復元を行い、その検収を行った。

採色は、原則的に、パラロイド溶液でコーティング以前の色に着色することにした。成型を館内に搬入しての彩色作業であったので、その都度指示をして進め、検収した。

2 骨格レプリカ

(1) 1回目の検収

造形のための図面、写真などの資料の整理と欠損部分の造形の基本方針の打合せ、造形の工程の打合せを行う。

(2) 2回目の検収



図6. 欠損部分の造形

鑑修者の長谷川善和氏、齋藤常正氏と共に各造形部分の検収を行う。特に下顎骨、脊椎、肋骨、指骨、V字骨などの造形部分の検収を行う。

(3) 3回目の検収

長谷川善和氏と共に、仮組立ての検収を行う。



図7. 仮組立ての検収

基本的には、大海牛が呼吸のため浮き上がろうとするポーズで頭を右に曲げ、歯が見える程度に口を開いた状態で前肢はやや後方に動かした姿勢に仮組立てを行った。肋骨は、腹面をそろえて右の方だけ仮組立をして、左は右にならって組立てることにし、補強のため、肋骨の途中にアングルを入れて固定することにした。他に肋骨、舌骨の位置について検収を行った。

(4) 4回目の検収

彩色は、骨格を館に搬入して行った。特に、既

存の部分の彩色は、産状の骨格の色と同じようにして、欠損部分は単色に彩色し、両者が区別できるように指示し、各骨格について検収を行った。

3 常設展示

バックパネルのイラストは、大海牛の親子が、コンブの生い茂った海中で泳いでいる情景という注文中、斎藤二良氏に依頼し、原画とした。

側面に展示する、大海牛化石の産出した地層の剥ぎ取りについても、発見地付近の典型的な斜交層理の見られる部分を指示して行った。

産状レプリカの展示、骨格レプリカの展示についてもその都度指示し、検収しながら進めた。

VIII おわりに

ヤマガタダイカイギュウの発見は、本館開館以来の快挙であり、博物館資料としての整備は各方面の協力を得て完成することができた。

昭和60年12月には、ヤマガタダイカイギュウの実物大の復元レプリカが大江町によって製作され同町の中央公民館に展示されている。

最後に、国内から数多くの大海牛化石が発見され、日本における大海牛の進化が明らかにされることを期待する。

ヤマガタダイカイギュウ化石整備事業予算

年 度	予 算 額	備 考
昭和53年度	250千円	発掘費用
昭和54年度	600千円	展示ケース他
昭和55年度	480千円	現地調査 資料収集他
昭和56年度	689千円	現地調査 二体目化石発掘他
昭和57年度	1,700千円	ドムニング博士鑑定 報告書他
昭和58年度	8,500千円	産状レプリカ製作 クリーニング他
昭和59年度	10,500千円	骨格レプリカ製作他
昭和60年度	6,500千円	常設展示 解説書他
合 計	29,219千円	

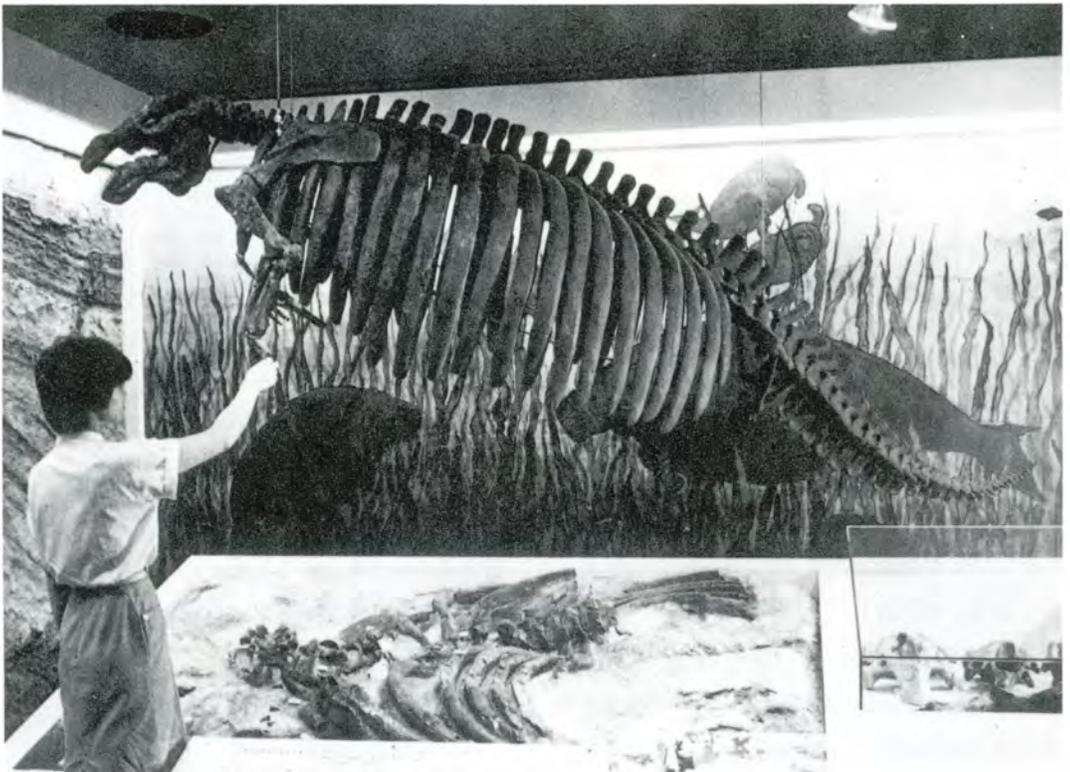


図9. 改装された常設展示

山形県の蛾類分布資料(I)

囑託 木 俣 繁

セセリモドキガ科 (HYBLAEIDAE), マドガ科 (THYRIDIDAE),
 メイガ科 (PYRALIDAE), カギバガ科 (DREPANIDAE),
 オオカギバガ科 (CYCLIDIIDAE), トガリバガ科 (THYATIRIDAE)

1 はじめに

山形県内における蛾の分布については、従来まとまった調査報告がなく、断片的な記録が僅かにあるだけである。しかも昆虫関係の調査報告にも、蛾類を取り上げている場合が少なく、山形県総合学術調査会の報告書を見ても、「最上川」の山形県産昆虫目録には197種類の蛾が掲載されているにすぎない。その後実施された、蔵王連峰の調査の際には、筆者もその調査に調査員として参加した関係から、蛾の調査を積極的に実施したのであるが、それでも、蛾類は549種類を報告したに過ぎない。

県内に分布する蛾の種類数は、2千種類を大きく上回るものと推定されるが、現在筆者の手許にリストアップされているものは、未発表の資料を含めても、ようやく1,200種類を超える程度であり、また、調査地域も限られた地域のもが多く、県内全般に及んでいない。このような実情から、県内の蛾相の全貌をはあくするには、まだまだ多くの調査が必要であり、時間がかかるものと思われる。

こうした実情を踏まえて、現在までの研究状況を見ながら、これからの研究調査のための足掛かりとするために、あえてその現状を報告することとした。しかしながら、紙数の制限もあり、一度に全部を取り上げることが出来ないで、今回は蛾類のうち

メイガ上科 (PYRALOIDEA)
 セセリモドキガ科 (HYBLAEIDAE)
 マドガ科 (THYRIDIDAE)
 メイガ科 (PYRALIDAE)
 シャクガ上科 (GEOMETROIDEA)
 カギバガ科 (DREPANIDAE)
 オオカギバガ科 (CYCLIDIIDAE)
 トガリバガ科 (THYATIRIDAE)

を扱うこととした。今後何回かにわたって報告を継続しながら、県内の蛾相を解明していきたい。

この研究を纏めるにあたり、一部の種の同定あるいはいろいろとご教示いただいた日本蛾類学会の井上寛博士及び、メイガ科の一部の種を同定していただいた秋田の佐々木明夫氏、また、資料を提供して下さった東京の岸田泰則氏、横浜の柳田慶浩氏、浦和の市川和夫氏、故白畑孝太郎氏夫人禮子氏、山形東高校の菊地賢治氏、山形の横倉明氏に対して心から感謝の意を表する次第である。さらに村山農業高校の鳥山啓介氏には、提供いただいた目録に掲載された蛾の標本が、同校に保管されているところから、その標本を調べさせていただき、多くの知見を得ることが出来たことに関し、氏を始め関係諸先生方の協力を得たこと、また、仙台の山谷文仁氏には、その所蔵する蛾の標本の調査をまかされ、発表の機会を与えられた事に対して深く感謝する次第である。

2 調査地域

従来の調査状況あるいは文献等からみて、ある程度調査地域がかたよっていることは否めない。

その調査地域は次の通りである。

山形市：市街地，盃山，沼の辺，山寺，奥山寺，二口溪谷，面白山，高瀬，高瀬戸沢，瀬ノ原山，上宝沢，不動沢，門伝大平，笹谷峠

上市市：菖蒲，舟引山

蔵王連峰：西藏王高原，蔵王ライン，蔵王温泉，蔵王坊平，蔵王御田神，蔵王パラダイス，馬の背，地藏岳，雁戸山，五郎岳

朝日町：八ツ沼

大江町：古寺鉱泉

西川町：本道寺，間沢，月山沢，志津，志津荒沢橋，桧原，上島，大井沢中村

月山：姥沢小屋，羽黒山

朝日連峰：天狗小屋

朝日村：荒沢ダム，八久和林地

米沢市：市街地，白布高湯，斜平山，愛宕山，笹野山

吾妻連峰：新高湯，大平温泉，滑川温泉，天元台，大峠，ババ谷地，家形山

小国町：叶水，片貝，沼沢

飯豊町：白川ダム

飯豊連峰：ヌクミ平

遊佐町：吹浦

酒田市：市街地，飛鳥

鶴岡市：高館山，金峰山

湯海町：湯温海，摩耶山，平沢

鳥海山：鳥の海，ソブ谷地，千疊ヶ原，河原宿，湯ノ台

村山市：市街地，大久保，白鳥

東根市：神町，乱川，寒風山木葉沢，関山，間木野

天童市：市街地，舞鶴山，荒谷，山元

新庄市：新庄温泉

最上町：花立峠

真室川町：及位

金山町：主寝坂，土内

戸沢村：今神温泉

このように見てくると、県内広く調査されているようであるが、最上地方が殆ど調査されていないこと、庄内地方については、白畑孝太郎氏の採集された蛾の標本があるとはいうものの、庄内全般について分布を論ずるほどの資料はない。また、山岳部についても一応おもな山岳には調査のメスがかかっているとはいうものの、本格的な蛾の調査とは言えず、他の昆虫類の調査の際に目についた一部の蛾を採集してきたに過ぎない場合が多く、その地域の蛾のほんの一部にしか過ぎない。さらに一回だけの調査地も多く、1種1頭だけの採集品しかない場合もあり、そのためにその地域の蛾の分布状況をはあくしきれない場合が多いことも考えられる。

今後未調査の地域あるいは調査回数の少ない地域の調査を充実していくことが、県内の蛾相究明のために必要なことであろう。

3 目録

現在まで筆者が見ることの出来た文献等に記録されたものの中から、疑問のあるものを除き、すべての種を引用するとともに、未発表の資料としては、筆者の採集したもの、山形県立博物館所蔵の標本、故白畑氏の標本の中から未発表のもの、菊地賢治氏の標本、山谷氏の標本、村山農業高等学校の所蔵標本等、筆者の見ることの出来た標本すべてをとりあげて記録することとした。しかしながら、メイガ科のマダラメイガ亜科等には多くの未知種を含んでいるため、種名の判別のつかないものもあるので、そのような種については、今回の報告から除外した。

なお、データーの後ろ右肩に示した数字は、文献引用等を示したもので、本報文の最後に文献名をあげた。

蔵王坊平³⁾
舟引山³⁾
山形市高瀬戸沢⁴⁾

HYBLAEIDAE セセリモドキガ科

この科は熱帯、亜熱帯系の蛾であり、日本には3種を産するが、本県にはニホンセセリモドキ1種のみを産する。

1. *Hyblaea fortissima* Butler ニホンセセリモドキ
米沢市斜平山¹⁾
吾妻連峰大峠 1♂, 1-X-1964¹⁾
米沢市 1♀, 12-IV-1969 (山谷);
1♂, 2-V-1973 (山谷)
米沢市笹野山 1♂, 1-V-1973 (山谷)
面白山 1♀, 15-VII-1973 (木俣)
山形市松波 1♀, 7-X-1975 (木俣)
 ♪ 高瀬戸沢 1♀, 15-V-1983⁴⁾(Fig. 2)
 ♪ 不動沢³⁾
東根市間木野 1♀, IV-1985 (木俣)
写真 (Fig.1) は、後翅の斑紋に変異のあるもの。

THYRIDIDAE マドガ科

主として小型の蛾で、日本には24種を産するが、県内からは今のところ次の5種が知られているだけである。

Pachythyrinae マドガ亜科

1. *Thyris usitata* Butler マドガ (Fig.2)
西川町大井沢中村¹⁾
山形市雁戸山¹⁾
 ♪ 上宝沢¹⁾
村山市白鳥宮沢 1♂, 16-VI-1974¹²⁾
山形市山寺 2♂♂, 11-V-1975⁵⁾
 ♪ 二口溪谷 1♂, 4-VII-1982⁵⁾
米沢市滑川 1♂, 28-VII-1983 (山谷)

Striglinae アカジマダドガ亜科

2. *Striglina cancellata* (Christoph) アカジマダドガ
村山市大久保大原 1♂, 23-VII-1974¹²⁾
遊佐町吹浦 1♂, 16-VI-1984 (木俣)
寒風山木葉沢 2♂♂, 29-VI-1985 (木俣)

Siculinae マグラマドガ亜科

3. *Rhodoneura vittula* Guenée マドラマドガ
山形市瀬ノ原山 2♂♂1♀, 7-VI-1984⁴⁾
4. *Rhodoneura pallida* (Butler) ウスマダラマドガ (Fig.3)
飯豊連峰スクミ平 1♀, 17-VII-1982 (木俣)
5. *Pyrioides aureus* Butler ハスオビマドガ
西川町大井沢中村¹⁾
 ♪ 志津 1♂, 25-VII-1975¹¹⁾
 ♪ ♪ 荒沢橋 1♂1♀, 15-VII-1985 (木俣)
山形市二口溪谷⁵⁾
飯豊連峰スクミ平 1♂, 17-VII-1982 (木俣)
西藏王高原 1♂, 11-VII-1984³⁾

PYRALIDAE メイガ科

大型や中型の種類もあるが、主として小型の種類で、翅形腹部等は細長いものが多い。大部分が夜行性であり、幼虫の生活様式は多様で、ニカメイガ、コブノメイガ、モモノゴマダラノメイガ、クワノメイガ、マメノメイガ、ノシメマダラメイガ、ナシマダラメイガ、マツノシンマダラメイガなど農業上あるいは果樹、林業上の重要な害虫も少なくない。県内の種類数は調査されていないので何種類産するかわかっていないが、少なくとも250種以上いるものと推定される。今回はその

内現在までに判明している199種を取り上げたが、なお多くの種類についてはわかっていないので、今後の調査に待ちたい。

Schoenobiinae オオメイガ亜科

1. *Patissa fulvosparsa* (Butler) キボシオオメイガ
酒田市 2♀♀, 29-VI-1961¹⁰⁾
2. *Scirpophaga lineata* (Butler) ヒトスジオオメイガ
酒田市飛鳥 1♀, 26-VII-1952¹⁾
3. *Scirpophaga xanthopygata* Schawerda ニセムモンシロオオメイガ (Fig.4)
朝日町八ツ沼 1♀, 6-IX-1971 (博物館所蔵)
村山市北町 1♀, 22-VIII-1974¹²⁾

Scopariinae ヤマメイガ亜科

4. *Eudonia japanalpina* Inoue アルプスヤマメイガ (Fig.5)
蔵王ライン 1 ex., 7-VII-1984³⁾
従来本州中部山岳地帯の高地から記録されている種類で、東北地方からは初めての記録となる。なお、本採集地は標高1,000メートルを越す地域である。

Crambinae ツトガ亜科

5. *Pseudargyria interruptella* (Walker) ホソスジツトガ (Fig.6)
村山市大久保大原 1♂, 16-VII-1974¹²⁾;
1♂, 23-VII-1974¹²⁾
6. *Chilo luteellus* (Motschulsky) ヨシツトガ
村山市大久保大原 2♂♂, 18-VII-1974¹²⁾
7. *Chilo suppressalis* (Walker) ニカメイガ
山形市本町 1♀, 3-V-1962 (木俣)
東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
村山市大久保大原 1♀, 29-VII-1974¹²⁾;

1♀, 5-VIII-1974¹²⁾

- 幼虫はイネの大害虫で、イネのほかにトウモロコシ、キビ、ガマ、マコモなど種々のイネ科に寄生する。
8. *Chilo hyrax* Bleszynski ニカメイガモドキ
村山市大久保大原 1♀, 20-VII-1974¹²⁾
 9. *Pseudocantharylla simplex* (Zeller) マエキツトガ
村山市大久保大原 1♀, 16-VII-1974¹²⁾
 10. *Calamotropha yamanakai yamanakai* Inoue
フタオレットガ
東根市 1♂, 28-VIII-1962¹⁵⁾
産地が局限され、比較的珍しい種とされており、本県からは上記の記録しかない
 11. *Calamotropha nigripunctella* (Leech) キスジツトガ
山形市高瀬戸沢 4 exs., 4-VIII-1984⁴⁾
 12. *Chrysoteuchia diplogramma* (Zeller) ウスクロスジツトガ
蔵王高原 1♂, 11-VII-1984 (木俣)
山形市不動沢 6♂♂4♀♀, 14-VII-1984³⁾
ク 高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
西川町志津沢尻橋 2♂, 15-VII-1985 (木俣)
 13. *Chrysoteuchia pseudodiplogramma* (Okano)
ウスキバネットガ
酒田市 1♀, 17-VII-1961 (白畑)
 14. *Chrysoteuchia distinctella* (Leech) テンスジツトガ
酒田市 1♂, 26-VIII-1961 (白畑)
東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
村山市大久保大原 1♂, 25-VI-1974¹²⁾
小国町叶水 1♂, 29-VI-1974 (木俣)
面白山 1♂1♀, 24-VIII-1974⁵⁾
西川町間沢 1♂, 28-VII-1975⁷⁾
面白山 1♂1♀, 19-VI-1982⁵⁾
蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984³⁾

- 山形市不動沢 1♂1♀, 14-VII-1984³⁾
 西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985(木俣)
 大江町古寺鉱泉 1♂, 20-VII-1985(木俣)
15. *Chrysoteuchia porcelanella* (Motschulsky)
 ナカモンツトガ (Fig.7)
 酒田市 1♀, 29-VI-1961¹⁰⁾; 1 ex.,
 11-VII-1961¹⁰⁾
 東根市 28-VIII-1962¹⁵⁾
 村山市大久保大原 1♂, 25-VI-1974¹²⁾
 蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984³⁾
 本種は先に *C. atosignata* (Zeller) クロマダラ
 ツトガとして報告したが³⁾, 本種の誤りなので訂
 正する。
16. *Crambus sibiricus* Alphéraky ホソエダツ
 トガ
 鳥海山鳥ノ海 VIII-1966²⁾
17. *Crambus hachimantaiensis* Okano ミヤマ
 ウスギンツトガ (Fig.8)
 小国町叶水 1♂, 22-IX-1974(木俣)
 蔵王坊平 1♂, 28-VII-1979(木俣)
 吾妻連峰ババ谷地 2♂♂, 2-VIII-1980(木俣)
 飯豊連峰スクミ平 1♂, 17-VII-1982(木俣)
 蔵王御田神 7♂♂2♀♀, 30-VII-1984³⁾
 蔵王馬の背 6 exs., 30-VII-1984³⁾
 本種は先に *Crambus perlellus hachimantaiensis*
 Okano ウスギンツトガとされていたが, 秋田
 の佐々木氏により, *C. perlellus* Scopoli ウスギ
 ンツトガと *C. hachimantaiensis* Okano ミヤ
 マウスギンツトガの2種に区別されることにな
 った(1985)²⁴⁾。そのため, 従来 of 旧い記録で
 はこの2種類のどれに入るかわからないので,
 今回は標本を見ることが出来たものについてのみ
 記録することとした。その結果は, ミヤマウ
 スギンツトガしか見出すことが出来なかった。
18. *Crambus argyrophorus* Butler シロスジツ
 トガ
 村山市大久保大原 1♂, 10-VI-1974¹²⁾;
 1♂, 16-VI-1974¹²⁾
19. *Crambus pseudargyrophorus* Okano ニセ
 シロスジツトガ
 面白山 1♂, 24-VIII-1974(木俣)
20. *Catoptria montivaga* (Inoue) フタテンツト
 ガ
 鳥海山河原宿 VIII-1966²⁾
21. *Catoptria nana* Okano シロモンツトガ
 上山市菖蒲 1♀, 30-VIII-1956(白畑)
 西川町上島 1 ex., 2-IX-1979⁸⁾
 蔵王御田神 1♀, 30-VII-1984³⁾
22. *Flavocrambus striatellus* (Leech) クロスジ
 ツトガ
 東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
 西川町志津 1♂, 25-VII-1975¹¹⁾
 村山市大久保大原 1♂, 16-VII-1974¹²⁾
 面白山 1♀, 19-VI-1982(木俣)
 山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984³⁾
 寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985(木俣)
23. *Neopediasia mixtalis* (Walker) クロフタオ
 ビツトガ
 村山市大久保大原 1♀, 29-VI-1974¹²⁾
 山形市本町 1♀, 31-VIII-1961(木俣)
 天童市荒谷 1 ex., 31-VIII-1982(木俣)
 西藏王高原 1♀, 26-VIII-1983³⁾;
 1♀, 15-IX-1984(木俣)
24. *Platytes ornatella* (Leech) ナガハマツトガ
 (Fig.9)
 東根市 1♂2♀♀, 28-VIII-1962¹⁵⁾
 村山市大久保大原 2♀♀, 23-VIII-1974¹²⁾
 酒田市飛島¹⁾
 酒田市 2♀♀, 10-IX-1961¹⁰⁾
25. *Ancylolomia japonica* Zeller ツトガ
 酒田市飛島¹⁾
 村山市北町 1♂, 20-VII-1974¹²⁾; 1♀,

- 19-VII-1974¹²⁾
 村山市大久保大原 1♀, 5-VIII-1974¹²⁾
 酒田市 1♀, VIII-1956⁹⁾; 1♂, 26-VIII-1961 (白畑)
 山形市本町 1♀, 12-VIII-1962 (木俣)
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
 西川町間沢 1♀, 25-VII-1975⁷⁾
 ♀ 月山沢 1♂, 30-VI-1979⁸⁾;
 1♀, 15-IX-1979⁸⁾
 天童市荒谷 1♂, 6-VIII-1982⁵⁾;
 1♀, 3-IX-1982⁵⁾
 西蔵王高原 2♂♂, 11-VII-1984³⁾
 山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984 (木俣)
 西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985 (木俣)
- Pyraustinae ノメイガ亜科
26. *Evergestis forficalis* (Linnaeus) ナメノイガ
 面白山 1♀, 30-V-1982⁵⁾
 瀬ノ原山 3♀♀, 7-VI-1984⁴⁾
 西蔵王高原 1♀, 14-VI-1984³⁾
27. *Cotachena alysoni* Whalley クロスカシトガリノメイガ (Fig.10)
 面白山 1♂, 10-VII-1982⁵⁾
 本種は先に *C. pubescens* (Warren) スカシトガリノメイガで報告していたが、その後の調査により本種であることが判明したので訂正する。
 なお、本種の分布は関東以西とされている。
28. *Pileocera sodalis* (Leech) コガタシロモンノメイガ
 村山市大久保大原 1♂, 30-VII-1974¹²⁾
 蔵王ライン 2♂♂, 7-VII-1984³⁾
 山形市不動沢 2♀♀, 14-VII-1984³⁾
 寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985 (木俣)
 山形市門伝大平 2♂♂ 3♀♀, 8-VII-1985 (木俣)
- 西川町志津荒沢橋 1♂ 1♀, 15-VII-1985 (木俣)
29. *Camptomastix hisbonalis* (Walker) ハナダカノメイガ
 東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
 寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985 (木俣)
30. *Pycnarmon lactiferalis* (Walker) ゴマダラノメイガ
 村山市大久保大原 1♂, 20-VI-1974¹²⁾
 天童市荒谷 1♂, 13-IX-1982⁵⁾
31. *Pycnarmon pantherata* (Butler) クロオビノメイガ
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
 村山市北町 1♂, 1-VIII-1974¹²⁾
 西蔵王高原 1♂, 18-VIII-1984³⁾
32. *Hymenia recurvalis* (Fabricius) シロオビノメイガ
 山形市本町 1♂, 24-VIII-1961 (木俣)
 東根市 27-VIII-1962¹⁵⁾
 西川町大井沢中村¹⁾
 酒田市飛島¹⁾
 村山市北町 1♂, 20-VIII-1974¹²⁾
 ♀ 大久保大原 1♀, 22-VIII-1974¹²⁾
 酒田市 1♀, 10-IX-1961¹⁰⁾; 1♀, 30-IX-1961¹⁰⁾
 東根市神町 1 ex., IX-1947⁸⁾
 酒田市 1 ex., 23-IX-1947⁸⁾
33. *Agrotera postalalis* Wileman クロウスムラサキノメイガ (Fig.11)
 村山市大久保大原 1♀, 20-VIII-1974¹²⁾
 山形市高瀬戸沢 1♂, 3-VII-1984⁴⁾
34. *Pagyda quinquelineata* Hering マタスジノメイガ (Fig.12)
 村山市大久保大原 1♂, 20-VIII-1974¹²⁾
35. *Pagyda quadrilineata* Butler ヨスジノメイガ

- 村山市大久保大原 1 ex., 19-VIII-1974¹²⁾
 ♪ 北町 1♂, 20-VIII-1974¹²⁾
 面白山 1♂, 19-VI-1982⁵⁾
 天童市荒谷 1♂, 1-IX-1982 (木俣)
36. *Cnaphalocrocis medinalis* (Guenée) コブ
 ノメイガ
 酒田市飛島¹⁾
 蔵王高原 2♂♂1♀, 26-VIII-1983³⁾
 山形市高瀬 2♂♂, 10-IX-1983⁴⁾
 ♪ 笹谷峠 1♀, 26-IX-1983 (木俣)
 幼虫はイネ, ムギそのほかイネ科の葉を食べ害虫として有名である。
37. *Marasmia limbalis* Wileman ハカジモド
 キノメイガ
 山形市不動沢 3♀♀, 14-VII-1984³⁾
38. *Bocchoris inspersalis* (Zeller) シロモンノメイガ
 酒田市 1 ex., 17-IX-1949⁸⁾
 ♪ 1♀, 10-IX-1961¹⁰⁾
39. *Chabula onychinalis* (Guenée) シロマダ
 ラノメイガ
 面白山 1♂, 10-VII-1982⁵⁾
40. *Analthes semitritalis orbicularis* (Shibuya)
 シロヒトモンノメイガ
 村山市白鳥宮沢 1♂, 9-VI-1974¹²⁾
 小国町叶水 1♂2♀♀, 14-VI-1975 (木俣)
 蔵王ライン 4♂♂, 7-VII-1984³⁾
41. *Analthes maculalis* (Leech) ハラナガキマ
 ダラノメイガ
 山形市高瀬戸沢 3♂♂, 4-VIII-1984⁴⁾
42. *Tyspanodes striata striata* (Butler) クロス
 ジノメイガ
 鳥海山鳥ノ海 VIII-1966²⁾
 ♪ ソブ谷地 VIII-1966²⁾
 村山市白鳥宮沢 1♂, 9-VI-1974¹²⁾
 小国町叶水 1♂1♀, 14-VI-1975 (木俣)
- 面白山 2♂♂, 30-V-1982⁵⁾; 1♂, 10
 -VII-1982⁵⁾
 蔵王高原 1♂1♀, 26-VIII-1983³⁾; 1♂1♀,
 30-VI-1984³⁾; 1♀, 15-IX-1984 (木俣)
 山形市高瀬戸沢 2♂♂1♀, 3-VII-1984⁴⁾
 ; 1♂, 4-VIII-1984⁴⁾
 蔵王ライン 1♂1♀, 7-VII-1984³⁾
 山形市不動沢 1♂, 14-VII-1984³⁾
 ♪ 門伝大平 1♂, 8-VII-1985 (木俣)
43. *Conogethes punctiferalis* (Guenée) モモノ
 ゴマダラノメイガ (Fig.13)
 酒田市 1♂, VII-1961 (白畑)
 村山市楯岡 1♀, 28-VII-1949¹²⁾
 ♪ 北町 1♂, 20-VII-1974¹²⁾
 幼虫はクリ, モモ, リンゴ, ナシ, ミカンなど
 の果実を加害する大害虫として知られている。
44. *Conogethes* sp. マツノゴマダラノメイガ
 (Fig.14)
 酒田市 1♂, VII-1961 (白畑)
 天童市五日町 1♀, 1-VIII-1985 (菊地)
45. *Rehimena surusalis* (Walker) カクモンノ
 メイガ
 酒田市 1 ex., 22-VII-1954⁸⁾
 従来の分布は, 伊豆半島以西とされていた。し
 かし最近秋田県からも記録されているので²³⁾そ
 の分布については, 調査の必要があろう。
46. *Nacoleia commixta* (Butler) シロテンキノ
 メイガ
 村山市大久保大原 1♂, 23-VII-1974¹²⁾;
 1♀, 26-VII-1974¹²⁾
 小国町叶水 1♀, 14-VI-1975 (木俣)
 山形市山寺 1♂, 31-VIII-1977 (博物館所蔵)
 面白山 1♂, 10-VII-1982 (木俣)
 天童市荒谷 1♀, 31-VIII-1982⁵⁾
 山形市高瀬 1♂1♀, 10-IX-1983⁴⁾
 ♪ 高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984⁴⁾;

- 3 ♀♀, 4-VIII-1984⁴⁾
 蔵王御田神 2♂♂, 30-VII-1984 (木俣)
 西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985 (木俣)
47. *Nacoleia maculalis* South クロフキノメイガ
 蔵王ライン 7 exs., 7-VII-1984³⁾
 山形市不動沢 1♂3♀♀, 14-VII-1984³⁾
 寒風山木葉沢 3♂♂3♀♀, 29-VI-1985 (木俣)
48. *Metasia coniotalis* Hampson ハイイロホソバノメイガ
 東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
49. *Hedylepta tristrialis* (Bremer) シロアシクロノメイガ
 酒田市飛島¹⁾
 村山市白鳥宮沢 1♂, 9-VI-1974¹²⁾
 西川町月山沢 1 ex., 15-IX-1979⁸⁾
50. *Hedylepta misera* (Butler) ヒメクロミスジノメイガ
 村山市大久保大原 1♂, 2-IX-1974¹²⁾
 山形市高瀬 1♀, 10-IX-1983⁴⁾
51. *Hedylepta indicata* (Fabricius) マエウスキノメイガ
 村山市大久保大原 1♀, 21-VII-1974¹²⁾
52. *Charema noctescens* Moore キバラノメイガ
 村山市白鳥宮沢 1♀, 24-VII-1974¹²⁾
 山形市高瀬戸沢 2♂♂3♀♀, 3-VII-1984⁴⁾
 蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984³⁾
 西藏王高原 2♂♂, 11-VII-1984³⁾
 天童市山元 1♂, 23-VI-1985 (菊地)
 山形市門伝大平 1♂, 8-VII-1985 (木俣)
 西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985 (木俣)
53. *Goniorhynchus exemplaris* Hampson クロズノメイガ (Fig.15)
 酒田市 1♀, VII-1961¹⁰⁾
 村山市北町 1♂, 18-VIII-1974¹²⁾
 ク 大久保大原 1♀, 20-VIII-1974¹²⁾
- 山形市山寺 1♂, 21-V-1977 (博物館所蔵)
 西藏王高原 1♂, 11-VII-1984 (木俣)
54. *Goniorhynchus butyrosa* (Butler) クロヘリキノメイガ
 村山市大久保大原 1♀, 2-VIII-1974¹²⁾
55. *Botyodes diniasalis* (Walker) タイワンウスキノメイガ
 東根市乱川 1 ex., 5-IX-1946⁸⁾
 ク 神町 1 ex., 10-IX-1946⁸⁾
56. *Pleuroptya balteata* (Fabricius) クロスジキンノメイガ
 鶴岡市高館山 1♀, 15-VI-1961 (白畑)
 小国町叶水 1♀, 14-VI-1975 (木俣)
 西川町間沢 1♂, 25-VII-1975⁷⁾
 山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984⁴⁾
 西藏王高原 1♂, 11-VII-1984 (木俣)
57. *Pleuroptya punctimarginalis* (Hampson) ウスイロキンノメイガ
 西川町上島 1 ex., 2-IX-1979⁸⁾
58. *Pleuroptya ruralis* (Scopoli) ウコンノメイガ (Fig.16)
 村山市大久保大原 1♀, 14-VIII-1974¹²⁾
 ; 1♂, 2-IX-1974¹²⁾
59. *Pleuroptya brevipennis* Inoue ヒメウコンノメイガ
 山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984³⁾
 ク 高瀬戸沢 1♂, 4-VIII-1984 (木俣)
60. *Pleuroptya deficiens* (Moore) シロハラノメイガ
 鳥海山 1♀, 29-V-1961¹⁰⁾
 村山市大久保大原 1♀, 17-VIII-1974¹²⁾
 山形市高瀬戸沢 1♂1♀, 3-VII-1984⁴⁾
 蔵王ライン 1 ex., 7-VII-1984³⁾
 寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985 (木俣)
61. *Pleuroptya inferior* (Hampson) コヨツメノメイガ

- 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
 東根市関山 1♂, 21-VII-1978(博物館所蔵)
 蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984³⁾
 寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985(木俣)
 山形市門伝大平 2♂♂1♀, 8-VII-1985(木俣)
62. *Pleuroptya quadrimaculalis* (Kollar) ヨツ
 メノメイガ
 山形市高瀬戸沢 1♂, 3-VII-1984⁴⁾;
 2♂♂, 4-VIII-1984⁴⁾
63. *Pleuroptya harutai* (Inoue) オオキバラノ
 メイガ
 西川町間沢 1♂, 25-VII-1975⁷⁾
 山形市高瀬戸沢 3♂♂1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
64. *Pleuroptya chlorophanta* (Butler) ホソミ
 スジノメイガ
 酒田市 1 ex., 16-VI-1954⁸⁾
 ♀ 1 ex., 22-VII-1954⁸⁾
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
 村山市大久保大原 1♀, 13-VII-1974¹²⁾
 面白山 1♀, 10-VII-1982⁵⁾
 山形市高瀬戸沢 2♀♀, 3-VII-1984⁴⁾
 蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984³⁾
 山形市不動沢 1♂, 14-VII-1984³⁾
 ♀ 門伝大平 1♀, 8-VII-1985 (木俣)
 西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985 (木俣)
65. *Notarcha derogata* (Fabricius) ワタノメイ
 ガ
 東根市神町 1 ex., IX-1947⁸⁾
 ♀ 乱川 1 ex., 15-VIII-1948⁸⁾
 酒田市 1♀, IX-1961¹⁰⁾
 東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
 村山市北町 1♂, 18-VIII-1974¹²⁾
 ♀ 大久保 1♀, 20-VI-1973¹²⁾
 酒田市北里町 1♂, 12-VII-1972⁹⁾
 羽黒山 1♂, 13-IX-1972⁹⁾
- 西川町間沢 1♂, 25-VII-1975⁷⁾
 東根市関山 1♂1♀, 21-VII-1978 (博物館所蔵)
 蔵王坊平 2 exs., 28-VII-1979³⁾
 天童市荒谷 1 ex., 2-IX-1982⁵⁾
 蔵王高原 1 ex., 30-VI-1984³⁾; 1♂,
 18-VIII-1984³⁾; 1♂, 15-IX-1984(木俣)
 蔵王ライン 2 exs., 7-VII-1984(木俣)
 山形市高瀬戸沢 1♂1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
 寒風山木葉沢 2 exs., 29-VI-1985(木俣)
 山形市門伝大平 1♂1♀, 8-VII-1985(木俣)
66. *Sylepta segnalis* (Leech) モンシロクロノ
 メイガ
 山形市高瀬戸沢 2♂♂, 3-VII-1984⁴⁾;
 2♀♀, 4-VIII-1984⁴⁾
 蔵王ライン 2♂♂, 7-VII-1984³⁾
 山形市不動沢 5♂♂2♀♀, 14-VII-1984³⁾
 寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985(木俣)
67. *Sylepta taiwanalis* Shibuya タイワンモン
 キノメイガ (Fig.17)
 山形市高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
 従来の分布は、東北地方南部までとされている。
68. *Sylepta fuscomarginalis* (Leech) クロヘリ
 ノメイガ
 面白山 1♂, 27-VII-1974(木俣); 1♀,
 24-VIII-1974⁵⁾; 1♂, 16-VIII-1975⁵⁾
 西川町本道寺 1♂, 17-VIII-1979⁸⁾
 山形市不動沢 2♂♂, 14-VII-1984(木俣)
 蔵王御田神 1♂, 30-VII-1984³⁾
 山形市高瀬戸沢 2♀♀, 4-VIII-1984⁴⁾
69. *Sylepta invalidalis* South ツチイロノメイ
 ガ (Fig.18)
 山形市高瀬戸沢 1♂, 3-VII-1984(木俣)
70. *Sylepta fuscoinvalidalis* (Yamanaka) オオ
 ツチイロノメイガ
 蔵王坊平 1 ex., 17-VIII-1980³⁾
 山形市不動沢 2♀♀, 14-VII-1984(木俣)

71. *Sylepta pallidinotalis* (Hampson) ホソオビ
ツチイロノメイガ(Fig.19)
村山市大久保大原 1♀, 25-VII-1974¹²⁾
西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985(木俣)
72. *Lygropia poltisalis* (Walker) ウスグロヨツ
モンノメイガ
蔵王パラダイス 1♀, 13-VIII-1961¹⁰⁾
蔵王御田神 1♂, 30-VII-1984³⁾
73. *Palpita nigropunctalis* (Bremer) マエアカ
スカシノメイガ
西川町大井沢中村¹⁾
朝日連峰天狗小屋¹⁾
酒田市飛島¹⁾
酒田市 1♀, X-1962¹⁰⁾
鳥海山鳥ノ海 VIII-1966²⁾
〃 河原宿 VIII-1966²⁾
山形市笹谷峠 1♂2♀♀, 28-IX-1968(木俣)
村山市大久保大原 1♀, 11-IX-1974¹²⁾
吾妻連峰新高湯 2♂♂3♀♀, 29-IX-1971¹⁰⁾
面白山 1♂, 24-VIII-1974⁵⁾; 1♂1♀,
17-IX-1977⁵⁾; 1♀, 22-X-1977⁵⁾;
2♂♂4♀♀, 30-V-1982⁵⁾
小国町叶水 1♀, 14-VI-1975(木俣)
山形市山寺 1♂, 24-X-1976(木俣)
酒田市北里町 1 ex., 2-V-1979⁸⁾
朝日村荒沢ダム 2♀♀, 23-X-1982(菊地)
蔵王連峰五郎岳 1♀, 21-V-1983(菊地)
西川町姥沢小屋 1♀, V-1983¹⁴⁾
西蔵王高原 1♂2♀♀, 26-VIII-1983³⁾;
1♂, 14-VI-1984(木俣); 1♂, 15-IX
-1984(木俣); 1♂1♀, 18-X-1984(木俣)
山形市緑町 1♀, 15-IX-1984(菊地)
蔵王御田神 1♂2♀♀, 30-VII-1984³⁾;
1♂1♀, 14-VIII-1984³⁾
山形市高瀬戸沢 1♂, 4-VIII-1984⁴⁾
74. *Diaphania indica* (Saunders) ワタヘリクロ
ノメイガ
酒田市 1 ex., 19-IX-1949⁸⁾
75. *Glyphodes perspectalis* (Walker) ツゲノメ
イガ(Fig.20)
村山市大久保大原 1♂, 11-VIII-1974¹²⁾
山形市山寺 1♀, 3-VII-1977(博物館所蔵)
天童市天童 1♀, 16-VIII-1981(菊地)
西蔵王高原 1♂, 11-VII-1984³⁾
天童市五日町 1♂, 1-VIII-1985(菊地)
76. *Glyphodes quadrimaculalis* (Bremer & Grey)
ヨツボシノメイガ
朝日連峰天狗小屋 1♂, 14-VIII-1954¹⁰⁾
酒田市 1♂, VIII-1956¹⁰⁾
山形市本町 1♂, 1-VIII-1962(木俣)
東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
山形市盃山 1♂, 25-VII-1973(博物館所蔵)
西川町間沢 1♂, 4-VIII-1973⁶⁾
村山市北町 1♂, 18-VIII-1974¹²⁾
面白山 1♂, 30-VI-1975⁵⁾; 1♂,
16-VIII-1975⁵⁾
西川町志津 1♂, 25-VII-1975¹¹⁾
米沢市白布高湯 1♂, 2-VIII-1980(木俣)
西蔵王高原 1♀, 26-VIII-1983³⁾;
1♂, 18-VIII-1984³⁾
蔵王ライン 2♂♂1♀, 7-VII-1984³⁾
山形市不動沢 1♂, 14-VII-1984(木俣)
〃 高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985(木俣)
山形市門伝大平 1♂1♀, 8-VII-1985(木俣)
77. *Glyphodes pryeri* Butler スカシノメイガ
東根市神町 1 ex., 10-IX-1946⁸⁾
小国町叶水 1♂, 29-VI-1974(木俣);
1♀, 14-VI-1975(木俣)
面白山 1♀, 19-VI-1982⁵⁾
山形市高瀬戸沢 1♂, 4-VIII-1984⁴⁾

- 蔵王高原 1♂, 18-VIII-1984³⁾
 八幡町湯ノ台 1♂, 30-VI-1985(菊地)
 78. *Glyphodes duplicalis* Inoue, Munroe & Mutuura クワノメイガ(Fig.21)
 東根市神町 1 ex., IX-1947⁸⁾
 村山市大久保大原 1♂, 26-VI-1974¹²⁾
 小国町叶水 1♂, 14-VI-1975(木俣)
 山形市高瀬戸沢 2♂♂, 4-VIII-1984⁴⁾
 幼虫はクワノスムシ, クワノハマキムシとよばれるクワの害虫として知られる。
 79. *Sinomphisa plagialis* (Wileman) キササゲノメイガ
 東根市神町 1 ex., 12-VIII-1947⁸⁾
 山形市本町 1♀, 2-VIII-1962(木俣)
 村山市楯岡 1♂, 27-VI-1949¹²⁾
 80. *Sinibotys evenoralis* (Walker) セスジノメイガ(Fig.22)
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
 村山市大久保大原 1♂, 28-VI-1974¹²⁾
 西川町間沢 1♂, 25-VII-1975⁷⁾; 1♂, 28-VII-1975⁷⁾
 天童市舞鶴山 2♀♀, 2-VII-1977(博物館所蔵)
 西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985(木俣)
 81. *Sinibotys obliquilinealis* Inoue ヒメセスジノメイガ(Fig.23)
 蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984³⁾
 山形市不動沢 1♂1♀, 14-VII-1984³⁾
 西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985(木俣)
 82. *Circobotys nycterina* Butler カギバノメイガ
 小国町叶水 1♂, 14-VI-1975(木俣)
 蔵王ライン 2♂♂1♀, 7-VII-1984³⁾
 西川町志津荒沢橋 3♂♂2♀♀, 15-VII-1985(木俣)
 83. *Circobotys aurealis* (Leech) キベリハネボソノメイガ
 山形市緑町 1♂, 5-VI-1985(菊地)
 84. *Maruca testulalis* (Hübner) マメノメイガ
 東根市神町 1 ex., IX-1947⁸⁾
 面白山 3♀♀, 17-IX-1977(木俣)
 蔵王高原 2♂♂4♀♀, 26-VIII-1983³⁾; 2♀♀, 11-VII-1984³⁾
 天童市五日町 2♂♂, 20-IX-1984(菊地)
 山形市門伝大平 1♂1♀, 8-VII-1985(木俣)
 幼虫はササゲやアズキの花やサヤに食入する害虫として知られる。
 85. *Nomophila noctuella* (Denis & Schiffermüller) ワモンノメイガ
 酒田市飛鳥¹⁾
 村山市大久保大原 1♂, 17-IX-1974¹²⁾
 86. *Bradina angustalis pryeri* Yamanaka アカウスグロノメイガ(Fig.24)
 村山市大久保大原 1♂, 14-VII-1974¹²⁾
 山形市高瀬戸沢 1♀, 14-VIII-1984⁴⁾
 従来の分布は関東以西とされている。
 87. *Herpetogramma licarsisalis* (Walker) クロオビクロノメイガ(Fig.25)
 酒田市 1♀, 10-IX-1961(白畑)
 本種は北海道からも記録があるとのことであるが、従来の分布は関東以西とされている。
 88. *Herpetogramma rudis* (Warren) マエキノメイガ
 東根市 27-VIII-1962¹⁵⁾
 村山市大久保大原 1♀, 2-VIII-1974¹²⁾
 89. *Herpetogramma magna* (Butler) キモンウスグロノメイガ
 山形市山寺 1♀, 20-VIII-1977(木俣)
 蔵王坊平 1♂, 28-VII-1979³⁾
 90. *Herpetogramma luctuosalis zelleri* (Bremer) モンキクロノメイガ
 村山市大久保大原 1♀, 19-VII-1974¹²⁾
 山形市山寺 1♀, 29-VIII-1977(木俣)

- 西蔵王高原 1♀, 26-VIII-1983³⁾;
 1♀, 15-IX-1984 (木俣)
 山形市高瀬戸沢 1♂1♀, 3-VII-1984⁴⁾;
 3♂♂1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
 山形市不動沢 2♂♂1♀, 14-VII-1984³⁾
 八幡町湯ノ台 1♂, 28-X-1984 (菊地)
 大江町古寺鉱泉 1♂1♀, 20-VII-1985 (木俣)
 天童市五日町 1♀, 1-VIII-1985 (菊地)
91. *Sitochroa palealis* (Denis & Schiffermüller)
 ウラグロシロノメイガ
 酒田市飛島¹⁾
 面白山 1♀, 24-VIII-1974 (木俣)
 西蔵王高原 1♀, 26-VIII-1983³⁾;
 2♀♀, 18-VIII-1984³⁾
92. *Sitochroa verticalis* (Linnaeus) クロミヤ
 クノメイガ (Fig.26)
 西蔵王高原 1♀, 30-VI-1984 (木俣)
 幼虫はテンサイの害虫として知られる。
93. *Sitochroa umbrosalis* (Warren) マエキン
 タグロノメイガ
 東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
94. *Diasemia litterata* (Scopoli) シロアヤヒメ
 ノメイガ
 真室川町及位 1♂, 22-VI-1961¹⁰⁾
 村山市大久保大原 1♀, 8-VIII-1974¹²⁾
 山形市高瀬 2♀♀, 10-IX-1983⁴⁾;
 1♀, 16-IX-1984⁴⁾
95. *Diasemia accalis* (Walker) キアヤヒメノ
 イガ
 村山市大久保大原 1♂, 28-VIII-1974¹²⁾
96. *Uresiphita prunipennis* (Butler) ウスベニ
 オオノメイガ (Fig.27)
 村山市北町 1♂, 9-VIII-1974¹²⁾
 〃 大久保大原 1♀, 12-VIII-1974¹²⁾
97. *Uresiphita tricolor* (Butler) モンシロルリ
 ノメイガ
 東根市 27-VIII-1962¹⁵⁾
 山形市高瀬戸沢 1♂, 4-VIII-1984⁴⁾
98. *Uresiphita gracilis* (Butler) ウラジロキノ
 メイガ (Fig.28)
 村山市北町 1♀, 24-VII-1974¹²⁾
 〃 大久保大原 1♀, 19-VIII-1974¹²⁾
- 西蔵王高原 1 ex., 11-VII-1984³⁾;
 1♀, 15-IX-1984 (木俣)
99. *Prodasyncnemis inornata* (Butler) キムジノ
 メイガ
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
 西川町志津 1♂, 25-VII-1975¹¹⁾
100. *Pronomis delicatalis* (South) ミカエリ
 ソウノメイガ (Fig.29)
 西蔵王高原 1♀, 14-VI-1984 (木俣)
 蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984 (木俣)
 山形市不動沢 1♂, 14-VII-1984³⁾
 寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985 (木俣)
 本種の幼虫はシソ科のミカエリソウの葉を食べ
 ることからこの名があるが, 本県にはミカエリ
 ソウが分布しないので, 同属のテンニンカもし
 くは他のシソ科植物を食べているものとおもわ
 れるが調査されていない。
101. *Nomis albopedalis* Motschulsky ホシオ
 ビホソノメイガ (Fig.30)
 鳥海山千畳ヶ原¹⁾
 西川町志津 1♂, 25-VII-1975¹¹⁾
 蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984³⁾
 大江町古寺鉱泉 1♂, 20-VII-1985 (木俣)
102. *Perinephela lancealis honshuensis* Mur-
 roe & Mutuura キイロノメイガ
 西川町志津 1♂, 25-VII-1975¹¹⁾
 村山市大久保大原 1♀, 19-VIII-1974¹²⁾
 寒風山木葉沢 1♂1♀, 29-VI-1985 (木俣)
 西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985 (木俣)
103. *Proteurrhyncha ocellalis ocellalis* (Warren)

- ナカミツテンノメイガ
面白山 1♀, 10-VII-1982⁵⁾
104. *Paliga minnehaha* (Pryer) マエベニノ
メイガ
酒田市飛島¹⁾
小国町叶水 1♂, 14-VI-1975 (木俣)
寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985 (木俣)
105. *Paliga ochrealis* (Wileman) マエウスモ
ンキノメイガ
村山市大久保大原 1♂, 21-VIII-1974¹²⁾
106. *Paliga auratalis* (Warren) ヘリジロキン
ノメイガ
山形市高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
107. *Pseudebulea fentoni* Butler モンスカシ
キノメイガ
村山市大久保大原 1♀, 8-VIII-1974¹²⁾
西川町志津 1♂, 25-VII-1975¹¹⁾
山形市高瀬戸沢 1♂, 3-VII-1984⁴⁾;
1♂, 4-VIII-1984⁴⁾
山形市不動沢 1♂, 14-VII-1984 (木俣)
西川町志津荒沢橋 1♂1♀, 15-VII-1985 (木俣)
大江町古寺鉦泉 1♂, 20-VII-1985 (木俣)
108. *Paratalanta ussurialis* (Bremer) フチグ
ロノメイガ
東根市神町 1 ex., 8-IX-1947⁸⁾
小国町叶水 1♀, 22-IX-1974 (木俣)
村山市大久保大原 1♂, 20-VI-1974¹²⁾
吾妻連峰家形山 1♂, 22-VIII-1964
(博物館所蔵)
飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 17-VII-1982
(木俣)
109. *Ostrinia palustralis memnialis* (Walker)
ユウグモノメイガ
酒田市⁹⁾
村山市大久保 1♂, 6-VI-1973¹²⁾
110. *Ostrinia latipennis* (Warren) ウスジロ
キノメイガ
西川町間沢 1♂, 25-VII-1975⁷⁾
金山町土内 1♂1♀, 9-VI-1985 (菊地)
111. *Ostrinia furnacalis* (Guenée) アワノメ
イガ
村山市大久保大原 1♀, 2-VIII-1974¹²⁾
天童市五日町 2♀♀, 18-VIII-1985 (菊地)
112. *Ostrinia orientalis* Mutuura & Munroe
西藏王高原 1♀, 18-VIII-1984³⁾
113. *Ostrinia scapularis subpacificae* Mutuura
& Munroe フキノメイガ
山形市本町 1♀, 1-IX-1961 (木俣)
酒田市 1♂, IX-1961 (白畑)
村山市大久保 1♀, 20-VI-1973¹²⁾
ク ク 大原 1♂, 30-V-1974¹²⁾
面白山 1♂, 19-VI-1982⁵⁾; 1♂,
10-VII-1982⁵⁾
天童市荒谷 1♂, 6-VIII-1982⁵⁾;
1♀, 7-VIII-1982⁵⁾
天童市五日町 1♂, 29-VI-1985 (菊地)
; 1♂, 18-VIII-1985 (菊地)
八幡町湯ノ台 1♂, 30-VI-1985 (菊地)
114. *Ostrinia zaguliaevi honshuensis* Mutuura
& Munroe
西川町月山沢 1♀, 4-VIII-1956 (白畑)
115. *Udea orbicentralis* (Christoph) ルリノメ
イガ
蔵王坊平 1 ex., 2-VII-1983³⁾
蔵王御田神 6 exs., 30-VII-1984³⁾
寒風山木葉沢 1♂5♀♀, 29-VI-1985 (木俣)
116. *Udea montensis* Mutuura コマルモンノ
メイガ
村山市大久保大原 1♂1♀, 2-VI-1974¹²⁾
西川町姥沢小屋 1♀, V-1983¹⁴⁾
117. *Udonomeiga vicinalis* (South) ウドノメ
イガ

- 天童市五日町 1 ♀, 29-VI-1985 (菊地)
118. *Pyrausta panopealis* (Walker) ベニフキノ
メイガ
村山市大久保大原 1 ♂, 31-V-1974¹²⁾
119. *Pyrausta tithonialis* Zeller ウチベニキノ
メイガ
山形市高瀬戸沢 1 ♂ 1 ♀, 3-VII-1984⁴⁾
120. *Pyrausta unipunctata* Butler ヒトモン
ノメイガ
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
121. *Pyrausta limbata* (Butler) トモンノメイ
ガ
村山市大久保大原 1 ♀, 16-VII-1974¹²⁾;
1 ♂, 19-VII-1974¹²⁾
122. *Togabotys fuscolineatalis* Yamanaka ウ
ンモンシロノメイガ
小国町叶水 1 ♀, 29-VI-1974 (木俣)
蔵王ライン 1 ♂, 7-VII-1984³⁾
山形市不動沢 1 ♂, 14-VII-1984 (木俣)
寒風山木葉沢 6 exs., 29-VI-1985 (木俣)
西川町志津荒沢橋 3 ♂♂, 15-VII-1985 (木俣)
123. *Anania verbascalis egentalis* (Christoph)
ヒメトガリノメイガ
酒田市飛鳥¹⁾
酒田市 1 ♂, VIII-1956 (白畑); 2 ♂♂,
11-VI-1961 (白畑)
村山市大久保大原 1 ♀, 21-VIII-1974¹²⁾;
1 ♂, 31-V-1974¹²⁾
124. *Anania funebris astrifera* (Butler) シロ
モンクロノメイガ
蔵王坊平 1 ♂, 2-VII-1955¹⁰⁾
- Nymphulinae ミズメイガ亜科
125. *Nymphula interruptalis* (Pryer) マダラ
ミズメイガ
村山市大久保大原 1 ♂, 19-VII-1974¹²⁾;
1 ♀, 15-VI-1974¹²⁾
西藏王高原 1 ♀, 30-VI-1984³⁾; 1 ♀,
11-VII-1984³⁾
126. *Nymphula fengwhanalisis* (Pryer) ネジロ
ミズメイガ
酒田市 1 ♀, 25-VII-1961¹⁰⁾
村山市大久保大原 1 ♀, 27-VI-1974¹²⁾;
1 ♀, 26-VII-1974¹²⁾; 1 ♂, 28-VIII-1974¹²⁾
西川町間沢 1 ♂, 25-VII-1975⁷⁾
127. *Nymphula responsalis* (Walker) ヒメマ
ダラミズメイガ
村山市大久保大原 1 ♀, 5-VIII-1974¹²⁾
北町 1 ♀, 21-VIII-1974¹²⁾
山形市高瀬 10 ♀♀, 10-IX-1983⁴⁾; 1 ♀,
16-IX-1984⁴⁾
128. *Nymphula corculina* (Butler) ギンモン
ミズメイガ
西川町志津 1 ♀, 5-VII-1973⁹⁾
129. *Nymphula bifurcalis* (Wileman) ゼニガ
サミズメイガ (Fig.31)
村山市大久保大原 1 ♂, 20-VII-1974¹²⁾;
1 ♀, 23-VII-1974¹²⁾
従来の分布は宮城県以南とされている。
130. *Cataclysta midas* Butler キオビミズメイ
ガ
村山市大久保大原 1 ♂, 16-VII-1974¹²⁾
131. *Nymphicula saigusai* Yoshiyasu アトモ
ンミズメイガ (Fig.32)
村山市大久保大原 1 ♂, 7-VIII-1974¹²⁾
- Gallerinae ツヅリガ亜科
132. *Galleria mellonella* (Linnaeus) ハチノ
スツヅリガ
西川町間沢 1 ♂, 25-VII-1975⁷⁾
幼虫はミツバチの巣を食べる養蜂上の害虫とし
て知られる。

133. *Cataprosopus monstrosus* Butler マエグ
ロツヅリカ
村山市大久保大原 1♂, 30-VII-1974¹²⁾
面白山 1 ex., 19-VII-1975⁵⁾
朝日村八久和林道 1 ex., 22-VII-1977⁸⁾
山形市二口溪谷 1 ex., 4-VII-1982⁵⁾
134. *Tirathaba irrufatella* Ragonot キヒロツ
ヅリカ (Fig.33)
村山市大久保大原 1♀, 8-VIII-1974¹²⁾
従来の分布は関東以西とされている。
135. *Aphomia zelleri* (Joannis) オオツヅリガ
村山市大久保大原 2♀♀, 16-VII-1974¹²⁾
136. *Lamoria glaucalis* Caradja アカフツ
ツリガ
村山市大久保大原 1♂, 17-VII-1974¹²⁾
北町 1♀, 20-VII-1974¹²⁾
西川町間沢 1♂, 25-VII-1975⁷⁾
蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984³⁾
西藏王高原 1♂1♀, 11-VII-1984 (木俣)
137. *Paralipsa gularis* (Zeller) ツヅリガ
酒田市¹⁾
村山市大久保 1♂, 6-VI-1973¹²⁾
幼虫は貯穀の害虫で, 人家内や倉庫に住むので,
人為的に運ばれた広分布種となっている。
- Epipaschiinae フトメイガ亜科
138. *Anartula melanophia* (Staudinger) ツマ
グロフトメイガ
面白山 1♂, 16-VIII-1975⁵⁾
山形市高瀬戸沢 3♂♂, 4-VIII-1984⁴⁾
139. *Lepidogma atribasalis* (Hampson) ネグ
ロフトメイガ
東根市 27-VIII-1962¹⁵⁾
天童市荒谷 1 ex., 28-VIII-1980⁵⁾
西藏王高原 1 ex., 30-VI-1984³⁾
山形市不動沢 1 ex., 14-VII-1984³⁾
140. *Jocara rufescens* (Hampson) クロテンアオ
フトメイガ (Fig.34)
村山市大久保大原 1♀, 20-VII-1974¹²⁾
西藏王高原 1♂, 18-VIII-1984³⁾
141. *Jocara melanobasis* (Hampson) コネア
フトメイガ
村山市大久保大原 1♂, 18-VII-1974¹²⁾
西川町間沢 1♂, 25-VII-1975⁷⁾
山形市高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
142. *Teliphasa amica* (Butler) オオフトメイガ
西川町間沢 1♂, 4-VIII-1973⁶⁾
面白山 1 ex., 16-VIII-1975⁵⁾; 1 ex.,
10-VII-1982⁵⁾
蔵王坊平 1♂, 17-VIII-1980 (木俣)
飯豊連峰スクミ平 1♀, 17-VII-1982 (木俣)
朝日村荒沢ダム 1♀, 18-VIII-1982 (木俣)
山形市高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
山形市門伝大平 1♀, 8-VII-1985 (木俣)
西川町志津荒沢橋 1♂1♀, 15-VII-1985 (木俣)
飯豊町白川ダム 1♂1♀, 23-VII-1985 (横倉)
143. *Teliphasa elegans* (Butler) ナカアオフ
トメイガ
西川町間沢 1♂, 4-VIII-1973⁶⁾
村山市北町 1♀, 24-VII-1974¹²⁾
面白山 1 ex., 24-VIII-1984 (木俣);
1 ex., 19-VII-1975 (木俣)
西川町月山沢 1 ex., 30-VIII-1979⁸⁾;
1 ex., 15-IX-1979⁸⁾; 1 ex., 11-X-1979⁸⁾
西藏王高原 2♂♂, 11-VII-1984³⁾
144. *Termioptycha nigrescens* (Warren) ク
ロフトメイガ (Fig.35)
面白山 1♂, 24-VIII-1974 (木俣)
朝日村荒沢ダム 1♀, 18-VIII-1982 (木俣)
西藏王高原 1♂, 26-VIII-1983³⁾;
1♀, 11-VII-1984³⁾; 2♂♂1♀,
18-VIII-1984³⁾

145. *Termioptycha inimica* (Butler) ソトベ
ニフトメイガ
西藏王高原 1♂, 26-VIII-1983 (木俣)
天童市荒谷 2♀♀, 3-IX-1982 (木俣)
西藏王高原 1♀, 26-VIII-1983³⁾;
1♀, 30-VI-1984³⁾; 2♂♂1♀, 11-VII
-1984³⁾; 1♂1♀, 18-VIII-1984³⁾
146. *Termioptycha margarita* (Butler) ナカ
ジロフトメイガ
新庄市新庄温泉 15-VI-1961¹⁶⁾
山形市本町 1♂, 5-VIII-1962 (木俣)
東根市 27-VIII-1962¹⁵⁾
小国町叶水 1♀, 30-V-1975 (木俣);
1♂, 14-VI-1975 (木俣)
山形市山寺 1♂, 20-VIII-1977 (博物館所蔵)
西藏王高原 1♂1♀, 14-VI-1984³⁾;
2♂♂, 11-VII-1984³⁾
山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984⁴⁾
山形市高瀬 1♀, 10-IX-1983⁴⁾
* 高瀬戸沢 1♂1♀, 3-VII-1984⁴⁾;
1♂1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
蔵王ライン 1♂1♀, 7-VII-1984³⁾
山形市不動沢 1♂, 14-VII-1984³⁾
寒風山木葉沢 2♂♂1♀, 29-VI-1985 (木俣)
山形市門伝大平 1♀, 8-VII-1985 (木俣)
147. *Lamida obscura* (Moore) ウスグロフト
メイガ (Fig.36)
西藏王高原 1♂, 11-VII-1984³⁾
山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984 (木俣)
148. *Lacastra muscosalis* (Walker) トサカフ
トメイガ
酒田市 1♀, 29-VI-1959¹⁰⁾; 1♀, 2
-VII-1959¹⁰⁾
東根市 27-VIII-1962¹⁵⁾
天童市荒谷 1 ex., 4-VIII-1982⁵⁾
149. *Craneophora ficki* Christoph ナカムラサ
キフトメイガ
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
山形市盃山 1♀, 5-VII-1971⁹⁾
村山市大久保大原 1♀, 23-VII-1974¹²⁾
西川町志津 1♂, 25-VII-1975¹¹⁾
* 間沢 1♂, 25-VII-1975⁷⁾
面白山 1♀, 16-VIII-1975⁵⁾; 1♂,
19-VI-1982⁵⁾
東根市関山 1♂, 21-VII-1978 (博物館所蔵)
蔵王坊平 1♀, 28-VII-1979³⁾
朝日村荒沢ダム 1♀, 18-VIII-1982 (木俣)
150. *Orthaga euadrusalis* Walker クロモンフ
トメイガ
西川町間沢 2♂♂, 25-VII-1975⁷⁾
151. *Orthaga onerata* (Butler) ネアオフトメ
イガ
小国町叶水 1♂, 29-VI-1974 (木俣)
面白山 1♂, 27-VII-1974 (木俣)
山形市高瀬戸沢 3♀♀, 3-VII-1984⁴⁾
* 不動沢 1♂3♀♀, 14-VII-1984 (木俣)
* 門伝大平 4♂♂1♀, 8-VII-1985 (木俣)
西川町志津荒沢橋 4♂♂3♀♀, 15-VII-1985
(木俣)
152. *Orthaga olivacea* (Warren) アオフトメ
イガ
村山市大久保大原 1♀, 23-VIII-1974¹²⁾
面白山 1♀, 16-VIII-1975⁵⁾; 1♂,
10-VI-1982⁵⁾
西川町入間 1♂, 18-VIII-1979⁸⁾
* 志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985 (木俣)
153. *Orthaga achatina achatina* (Butler) ナ
カトビフトメイガ
面白山 1 ex., 24-VIII-1974⁵⁾
村山市大久保大原 1♀, 18-VII-1974¹²⁾;
1♀, 9-VIII-1974¹²⁾
山形市門伝大平 1♀, 8-VII-1985 (木俣)

Pyralinae シマメイガ亜科

154. *Aglossa dimidiata* (Haworth) コメシマメイガ
山形市門伝大平 1♂, 8-VII-1985 (木俣)
155. *Hypsopygia regina* (Butler) トビイロシマメイガ
酒田市 1♀, 11-VII-1961¹⁰⁾
東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
村山市大久保大原 1♂, 12-VI-1974¹²⁾;
1♀, 23-VII-1974¹²⁾
天童市舞鶴山 1♀, 2-VII-1977; 1♂,
3-VII-1977 (博物館所蔵)
西川町月山沢 1 ex., 15-IX-1979⁸⁾
面白山 1 ex., 19-VI-1982⁵⁾
天童市荒谷 1 ex., 6-VIII-1982⁵⁾;
1 ex., 31-VIII-1982⁵⁾
山形市高瀬戸沢 1 ex., 3-VII-1984⁴⁾
西蔵王高原 4 exs., 11-VII-1984³⁾
天童市五日町 1♂, 19-VI-1985 (菊地);
1♂, 23-VI-1985 (菊地)
156. *Pyralis farinalis* (Linnaeus) カシノシマメイガ
西川町大井沢中村¹⁾
村山市大久保大原 1♀, 19-VI-1974¹²⁾;
1♀, 26-VI-1974¹²⁾
朝日村八久和林道 1 ex., 20-VI-1978⁸⁾
西蔵王高原 1♂, 30-VI-1984³⁾
天童市五日町 1♂1♀, 19-VI-1985 (菊地)
幼虫は貯穀, 菓子などを食べ, 成虫は家屋内で見られる。
157. *Pyralis regalis* Denis & Schiffermüller
ギンモンシマメイガ
西川町大井沢中村¹⁾
東根市神町 1 ex., 12-IX-1947⁸⁾
小国町叶水 1♀, 22-IX-1974 (木俣)
村山市大久保大原 1♂, 30-VIII-1974¹²⁾
- 西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985 (木俣)
幼虫はスズメバチ類の巣を食べるといふ。
158. *Scenedra umbrosalis* (Wileman) ムラサキシマメイガ (Fig.37)
西川町志津荒沢橋 1♂1♀, 15-VII-1985 (木俣)
159. *Tegulifera bicoloralis* (Leech) マエモンシマメイガ
村山市大久保大原 1♂, 3-VIII-1974¹²⁾
160. *Orthopygia glaucinalis* (Linnaeus) フタスジシマメイガ
東根市神町 1 ex., 5-IX-1946⁸⁾
山形市本町 1♂, 24-VIII-1961 (木俣)
東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
村山市大久保大原 1♂, 12-VI-1974¹²⁾;
1♀, 3-VIII-1974¹²⁾
面白山 1♀, 17-IX-1977 (木俣)
天童市荒谷 2 exs., 31-VIII-1982 (木俣); 2 exs., 3-IX-1982 (木俣);
1 ex., 9-IX-1982 (木俣); 2 exs., 13-IX-1982 (木俣)
山形市高瀬 1♂1♀, 10-IX-1983⁴⁾
西蔵王高原 1♀, 11-VII-1984 (木俣)
161. *Orthopygia placens* (Butler) ツマキシマメイガ
山形市不動沢 1♂, 14-VII-1984 (木俣)
162. *Herculia orthogramma* Inoue オオバシマメイガ
米沢市白布高湯 1♀, 9-X-1970¹⁰⁾
吾妻連峰新高湯 1♂, 29-IX-1971¹⁰⁾
山形市山寺 1♂2♀♀, 24-X-1976 (博物館所蔵)
面白山 1♀, 17-IX-1977 (木俣)
山形市高瀬 3♀♀, 13-XI-1983⁴⁾
西蔵王高原 2♂♂, 18-X-1984³⁾
163. *Sybrida approximans* (Leech) クシヒゲ

- シマメイガ
山形市高瀬戸沢 2♂♂1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
164. *Datanoides fasciatus* Butler オオクシヒ
ゲシマメイガ (Fig.38)
村山市北町 1♂, 30-VII-1974¹²⁾; 1♂,
31-VII-1974¹²⁾
村山市大久保大原 1♀, 29-VIII-1974¹²⁾
165. *Arippara indicator* Walker ツマグロシ
マメイガ
村山市大久保大原 1♀, 29-VII-1974¹²⁾
166. *Endotricha consocia* (Butler) ウソビ
トガリメイガ (Fig.39)
村山市大久保大原 1♀, 3-VIII-1974¹²⁾
天童市荒谷 1♂, 6-VIII-1982⁵⁾
従来の分布は宮城県以南とされている。
167. *Endotricha theonalis* (Walker)
カパイロトガリメイガ (Fig.40)
蔵王高原 1♀, 26-VIII-1983 (木俣)
従来の分布は関東以西とされている。
168. *Endotricha kuznetzovi* Whalley キモン
トガリメイガ (Fig.41)
村山市大久保大原 1♂, 15-VII-1974¹²⁾
天童市荒谷 1♀, 29-VII-1980⁵⁾
169. *Endotricha icelusalis* (Walker) オオウス
ベニトガリメイガ (Fig.42)
東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
山形市高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
170. *Endotricha portialis* Walker キベリトガ
リメイガ
村山市白鳥宮沢 1♂, 16-VI-1974¹²⁾
小国町叶水 1♀, 29-VI-1974 (木俣)
面白山 2♀♀, 10-VII-1982⁵⁾
寒風山木葉沢 1♂3♀♀, 29-VI-1985 (木俣)
山形市門伝大平 1♂2♀♀, 8-VII-1985 (木俣)
171. *Endotricha olivacealis* (Bremer) ウスベ
ニトガリメイガ (Fig.43)
村山市大久保大原 1♀, 23-VI-1974¹²⁾;
1♀, 16-VII-1974¹²⁾
小国町叶水 2♂♂, 29-VI-1974 (木俣)
西川町志津 1♂, 25-VII-1975¹¹⁾
ク 間沢 2♂♂1♀, 25-VII-1975⁷⁾
蔵王坊平 1♂, 28-VII-1979³⁾
蔵王高原 1♀, 30-VI-1984³⁾; 2♂♂
8♀♀, 11-VII-1984³⁾; 1♂6♀♀, 14-VII-1984³⁾
蔵王ライン 3♂♂5♀♀, 7-VII-1984³⁾
寒風山木葉沢 8♂♂, 29-VI-1985 (木俣)
山形市門伝大平 3♂♂, 8-VII-1985 (木俣)
- Phycitinae マダラメイガ亜科
172. *Assara funerella* (Ragonot) マエジロク
ロマダラメイガ
遊佐町吹浦 1♂6♀♀, 16-VI-1984 (木俣)
173. *Nyctegretis triangulella* Ragonot サンカ
クマダラメイガ
東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
村山市大久保大原 1♂, 16-VII-1974¹²⁾
174. *Patagoniodes nipponellus* (Ragonot) ト
ビスジマダラメイガ
小国町叶水 1♂, 22-IX-1974 (木俣)
面白山 1♀, 17-IX-1977 (木俣)
蔵王坊平 1♀, 17-VIII-1980 (木俣)
天童市荒谷 1♀, 4-IX-1982 (木俣)
蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984 (木俣)
蔵王高原 1♂, 11-VII-1984 (木俣)
175. *Cadra cautella* (Walker) スジマダラメイ
ガ
東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
幼虫は貯穀の大害虫で、米、麦、豆など種々の
穀物の粉を食害する。
176. *Plodia interpunctella* (Hübner) ノシメ
マダラメイガ
村山市大久保大原 2♂♂, 10-VI-1974¹²⁾

- 山形市陣場 1♂4♀♀, 29-V-1985(木俣)
本種の幼虫は貯蔵穀物の大害虫で, 米, クルミ, マメ類, 乾果, 菓子などを食害する。成虫は家屋内の生活によく適応し, 人家の中を飛んでいるのをよく見かける。
177. *Nephoterix bicolorella* Leech ナカアカスジマダラメイガ
西藏王高原 1♂, 11-VII-1984³⁾
西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985(木俣)
178. *Nephoterix adelphella* (Fischer von Röslerstamm) ヒメアカマダラメイガ
東根市 26-VIII-1962¹⁵⁾
179. *Nephoterix mikadella* (Ragonot) ミカドマダラメイガ
面白山 1♂, 10-VII-1982(木俣)
180. *Nephoterix intercisella* Wileman ヤマトマダラメイガ (Fig.44)
山形市本町 1♀, 30-VII-1962(木俣)
従来の分布は宮城県以南とされている。
181. *Salebria semirubella* (Scopoli) アカマダラメイガ
酒田市飛島¹⁾
上山市菖蒲 1♂, 30-VIII-1956¹⁰⁾
最上町花立峠 1♀, 16-VII-1961¹⁰⁾
天童市荒谷 1♀, 11-IX-1980(木俣)
山形市高瀬 1♀, 10-IX-1983⁴⁾
西藏王高原 1♀, 11-VII-1984³⁾
山形市門伝大平 1♂1♀, 8-VII-1985(木俣)
182. *Elasmopalpus bipartitellus* Leech ネアカマダラメイガ
山形市瀬ノ原山 3♂♂2♀♀, 7-VI-1984⁴⁾
183. *Oligochroa bilineatella* (Inoue) ウスジロフタスジマダラメイガ (Fig.45)
寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985(木俣)
本種は関東, 北陸, 四国の山地でとれているが, まれな種とされている。
184. *Acrobasis rufilimbalis* (Wileman) ヒメトビネマダラメイガ
山形市不動沢 1 ex., 14-VII-1984³⁾
寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985(木俣)
185. *Acrobasis bellulella* (Ragonot) ナシモンクロマダラメイガ
村山市大久保大原 1♂, 17-VII-1974¹²⁾; 1♀, 23-VII-1974¹²⁾
186. *Dioryctria sylvestrella* (Ratzeburg) マツノシンマダラメイガ
酒田市 1♀, VII-1961¹⁰⁾
面白山 1♂, 24-VIII-1974(木俣)
天童市荒谷 1♀, 4-IX-1982(木俣)
幼虫はマツの害虫で, 新梢に食入し, 時には球果や幹にも食入するという。
187. *Dioryctria abietella* (Denis & Schiffermüller) マツノマダラメイガ
面白山 1 ex., 17-IX-1977(木俣)
蔵王坊平 1 ex., 17-VIII-1980³⁾
本種の幼虫もマツの害虫として知られている。
188. *Calguia defigialis* Walker ウスアカムササキマダラメイガ
村山市大久保大原 1♀, 23-VIII-1974¹²⁾
山形市瀬ノ原山 2♂♂, 7-VI-1984⁴⁾
高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984⁴⁾
189. *Ectomyelois pyrivorella* (Matsumura) ナシマダラメイガ
東根市 1♀, 28-VIII-1962¹⁵⁾
西川町間沢 1♀, 25-VII-1975⁷⁾
幼虫はナシの害虫で果実に食入する。
190. *Eurhodope dichromella* Ragonot フタグロマダラメイガ
酒田市 1♂, 10-V-1961¹⁰⁾
191. *Eurhodope pseudodichromella* Yamanaka コフタグロマダラメイガ
山形市瀬ノ原山 1♀, 7-VI-1984⁴⁾

- 寒風山木葉沢 1 ex., 29-VI-1985(木俣)
192. *Eurhodope hollandella* Ragonot トビネ
マダラメイガ
山形市不動沢 1 ♀, 14-VII-1984(木俣)
西川町志津荒沢橋 1 ♂, 15-VII-1985(木俣)
193. *Sacculocornutia monotonella* (Caradja)
ハイイロマダラメイガ(Fig.46)
西川町志津荒沢橋 1 ♂, 15-VII-1985(木俣)
本種は富山県や石川県でとれているが, その他の分布についてはあまりよく知られていない。
194. *Conobathra frankella* Roesler オオアカオ
ビマダラメイガ
村山市大久保大原 1 ♀, 18-VII-1974¹²⁾
山形市高瀬戸沢 1 ♂, 4-VIII-1984⁴⁾
195. *Cryptoblabes angustipennella* Ragonot
カラマツマダラメイガ
山形市不動沢 1 ex., 4-VI-1984³⁾
蔵王ライン 1 ♂1 ♀, 7-VII-1984(木俣)
幼虫はカラマツの葉を食べる害虫として知られている。
196. *Ceroprepes ophthalmicella* (Christoph)
ウスアカモンクロマダラメイガ
東根市 27-VIII-1962¹⁵⁾
鳥海山河原宿 VIII-1966²⁾
面白山 2 exs., 24-VIII-1974(木俣)
蔵王御田神 1 ♂, 30-VII-1984(木俣);
1 ♂, 14-VIII-1984(木俣)
西川町志津荒沢橋 1 ♀, 15-VII-1985(木俣)
197. *Ceroprepes patriciella* Zeller ウスアカ
ネマダラメイガ
寒風山木葉沢 1 ♂, 29-VI-1985(木俣)
198. *Etielloides curvellus* Shibuya ナシハマ
キマダラメイガ
山形市不動沢 1 ex., 4-VI-1984(木俣)
〃 瀬ノ原山 1 ♂3 ♀♀, 7-VI-1984⁴⁾
蔵王高原 1 ex., 14-VI-1984(木俣)
- 幼虫はナシやリンゴの葉を食害する。
199. *Emmalocera gensanalis* South オオマエ
ジロホソメイガ
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
村山市大久保大原 1 ♂, 24-VII-1974¹²⁾

DREPANIDAE カギバガ科

この科には小型から中型の蛾が多く, 日本には30種を産するが, 県内には今のところ次の11種しかわかっていない。

Drepaninae カギバガ亜科

1. *Agnidra scabiosa scabiosa* (Butler) マエキ
カギバ
鳥海山ソブ谷地²⁾
山形市奥山寺 1 ♂, 30-VI-1973⁵⁾
小国町叶水 2 ♀♀, 14-VI-1975(木俣)
小国町 1 ♀, 27-VI-1975(山谷)
蔵王坊平 2 ♂♂, 17-VIII-1980³⁾
面白山 1 ♂, 19-VI-1982(木俣)
山形市瀬ノ原山 1 ♀, 7-VI-1984⁴⁾
蔵王高原 1 ♀, 14-VI-1984(木俣)
上市市蔵王ライン, 1 ♀, 7-VII-1984(木俣)
蔵王御田神 1 ♂, 30-VII-1984³⁾
山形市高瀬戸沢 2 ♀♀, 4-VIII-1984⁴⁾
2. *Pseudalbara parvula* (Leech) ヒメハイイ
ロカギバ
西川町志津 1 ♂, 5-VII-1973⁹⁾
小国町片貝 1 ♂, 9-VI-1974⁹⁾
面白山 2 ♂♂, 24-VIII-1974⁵⁾
西川町志津 1 ♂, 25-VII-1975¹¹⁾
蔵王坊平 1 ♂, 17-VIII-1980³⁾
山形市不動沢 1 ♂, 14-VII-1984³⁾
蔵王高原 1 ♂, 18-VIII-1984³⁾
3. *Nordstromia japonica* (Moore) ヤマトカギ
バ

- 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
 蔵王坊平 1♂1♀, 17-VIII-1980³⁾;
 1♂, 7-IX-1980³⁾
 山形市瀬ノ原山 1♀, 7-VI-1984⁴⁾
 蔵王高原 1♂, 30-VI-1984³⁾; 2♂♂
 1♀, 18-VIII-1984³⁾; 2♂♂1♀,
 15-IX-1984 (木俣)
 蔵王御田神 1♀, 30-VII-1984³⁾
 飯豊連峰スクミ平 1♀, 24-VIII-1968⁸⁾
 これは先に, *N. grisearia* エゾカギバとして
 報告したものであるが⁸⁾, 本種の誤りだった
 ので訂正する。
4. *Sabra harpagula olivacea* (Inoue) ウスオ
 ビカギバ
 米沢市白布高湯 1♀, 2-VIII-1980 (木俣)
 蔵王ライン 1♂1♀, 7-VII-1984³⁾
5. *Drepana curvatula acuta* Butler オビカギ
 バ
 鳥海山千疊ヶ原¹⁾
 新庄市新庄温泉 1♀, 16-VI-1961 (木俣)
 鳥海山ソブ谷地²⁾
 ♪ 千疊ヶ原 1♂, 26-VII-1969⁸⁾
 飯豊連峰スクミ平 1♀, 23-VIII-1969⁸⁾
 米沢市愛宕山 1♀, 14-VI-1970 (山谷)
 西川町志津 1♀, 6-VII-1973⁹⁾
 小国町叶水 1♂, 14-VI-1975 (木俣)
 米沢市白布高湯 1♀, 2-VIII-1980 (木俣)
 蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984³⁾
 寒風山木葉沢 5♂♂3♀♀, 29-VI-1985 (木俣)
6. *Callidrepana palleola* (Motschulsky) ウス
 イロカギバ
 面白山 1♀, 24-VIII-1974 (木俣)
 西川町月山沢 1♂, 15-IX-1979⁸⁾
 蔵王坊平 1♂, 17-VIII-1980³⁾; 1♂,
 7-IX-1980³⁾
 蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984³⁾
- 上山市舟引山 1♀, 16-VII-1984 (木俣)
 蔵王御田神 1♀, 30-VII-1984 (木俣)
 蔵王高原 2♂♂1♀, 15-IX-1984 (木俣)
7. *Deroca inconclusa phasma* Butler ホシベ
 ッコウカギバ
 温海町摩耶山 1♂1♀, 20-IX-1959⁸⁾
 ♪ 平沢 1♂, 13-VI-1970¹⁰⁾
 鶴岡市金峰山 1♂1♀, 7-VI-1970¹⁰⁾
 羽黒山 1♂, 15-VI-1973⁹⁾
 面白山 1♂, 19-VIII-1973⁵⁾; 1♀,
 15-VII-1975⁵⁾; 4♂♂, 20-VI-1982⁵⁾
 山形市二口溪谷 2♀♀, 4-VII-1982⁵⁾
8. *Callicilix abraxata abraxata* Butler マダ
 ラカギバ (Fig.47)
 山形市二口溪谷 1♂, 22-VIII-1973⁵⁾;
 1♀, 4-VII-1982⁵⁾
9. *Auzata superba superba* (Butler) ヒトツメ
 カギバ
 吾妻連峰家形山¹⁾
 山形市上宝沢¹⁾
 真室川町及位 1♂, 22-VI-1965¹⁰⁾
 戸沢村今神温泉 1♀, 6-IX-1968¹⁰⁾
 温海町摩耶山 1♀, 22-VIII-1972⁸⁾
 山形市奥山寺 1♂1♀, 30-VI-1973⁵⁾
 面白山 1♀, 17-IX-1977⁵⁾; 1♀, 20
 -VI-1982⁵⁾
 西川町桧原 1♀, 18-VII-1979⁸⁾
 ♪ 月山沢 1♂3♀♀, 15-IX-1979⁸⁾
 山形市高瀬戸沢 2♀♀, 3-VII-1984 (木俣)
 蔵王ライン 1♂3♀♀, 7-VII-1984³⁾
 蔵王高原 2♂♂, 11-VII-1984³⁾;
 1♀, 15-IX-1984 (木俣)
- Oretinae フトカギバ亜科
10. *Oreta pulchripes* Butler アンペニカギバ
 鳥海山千疊ヶ原¹⁾

鳥海山千疊ヶ原 1♀, 26-VII-1970⁸⁾

◦ ソブ谷地 VIII-1966²⁾

酒田市 1♀, X-1959⁸⁾

◦ 北千日町 1♀, IX-1968¹⁰⁾

小国町 1♀, 2-IX-1971(山谷)

羽黒山 1♀, 13-IX-1972⁹⁾

西川町上島 1♀, 2-IX-1979⁸⁾

天童市荒谷 1♀, 17-VI-1980⁵⁾

蔵王坊平 1♀, 17-VIII-1980³⁾

面白山 1♂1♀, 19-VI-1982⁵⁾

山形市高瀬戸沢 2 exs., 4-VIII-1984⁴⁾

11. *Hypsomadius insignis* Butler アカウラカ
ギバ(Fig.48)

温海町湯温海 1♀, 5-VI-1961¹⁰⁾

金山町主寝坂 1♀, 3-X-1974⁹⁾

面白山 1♂, 17-IX-1977(木俣)

山形市高瀬 1♂, 16-IX-1984⁴⁾

従来の分布は宮城県以南とされている。

CYCLIDIIDAE オオカギバガ科

この科は小さな科で、日本産は2種あるが、2種とも県内に産する。

1. *Cyclidia substigmatica nigralbata* Warren

オオカギバ

山形市山寺 1♂1♀, 17-VI-1973⁵⁾

2. *Mimozethes argentilinearia* (Leech) ギン
スジカギバ

上市市菖蒲 1♀, 30-VIII-1956¹⁰⁾

鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾

面白山 3 exs., 20-VI-1982(木俣)

山形市二口溪谷 1 ex., 4-VII-1982⁵⁾

◦ 高瀬戸沢 2♀♀, 3-VII-1984(木俣)

蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984³⁾

この属はもとフトオガ科に入れられていたので、ギンスジフトオの和名が長い間使われていた。

THYATIRIDAE トガリバガ科

主として中型の蛾で、日本には38種を産するが、県内からは次の24種が知られている。

1. *Euparyphasma maxima* (Leech) ナガトガ
リバ(Fig.49)

蔵王坊平 2♂♂, 17-VIII-1980³⁾

2. *Thyatira batis japonica* Werny モントガ
リバ

酒田市 1♂, 19-VI-1953¹⁰⁾; 1♂,
5-IX-1961¹⁰⁾

山形市内 1♂, 17-IX-1960(博物館所
蔵); 1♂, 21-IX-1960(博物館所蔵)

鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾

西川町間沢 1♂, 4-VIII-1973⁶⁾

小国町叶水 2♂♂1♀, 14-VI-1975(木俣)

面白山 2 exs., 16-VIII-1975⁵⁾; 2 exs.,
30-V-1982⁵⁾; 1 ex., 19-VI-1982⁵⁾

山形市松波 1♂, 6-VIII-1977(木俣)

朝日村八久和林道 1 ex., 20-VI-1978⁸⁾

西川町月山沢 1 ex., 15-IX-1979⁸⁾

蔵王坊平 1 ex., 17-VIII-1980³⁾

天童市荒谷 1 ex., 16-IX-1980⁵⁾; 1 ex.,
1-IX-1982⁵⁾; 1 ex., 4-IX-1982⁵⁾

蔵王ライン 1♂1♀, 7-VII-1984³⁾

蔵王御田神 3♀♀, 30-VII-1984³⁾;

2♂♂2♀♀, 14-VIII-1984³⁾

山形市高瀬戸沢 3♂♂, 4-VIII-1984⁴⁾

3. *Macrothyatira flavida flavida* (Butler)

キマダラトガリバ

朝日連峰天狗小屋 1♀, 7-VIII-1961¹⁾
(博物館所蔵)

鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾

◦ 河原宿 VIII-1966²⁾

西川町志津 1♂, 5-VII-1973⁹⁾

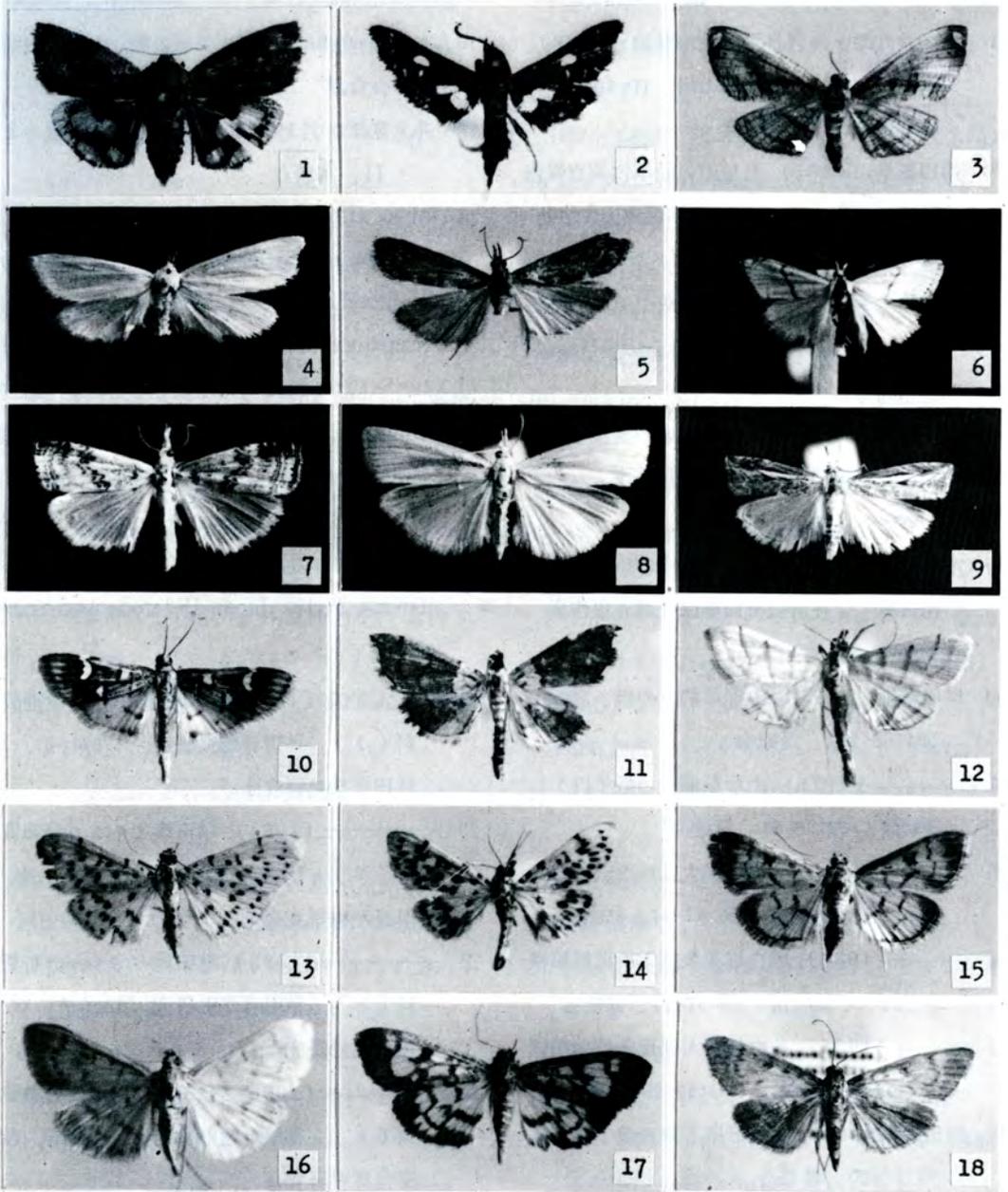
蔵王御田神 3 exs., 30-VII-1984³⁾;

- 1 ♀, 14-VIII-1984³⁾
4. *Monothyatira pryeri* (Butler) ウスベニトガ
リバ
山形市沼の辺 1983¹³⁾
5. *Habrosyne pyritoides derasoides* (Butler)
アヤトガリバ
朝日連峰天狗小屋 1 ♂, 14-VIII-1954¹⁰⁾
酒田市 1 ex., IX-1959⁹⁾
山形市内 1 ♂, 18-IX-1960 (博物館所蔵)
ク 松波 1 ♀, 29-VIII-1977 (木俣)
蔵王坊平 1 ♀, 28-VII-1979³⁾; 1 ♂,
7-IX-1980³⁾
天童市荒谷 1 ♂, 5-IX-1980⁵⁾; 1 ♂,
9-IX-1980⁵⁾
蔵王ライン 4 ♂♂, 7-VII-1984³⁾
寒風山木葉沢 3 ♂♂, 29-VI-1985 (木俣)
6. *Habrosyne dieckmanni roseola* Matsumura
ウスベニアヤトガリバ
鳥海山千疊ヶ原¹⁾
朝日連峰天狗小屋¹⁾
山形市本町 1 ♀, 31-VIII-1961 (博物館所蔵)
鳥海山 1 ♂, 26-VII-1969⁸⁾
小国町叶水 1 ♂, 14-VI-1975 (木俣)
西川町志津 1 ♂, 25-VII-1975¹¹⁾
面白山 1 ♀, 19-VI-1982⁵⁾
山形市不動沢 2 ♀♀, 14-VII-1984 (木俣)
蔵王御田神 1 ♂, 14-VIII-1984³⁾
大江町古寺鉾泉 1 ♂, 20-VII-1985 (木俣)
7. *Habrosyne aurorina aurorina* (Butler)
ヒメウスベニトガリバ
山形市高瀬 1 ex., 19-VIII-1971 (木俣)
ク 高瀬戸沢 2 ♂♂, 3-VII-1984⁴⁾;
2 ♂♂, 4-VIII-1984⁴⁾
山形市不動沢 1 ♂, 14-VII-1984 (木俣)
蔵王御田神 1 ♂1 ♀, 14-VIII-1984³⁾
8. *Tethea ampliata ampliata* (Butler) オオバ
トガリバ
山形市奥山寺 1 ♂, 30-V-1973 (木俣)
小国町叶水 1 ♂3 ♀♀, 29-VI-1974 (木俣);
1 ♂2 ♀♀, 14-VI-1975 (木俣)
面白山 1 ♀, 19-VII-1975⁵⁾; 1 ♀,
19-VI-1982⁵⁾
西川町志津 1 ♂, 25-VII-1975¹¹⁾
山形市高瀬戸沢 2 ♂♂, 3-VII-1984 (木俣)
蔵王ライン 5 ♂♂7 ♀♀, 7-VII-1984³⁾
山形市不動沢 1 ♀, 14-VII-1984 (木俣)
寒風山木葉沢 1 ♂, 29-VI-1985 (木俣)
9. *Tethea octogesima* (Butler) ホソトガリバ
朝日村荒沢ダム 2 ♀♀, 18-VIII-1982 (木俣)
西川町志津荒沢橋 1 ♂, 15-VII-1985 (木俣)
大江町古寺鉾泉 1 ♂, 20-VII-1985 (木俣)
飯豊町白川ダム 1 ♂1 ♀, 23-VII-1985 (横倉)
10. *Tethea albicostata japonibia* Werny マエ
シロトガリバ (Fig.50)
西川町間沢 2 ♂♂, 4-VIII-1973⁶⁾
面白山 2 exs., 27-VII-1974⁵⁾; 1 ex.,
19-VII-1975⁵⁾
11. *Tethea trifolium* (Alphéraky) マエベニト
ガリバ
小国町沼沢 1 ♀, 26-VI-1973⁹⁾
ク 叶水 2 exs., 14-VI-1975 (木俣)
西川町志津 1 ♂, 25-VII-1975¹¹⁾
12. *Tethea consimilis consimilis* (Warren) オ
オマエベニトガリバ
吾妻連峰天元台 1 ♂, 19-VIII-1965
(博物館所蔵)
面白山 1 ex., 24-VIII-1974⁵⁾; 1 ex.,
30-V-1982⁵⁾; 2 exs., 19-VI-1982⁵⁾;
1 ex., 10-VII-1982⁵⁾
山形市高瀬戸沢 5 ♂♂2 ♀♀, 3-VII-1984⁴⁾
蔵王ライン 4 exs., 7-VII-1984³⁾
山形市不動沢 1 ♂, 14-VII-1984 (木俣)

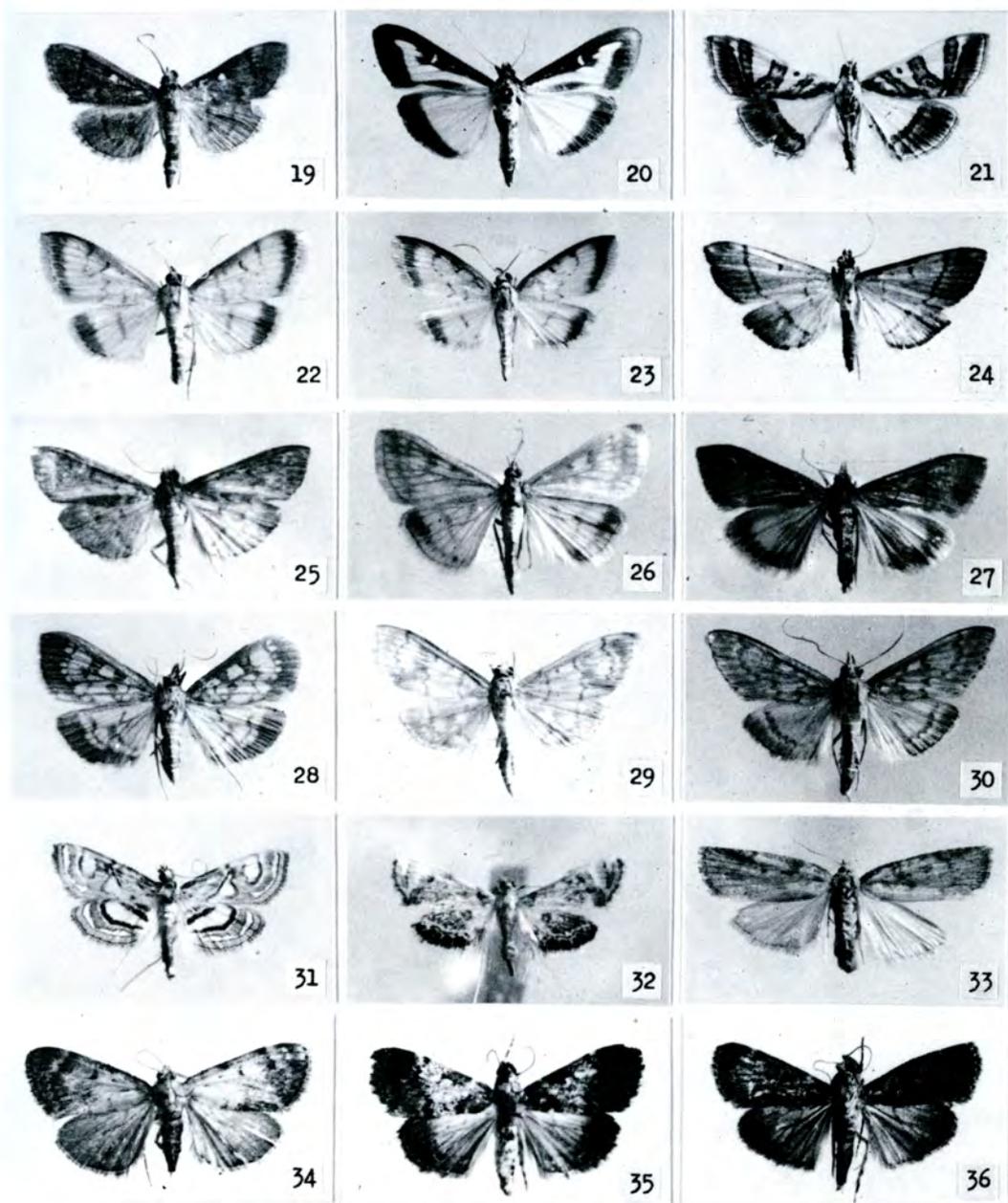
- 寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985 (木俣) 2♂♂, 17-VIII-1980³⁾
13. *Tetheella fluctuosa isshikii* (Matsumura) 朝日村荒沢ダム 1♂4♀♀, 18-VIII-1982
ヒトテントガリバ (Fig.51) (木俣)
- 米沢市白布高湯 1♂, 22-VI-1965 山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984 (木俣)
- (博物館所蔵)
18. *Epipsestis nikkoensis* (Matsumura) ニッコ
山形市不動沢 1♂, 14-VII-1984³⁾ ウトガリバ (Fig.53)
- 蔵王御田神 1♂, 30-VII-1984 (木俣) 小国町叶水 1♂, 12-X-1975 (木俣);
14. *Togaria tancrei* (Graeser) ヒメナカジロト 2♀♀, 3-XI-1977 (木俣);
ガリバ 山形市高瀬 1♂, 6-XI-1983⁴⁾
- 吾妻連峰新高湯 1♂, 1-IX-1971 (博物 19. *Epipsestis perornata* Inoue ウスムラサキト
館所蔵); 1♂, 1-IX-1971⁹⁾; 1♂, ガリバ
29-IX-1971⁸⁾ 吾妻連峰新高湯 1♂, 29-IX-1971⁹⁾
15. *Togaria suzukiana* Matsumura ナカジロ 20. *Mimopsestis basalis* (Wileman) ネグロト
トガリバ (Fig.52) ガリバ
- 山形市本町 1 ex., 24-X-1961 (木俣) 新庄市新庄温泉 15-VI-1961¹⁶⁾
- ク高瀬 1♀, 6-XI-1983⁴⁾ 小国町叶水 1 ex., 29-VI-1974 (木俣)
- 西藏王高原 2♂♂, 18-X-1984³⁾; 1♂, 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
- 23-X-1984 (木俣) 西川町間沢 3♂♂2♀♀, 4-VIII-1973⁶⁾
16. *Parapsestis argenteopicta* (Oberthür) ギン 21. *Kurama mirabilis* (Butler) サカハチトガリ
モントガリバ バ
- 新庄市新庄温泉 15-VI-1961¹⁶⁾ 山形市沼の辺 1983¹³⁾
- 酒田市北千日町 1♂, 16-VI-1968 (博物館所蔵) 西藏王高原 1♂, 29-V-1984³⁾
- 小国町叶水 3♂♂2♀♀, 29-VI-1974 (木俣); 22. *Neoploca arctipennis* (Butler) マユミトガ
2♂♂2♀♀, 14-VI-1975 (木俣) リバ
- 面白山 1♂, 19-VII-1975 (木俣) 山形市沼の辺 1983¹³⁾
- 西藏王高原 1♂1♀, 11-VII-1984³⁾ 西藏王高原 1♀, 24-IV-1983³⁾; 1♂,
17. *Parapsestis umbrosa* (Wileman) ウスジロ 27-IV-1984³⁾ (Fig.54); 1♂, 19-V-1984³⁾
トガリバ 写真 (Fig.54) は, 斑紋に変異のあるもの。
- 蔵王山 1♂, 22-VII-1962 (木俣) 23. *Demopsestis punctigera* (Butler) ホシボン
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾ トガリバ
- 西川町志津 1♂, 5-VII-1973⁹⁾; 2♀♀, 山形市沼の辺 1983¹³⁾
- 25-VII-1975¹¹⁾ 24. *Mesopsestis undosa* (Wileman) ナミスジト
西川町間沢 1♂1♀, 3-VIII-1973⁶⁾ ガリバ
- 小国町叶水 1♀, 14-VI-1975 (木俣) 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966²⁾
- 面白山 1♂, 19-VII-1975⁵⁾
- 蔵王坊平 3♂♂1♀, 28-VII-1979³⁾;

4. 引用文献及び参考文献

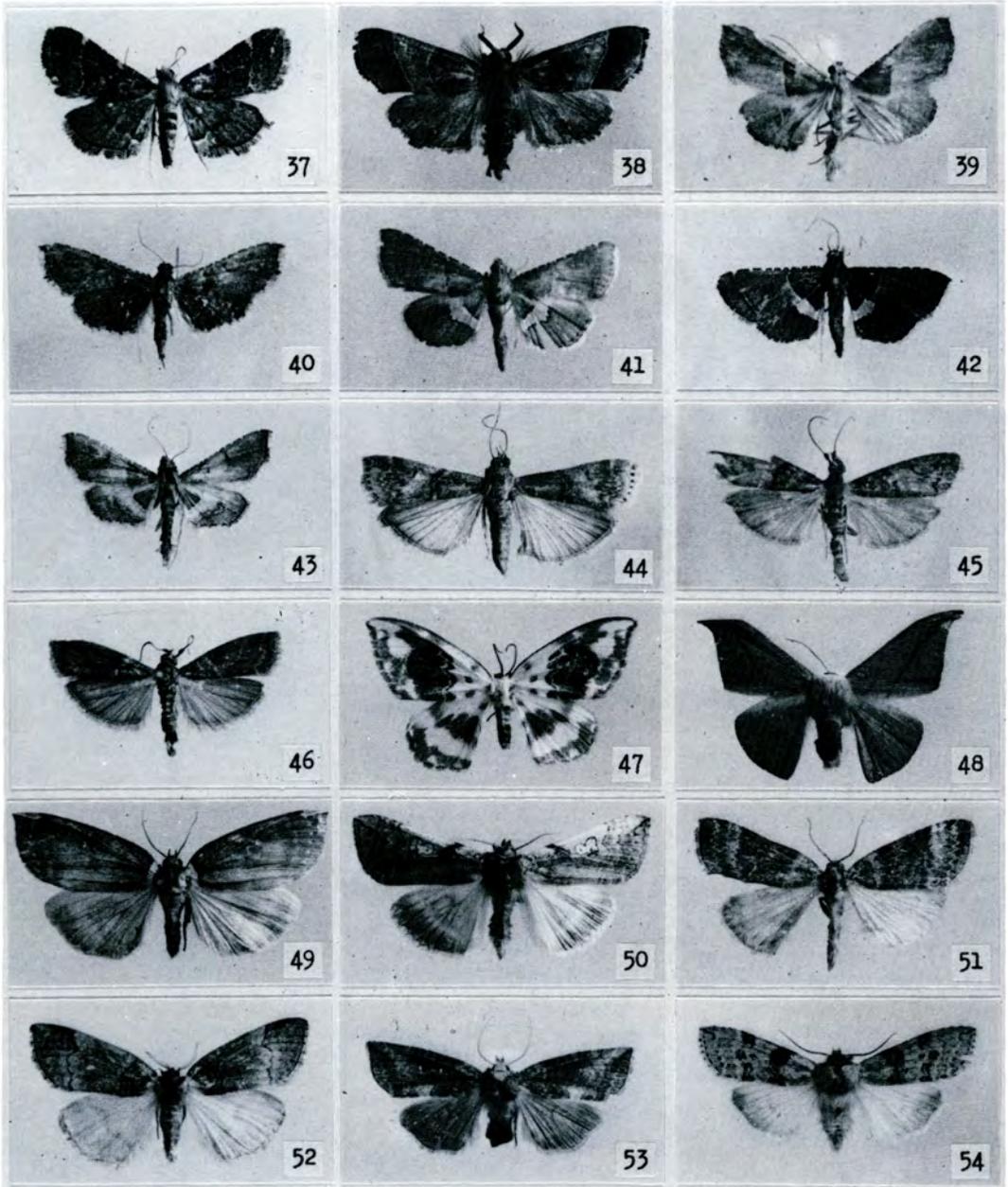
- 1) 白畑孝太郎・黒沢良彦・菊地賢治 (1982) 山形県産昆虫目録, 最上川 pp.463-553, 山形県総合学術調査会
- 2) 柳田慶浩 (1967) 鳥海山の動植物調査報告, 早稲田生物 16:35-44, 早稲田大学生物同好会
- 3) 木俣繁・菊地賢治 (1985) 蔵王連峰の昆虫類, 蔵王連峰 pp.294-333, 山形県総合学術調査会
- 4) 木俣繁 (1985) 高瀬川上流域の昆虫類, 高瀬川上流環境保全計画調査報告書 pp.33-57, 山形市
- 5) 木俣繁・菊地賢治 (1982) 立谷川上流域の昆虫類, 立谷川上流環境保全調査報告書 pp.279-301, 山形市
- 6) 岸田泰則 (1974) 山形県間沢の蛾, 誘蛾燈 58:108-112, 誘蛾会
- 7) ——— (1975) 山形県間沢の蛾 (II), 誘蛾燈 62:35-44, 誘蛾会
- 8) 木俣繁 (1984) 故白畑孝太郎氏所蔵蛾類標本 (I), 誘蛾燈 96:87-94, 誘蛾会
- 9) ——— (1985) 故白畑孝太郎氏所蔵蛾類標本 (II), 誘蛾燈 99:31-34, 誘蛾会
- 10) ——— (1986) 故白畑孝太郎氏所蔵蛾類標本 (III), 誘蛾燈, 103:17-25, 誘蛾会
- 11) 岸田泰則 (1977) 山形県志津の蛾, 誘蛾燈 67:16-20, 誘蛾会
- 12) 高谷太 (1975) 郷土昆虫標本目録, 山形県立村山農業高等学校生物クラブ
- 13) 武田隆・横倉明 (1983) 糖蜜採集で得られた蛾, 山形昆虫同好会誌 12:23-25
- 14) 市川和夫 (1985) 5月下旬, 月山々麓姥沢小屋付近の蛾, 寄せ蛾記 45:624-626, 埼玉昆虫談話会
- 15) 村木弘昌 (1962) 山形県東根市に於ける蛾類採集記録, 誘蛾燈 13:44-47, 誘蛾会
- 16) 木俣繁 (1964) 新庄温泉の蛾, 山形昆虫同好会誌 2(1):3-4
- 17) 井上寛ほか (1982) 日本産蛾類大図鑑 I・II, 講談社
- 18) Inoue, H. and Yamanaka, H. (1975) A revision of the Japanese species formerly assigned to the genus *Macalla* Walker (Lepidoptera:Pyralidae), Bull. Fac. domestic Sci., Otsuma Woman's Univ. 11:95-112
- 19) Yamanaka, H. (1984) Revisional study of some species of *Bradina* Lederer from Japan, China and Taiwan (Lepidoptera:Pyralidae, Pyraustinae) TINEA 11(19), Japan Heterocerists' Society
- 20) 佐々木明夫 (1983) 秋田県のメイガ分布資料 (1), 秋田自然史研究 17:11-13, 秋田自然史研究会
- 21) ——— (1984) 秋田県のメイガ分布資料 (2), 秋田自然史研究 18:1-5, 秋田自然史研究会
- 22) ——— (1985) 秋田県のメイガ分布資料 (3), 秋田自然史研究 19:5-8, 秋田自然史研究会
- 23) ——— (1986) 秋田県のメイガ分布資料 (4), 秋田自然史研究 20:9-16, 秋田自然史研究会
- 24) Sasaki, A. (1985) Taxonomic notes on *Crambus hachimantaiensis* (Okano) (Lepidoptera, Pyralidae) in Japan, TINEA 12(4), Japan Heterocerists' Society



Figs. 1~18. 1. *Hyblaea fortissima* Butler ニホンセセリモドキ 2. *Thyris usitata* Butler マドガ 3. *Rhodoneura pallida* (Butler) ウスマダラマドガ 4. *Scirpophaga xanthophyga* Schawerda ニセムモンシロオオメイガ 5. *Eudonia japanalpina* Inoue アルプスヤマメイガ 6. *Pseudargyria interruptella* (Walker) ホソスジツトガ 7. *Chrysoteuchia porcelanella* (Motschulsky) ナカモンツトガ 8. *Crambus hachimantaiensis* Okano ミヤマウスギンツトガ 9. *Platytes ornatella* (Leech) ナガハマツトガ 10. *Cotachena alysoni* Whalley クロスカシトガリノメイガ 11. *Agrotera posticalis* Wileman クロウスムラサキノメイガ 12. *Pagyda quinquelineata* Hering マタスジノメイガ 13. *Conogethes punctiferalis* (Guenée) モモノゴマダラノメイガ 14. *Conogethes* sp. マツノゴマダラノメイガ 15. *Goniorhynchus exemplaris* Hampson クロスノメイガ 16. *Pleuroptya ruralis* (Scopoli) ウコンノメイガ 17. *Sylepta taiwanalis* Shibuya タイワンモンキノメイガ 18. *Sylepta invalidalis* South ツチイロノメイガ



Figs. 19~36. 19. *Sylepta pallidinotalis* (Hampson) ホソオビツチイロノメイガ 20. *Glyphodes perspectalis* (Walker) ツゲノメイガ 21. *Glyphodes duplicalis* Inoue, Munroe & Mutuura クワノメイガ 22. *Simibotys evenoralis* (Walker) セスジノメイガ 23. *Simibotys obliquilinealis* Inoue ヒメセスジノメイガ 24. *Bradina angustalis pryeri* Yamanaka アカウスグロノメイガ 25. *Herpetogramma licarsisalis* (Walker) クロオビクロノメイガ 26. *Sitochroa verticalis* (Linnaeus) クロミヤクノメイガ 27. *Uresiphita prunipennis* (Butler) ウスベニオオノメイガ 28. *Uresiphita gracilis* (Butler) ウラジロキノメイガ 29. *Pronomis delicatalis* (South) ミカエリソウノメイガ 30. *Nomis albopedalis* Motschulsky ホシオビホソノメイガ 31. *Nymphula bifurcalis* Wileman ゼニガサミズメイガ 32. *Nymphicula saigusai* Yoshiyasu アトモンミズメイガ 33. *Tirathaba irrufatella* Ragonot キイロツヅリガ 34. *Jocara rufescens* (Hampson) クロテンアオフトメイガ 35. *Termioptycha nigrescens* (Warren) クロフトメイガ 36. *Lamida obscura* (Moore) ウスグロフトメイガ



Figs. 37~54. 37. *Scenedra umbrosalis* (Wileman) ムラサキシマメイガ 38. *Datanoides fasciatus* Butler オオクシヒゲシマメイガ 39. *Endotricha consocia* (Butler) ウスオビトガリメイガ 40. *Endotricha theonalis* (Walker) カバイロトガリメイガ 41. *Endotricha kuznetzovi* Whalley キモントガリメイガ 42. *Endotricha icelusalis* (Walker) オオウスベントガリメイガ 43. *Endotricha olivacealis* (Bremer) ウスベントガリメイガ 44. *Nephtopterix intercisella* Wileman ヤマトマダラメイガ 45. *Oligochroa bilineatella* (Inoue) ウスジロフタスジマダラメイガ 46. *Sacculocornutia monotonella* (Caradja) ハイイロマダラメイガ 47. *Callicilix abraxata abraxata* Butler マダラカギバ 48. *Hypsomadius insignis* Butler アカウラカギバ 49. *Euparyphasma maxima* (Leech) ナガトガリバ 50. *Tethea albicostata japonibia* Werny マエジロトガリバ 51. *Tetheella fluctuosa ishikii* (Matsumura) ヒトテントガリバ 52. *Togaria suzukiana* Matsumura ナカジロトガリバ 53. *Epipsestis nikkoensis* (Matsumura) ニッコウトガリバ 54. *Neoploca arctipennis* (Butler) マユミトガリバ

宮」・「仙人権現」の三種となっており、「といろう湖」・「砥色湖」・「トイラカフチ」・「といろが湖」と、記載している絵図すべてが異なった名称を注記している湖は、敗戦の部将が身を投じたという伝承を伝える、隼の難所のすぐ下流にある湖である。^(注1)

本稿は、特別企画展「最上川―紅花の道―」開催にあたり借用、展示し、あわせて閲覧する機会をえた、現在知られている最上川絵図のすべてについて、その記載内容を紹介するのが目的である。もとより分折にまでは到っていないが、今後の最上川舟運の研究に少しでも役立てば幸いである。

最後に、快く借用、展示そして閲覧の機会を与えて下さった所蔵者および関係機関の方々、特別企画展の企画から実施、そして本稿の作成まで種々御教示をいただいた柴田謙吾氏をはじめ、多数の方々からのお礼を申し上げたい。

注1. 建設省東北地方建設局・山形県「ふるさとの川 最上川」

(昭和五十七年)

2. 山形県立博物館「最上川―紅花の道―」(特別企画展図録、昭和六十年)所収「展示資料目録」参照

3. 外に、最上川舟運研究家柴田謙吾氏が描いた最上川絵図がある。俳画を描く氏が、永年の調査研究をもとに昭和五十四年に完成したもので、幅六〇センチメートル、長さ約四〇メートルの長大な絵図である。

4. 小野寺淳「絵図にみる近世河川航路の空間認識」(『歴史地理学紀要』27、昭和六十年)、「絵図にみる最上川の空間認識」(『地方史研究協議会「流域の地方史―社会と文化―」、昭和六

十年)

5. 小野寺淳「絵図にみる最上川の空間認識」(前掲)

6. 筆者は、山形県立博物館「紅花のすべて展―紅花と最上川―」(昭和五十七年)や同「最上川―紅花の道―」(前掲)等で、舟運への利用範囲を重視して榎野目・左沢間と紹介してきたが、実際に描かれている範囲は米沢・左沢間である。

7. 「山形県史 資料編16」(昭和五十一年)

8. (財)宮坂考古館理事長宮坂直樹氏の御教示による。

9. 「新庄図書館郷土資料叢書 第九輯 戸沢家中分限帳(一)」(昭和五十一年)

10. 原蔵者石山忠司氏の御教示による。

11. 柴田謙吾氏の御教示による。

△主な参考資料▽

1. 「山形県歴史の道調査報告書 最上川」(一) (二) (三) (昭和五十四年)

四 (五十五年)

2. 「角川日本地名大辞典 山形県」(昭和五十六年)

3. 山形県総合学術調査会「最上川」(昭和五十七年)

4. 流域市町村の市町村史誌

尚、「川絵図」の前書に

陸路拾壹里

長崎積場より大石田河岸迄 川路凡弍拾里程

但大石田より川上御城米積場拾五ヶ所

大石田より酒田湊迄 川路凡四拾弍里程

但大石田より川下り御城米積場六ヶ所

とあり、最上川通舟案内書には前書に

覚

一、最上川通舟案内書

一、酒田より大石田迄 四拾弍里程

一、大石田より河口迄 弍拾壹里

一、右川上小舟入左ニ

寺津 壹里半

舟町 三里

とあり、奥書に

最上川案内書旧キ付、行沢松之助三代之孫石山儀左衛門懸望ニ

付、延沢新町八幡山金剛院義弁法印写之早

于時天保七申年八日吉日

とある。

四、おわりに

近世から近代にかけて舟運が栄え、山形の経済・文化の大動脈の役割を果たした最上川には、以上見てきたように九点の川絵図が伝えられている。いずれも最上川舟運が盛んであった時代に描かれたもので、

具体的目的に多少の差はあっても、舟運関係者あるいはその依頼によって、最上川舟運経営・運行を目的に作成されたものとみられる。

描き方は精粗様々であり、呼称や注記の用字も種々である。②の松川舟運図屏風のように観賞を目的に色彩豊かに描かれたものや、③の最上川谷地押切渡より柏沢迄絵図や④の最上川絵図のように、陸路も含む詳細な、色彩豊かな絵図があり、一方、単色に近い絵図もある。

小さい絵図の割に記載内容の豊富な⑤の須川・最上川絵図、難所についての記載の豊富な⑦の川絵図およびその写しである⑧の須川・最上川絵図、そして、大きい絵図ながら、三難所や最上峽を重点的に描き、しかも注記の少ない⑥の最上川絵図などのちがいがあがる。また、小外川（戸沢村）の仙人堂は、当該地点を描いている七点の絵図全部に記載されているが、その名称は「仙人堂」・「仙人



須川・最上川絵図(はやぶさ付近)

横山裕氏蔵



川絵図(最上峡) 山形市立大郷小学校蔵

舟案内書の更科・さらしな・束科は皿島であり、三絵図に見える山口は下山口、元合海は本合海、鉦打坊は金打坊、上戸川・下戸川は大外川・小外川、四絵図全部にみえる貝塩は今日の河島である。四絵図の主な記載内容は△表8▽の通りである。難所の記載は川絵図が圧倒的に多く、大きな絵図の割に注記が少なく、しかも「御城米番船所」や「御会米置場」など他の絵図には見えない注記のある最上川絵図と同様、その作成意図を暗示しているようである。

流入河川のうち
 ち富波川・留並川は富並川、カラウ川・からす川・カラス川は烏川(銅山川)、達谷サハ川は立谷沢川、梵字川・大梵字川は赤川である。寺社・堂舎では、前項でふれた大淀(村山市)の羽黒堂や猿羽根山(舟形町)の地藏堂、本合海(新庄市)付近の矢

向明神、小外川(戸沢村)の仙人掌等は、呼称にちがいはあるが四絵図又は三絵図にみられ、また、黒滝(大石田町)の向川寺が二絵図に記載されている。

その他では、大石田にある注記「御役所 最上川上下通船第一御取締所」のほか、三難所の「御城米番船(舟)所」や酒田の「御蔵」・「御囲」「御会米置場」・「御陳屋最上御米積替所」等々、城米輸送に関連する役所の記載・注記が目立つのが注目される。また、最上川通舟案内書の今宿(大石田町)付近に「大石田方川ノ口迄之内基点・鶴・三河瀬右川ニ而第三難所有之」との注記がある。

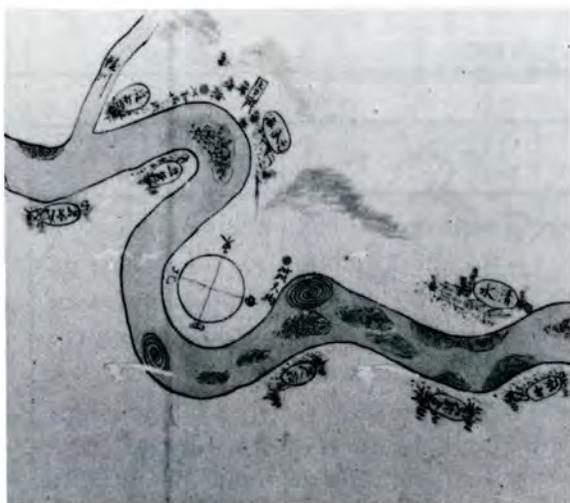


最上川通舟案内書(酒田と奥書) 大石田町立歴史民俗資料館蔵

	須川・最上川絵図 (県博蔵)	最上川絵図 (榎氏蔵)	川 絵 図	最上川通舟案内書
流入河川	須川・新口川・ミタレ川・笹川・樽石川・富波川・ヲホロキ川・丹生川・二年子川・瀬見川・カラソウ川・鮭川・角川・達谷サハ川・アイサハ川・梵字川・新井田川		寒河江川・羽入川・貝塩古川・留並川・オボロゲ川・丹生川・さほね川・からす川・さけ川・なる沢川・あい沢川・あか川・しんだい川・にいた川	寒河江川・新口川・笹川・留並川・瀬見川・カラス川・鮭川・角川・達谷沢川・あいさ川・大梵字川・新井田川
渡船場	渡り(左沢対岸)・与平舟渡シ(大堀)・尾泥滝渡・舟渡(大石田)・渡シ場(荒興屋)・荒鍋渡シ・小出渡シ・徳田渡シ・渡シ(新井堀対岸)・渡シ(大宮対岸)		渡守(長崎)・松ノ下船場(谷地)・牛尾船場・渡守(黒滝対岸)・渡守(徳田対岸)	渡り(谷地-藤助新田)・うしの渡り(貝塩)・渡り(大石田-横山)・渡り(川前-深堀)・渡り(本合海-畑)・荒興屋渡り(狩川-荒興屋)・荒鍋之渡り(浦新田-つみ小屋)・渡り(連技-山寺)・渡り(新堀-小牧)・渡り(宮浦-御囲下舟場丁)
寺社・堂舎	虚空蔵社・三川観音(山ノベ)・羽黒山(大淀)・薬師山(今宿)・黒滝山向川寺・御前堂(深堀)・矢ムケ(元合海)・仙人堂(小戸川)・金花山(清川)・権現(飛鳥)・妙法寺(酒田)・龍蔵寺(同)・祥福寺(同)・大信寺(同)・山王宮(同)・太神(同)	仙人堂(下戸川)・をこん堂(同)	阿弥陀堂(こすげ)・矢向明神(本合海)・仙人堂(戸川)	龍神堂(山口)・羽黒山(下長崎)・薬師堂(今宿)・黒滝山向川寺・さハ子山地蔵尊・仙人権現(下戸川)
その他	御蛇王山・御番所(古口)・御番所(清川)・通船改所(同)・御蔵(酒田)・御蔵(同)・御囲(同)・沖ノ口番所(高野浜)	御城米番船所(こてん)・御城米番船所(三河瀬)〈はり紙〉・御城米番船所(隼)・御会米置場(酒田)	御蔵(酒田)	奥州仙台越最上笹谷山寺越(山形)・御役所最上川上下通船第一御取締所(大石田町)・御陳屋最上御米積替場所(酒田)・御米船つなぎ所(高野浜)

〈表8〉 須川・最上川絵図(県博蔵)・最上川絵図(榎家蔵)
川絵図・最上川通舟案内書の主な記載内容

	須川・最上川絵図 (県博蔵)	最上川絵図 (榎氏蔵)	川 絵 図	最上川通舟案内書
難 所 (瀬 ・ 湫 ・ 岩 礁 等)	ドンドメキ・ウハ石・ 基点瀬・  ・台石・ ハナ  イシ・杉嶋・七 内石・カマ石・獅子石 ・マチ石・ヤチマイノ 穴・三河瀬・黒岩・大 丈倉・トイラカフチ・ 二ツ家・大滝・タナコ ゼ・イボマキ・コゼン トウラ・水ヶ瀬難所・ ベンノウ・白崎マハリ ・界之瀬・枕石・鳥井 石・三ツ石・長瀬大難 流・雑肴川難所・鮭納 瀬	コピ石・七内石・ 宝石・こてん・杉 島・カマ石・待石 ・三太郎石・柳石 ・舟右エ門石・三 河瀬・月蔵石・は やふさ・黒石・  岩・大テウ蔵・柳 嶋・穴前石・岩鼻 ・滝石・戸川石	高谷瀬・落合瀬・仁田 ノ瀬・荒川瀬・樽川瀬 ・松ノ下瀬・中ノ船渡 瀬・押切ノ瀬・三ひし 瀬・牛尾ノ瀬・大石・ ごてん難所・目アテ石 ・三太郎石・ムロ石・ 杉嶋・七内石・中岩・ 釜石・志ノ岩・待石・ おどろ滝・坊ノ前ノ瀬 ・ばん岩・みかのせ難 所・嶋藤三郎石・中河 原・ひげ重兵衛石・く わづ蔵石・ばん・はや ふさ大難所・目アテ石 ・大河原・大きく・黒 石・堀ミド・大志ヤウ ぐら・といろが湫・二 ツ屋ノ瀬・アナノ岩・ マナイタ岩・大滝瀬・ 阿が石難所・たなごの 瀬・こすけの瀬・今宿 瀬・来迎寺瀬・下ノ瀬 ・ミづが瀬・いわまき ・白さきの瀬・とち瀬 ・毒沢ノ瀬・河原子瀬 ・折渡瀬・きぬいかと ろ瀬・かなめ松瀬・う しろ川瀬・清水瀬・天 勾卷瀬・白かまき瀬・ 矢向ノ瀬・かいの瀬・ 出船瀬・龍とう瀬・だ き岩・戸川ノ瀬・猿田 瀬・成沢瀬・下ノ瀬・ 長瀬・上天堀瀬・六左 衛門か前瀬	源田湫・基点・ウワ石 ・ばん・メアテ石・ム ロ石・ゴデン・ハナク レ石・杉島・七内石・ 獅子岩・カマ石・マチ 石・ソコ石・尾泥滝・ 三川ノ瀬・鶴・ソコ石 ・クロ石・タナゴゼ・ 抱石・三戸間ノ瀬・清 川下瀬大難所・長瀬難 所・ざっこ川



須川・最上川絵図(清水・本合海付近)
山形県立博物館蔵

して、川絵図には削りとつたとみられる跡があるのみで読みとることができないのが大きなもので、他は溝ノ部村と溝の辺村、牛尾船場と牛の尾船場、目アテ石と見当石など、用字のちがいが程度である。

まず、描かれている町や村々は八表6V・八表7Vの通りで、須川・最上川絵図および最上川通舟案内書には多数の町村が描かれており、中でも九点の最上川絵図中最も小さい須川・最上川絵図に数多く描かれているのが注目される。なお、同図の表中、()内に記入したものは、他の村が樹木や家並などで集落を表わした上で村名を注記しているのに対して、単に名称のみが記載されているものである。



最上川絵図(大石田～本合海) 横真司氏蔵

(三) 須川・最上川絵図(県博蔵)と最上川絵図(横家蔵)と 川絵図と最上川通舟案内書

最後に、須川を含め、最上川中流から下流までを描いている⑤の須川・最上川絵図、⑥の最上川絵図、⑦の川絵図、⑧の須川・最上川絵図および⑨の最上川通舟案内書の五点の絵図について見てみたい。前述のように⑧の須川・最上川絵図は⑦の川絵図の写しで、内容はほぼ同一であるので、⑦の川絵図で代表すると、絵図の記載内容は八表6V・八表7Vおよび八表8Vの通りである。なお、⑦の川絵図と⑧の須川・最上川絵図の記載内容のちがいは、須川・最上川絵図の須川と最上川とが合流する落合付近に「山形御米積所」の注記があるのに対して、川絵図

村名は他の絵

図同様種々の文

字があてられて

る。須川・最上

川絵図の四藤

太は志戸田、煤

払は鮭洗、高家

は高屋、溝ノ辺

は溝延、高耶は

高屋であり、川

絵図の高谷は高

屋、溝ノ部は溝

延、台は田井、

金打場は金打坊

である。また、

須川・最上川絵

図および最上川

絵図、最上川通

〈表7〉川絵図・最上川通舟案内書に記載されている町村

川 絵 図		最 上 川 通 舟 案 内 書	
右 岸	左 岸	右 岸	左 岸
須川右岸	須川左岸	須川右岸	須川左岸
船町・本中野・灰塚・中野目・寺津	小町淵・車ヶ淵・落合	寺津	山形城下・落合
長崎・羽入・藤助新田・蟹沢・貝塩・大淀・下長崎・今宿・大石田・深堀・海谷・こまごめ・名木沢・折渡・清水・本合海・金打場・出船・くつはみ・戸川・大川渡・松山・竹田・酒田	高谷・本橋・仁田・溝ノ部・台・谷地・吉田・大久保・草野・鹿子沢・新田・こすげ・来迎寺・横山・黒滝・川前・大浦・毒沢・みくりや・たてこ・瀬わき・堀ノ内・からす川・さくの巻・畑・蔵岡・古口・高谷・土湯・清川・あらなべ・上天堀・古関・堀場・芝野・ひさげごや・徳田・ぢかわく・にい堀・落ノ目・袖ノ浦	長崎・寺津新田・蔵増・ヤノ目・藤助新田・野田・大堀・与平新田・由利込新田・貝塩・山口・大淀・下長崎・漆原・ウシロ長崎・赤石・今宿・大石田・尾花沢・深堀・芦沢・名木沢・舟形・折渡り・サバ子・清水・元合海・鉦打坊・岩花・出船・東科・上戸川・下戸川・柏沢・荒興屋・成沢・つみ小屋・大川戸・下モ新田・白ヶ沢・大沼・山寺・松山城下・下竹田・中たな・阿い沢・飛鳥・砂越・バラノ・小牧・四ツ興屋・大宮・大町・鶺渡川原・酒田・高野浜	皿沼・本橋・仁田・溝延・田井・谷地・押切・大久保・大楨・矢崎・鷺倉・ハヤフサ・大上倉・逆巻・境ノ目・赤石新田・小菅・来迎寺・横山・川前・毒沢・三栗谷・堀ノ内・本堀ノ内・平塚・向稻沢・作ノ牧・畑・真柄・古口・高野・土湯・清川・狩川・浦新田・沢新田・連枝・千河原・牧ノ嶋・平岡・榎木・四十路・新堀・落ノ目・鶴岡・袖ノ浦・宮浦

〈表6〉 須川・最上川絵図(県博蔵)・最上川絵図(榎家蔵)に記載されている町村

須川・最上川絵図(県博蔵)		最上川絵図(榎氏蔵)	
右岸	左岸	右岸	左岸
須川右岸	須川左岸	須川右岸	須川左岸
高湯・四藤太・煤弘・船町・(ミヤシロ・ナリヤス・灰塚)・中ノ目・寺津	上ノ山・山ノベ・(車ヶ渚)・落合	舟町・寺津	落合
長崎・寺津・蔵増・窪ノ目・羽入・藤助新田・野田・大堀・駒込シンテン・山口・貝塩・大淀・下長崎・ウシロ長崎・赤石・今宿・大石田・深堀・ <input type="checkbox"/> ・芦沢・名木沢・船形・猿羽根・清水・元合海・鉦打坊・岩花・出船・更科・杓喰・大戸川・小戸川・荒興屋・成沢・チミコフヤ・大河戸・下新田・白ヶ沢・大沼・山寺・松山・竹田・中牧・相沢・飛鳥・砂越・茨野・小牧・掛上り・大宮・四ツ興屋・大町・鶉渡川原・酒田・高野浜	左沢・アサフ・ウシマイ・血沼・高家・本楯・仁田・溝ノ辺・台・谷地・(高関)・押切・吉田・大久保・ウシ尾・大牧・(矢崎)・ハヤブサ・逆巻・塚ノ目・赤石シン田・小菅・来迎寺・横山・川前・大浦・毒沢・三栗・堀ノ内・本堀ノ内・唐曹川・平塚・向稻沢・作ノ巻・畑・蔵岡・真柄・古口・高耶・土湯・清川・浦シン田・古関・沢シン田・連技・千ヶ原・牧ノ嶋・平岡・榎・遊摺辺・新井堀・落ノ目・宮ノ浦	長崎・蔵増・貝塩・大淀・長崎・赤石・今宿・大石田・駒込・芦沢・名木沢・折渡・清水・元合海・岩鼻・さらしな・古口・上戸川・下戸川・松山・竹田・千川原・飛鳥・白鳥・酒田	左沢・嶋・本楯・寒河江・新田・溝延・田井・高関・谷地・大久保・集房・境目・横山・黒川前・大浦・毒沢・堀内・向清水・さくの巻・蔵岡・古口・清川・狩川・真木嶋

直シ申候

右最上郡・村山郡両郡之内最上川を南之方谷地御領内へ村山郡、最上川より東北之方へ最上郡ト相分ケ申候

とあり、ついで、下段には

清水より柏沢迄道程

一、沓里 清水舟場より本合海上大川原迄

一、同断 大川原を畑村少シ上迄

一、同断 畑村より蔵岡少シ下モ迄

一、同断 蔵岡下モより古口腰掛石迄

一、同断 腰掛石より古口下モ腰石迄

一、同断 腰石より大滝向迄

一、同断 大滝向より白糸滝少シ上迄

一、式拾五丁 白糸滝より柏沢向腹巻岩迄

メ七里式拾五丁

とあって、最後に、上段から下段にかけて

延享三丙寅歳四月下旬 岩間作右衛門とある。

前述のように、この奥書の内容は、下段の「清水より柏沢迄道程」はともかく、上段の内容と絵図の内容とは一致するものではなく、従来あった絵図に奥書が書き加えられたものとみられている。

〈表5〉最上川谷地押切渡 柏沢迄絵図・最上川絵図(稲村家蔵)の主な記載内容

	最上川谷地押切渡 柏沢迄絵図	最上川 絵 図 (稲村家蔵)
難所(瀬・淵・岩礁等)	巻石・目当石・よこ石・杉嶋・中嶋・女ごてん・七内石・獅子岩・釜石・くくり石・まち石・障子石・岩中嶋石・かこ石・ニツ石・中嶋・三河瀬・目当河原・どうぎ岩・獅子岩・釜石・大膳岩・いろいろ淵・うぶさり石・うの石・どうぎ岩・赤石ノ瀬・白岩・下ノ瀬・ミつか瀬・白さき瀬・ほけおろし瀬・とうちん瀬・土巻・獅子岩・めうどう岩・大石・一ノ杭石・かっぱ瀬・蛇ばみ瀬・狐瀬・七ツ巻・こせき巻・八向巻・どうぎ岩・とろ山巻・明神石・滝取ノ瀬・たな沼・だき石・たき石瀬・つぶて石・たな水淵・駒爪石・舟ノとも石・ニツ石・さ渡場・揚ヶ巻・べんのふ石・大石・せき取石	植石・目当石・杉島・中島・女御殿・七ツ石・獅子石・釜石・ククリ石・子石・親石・障子石・かこ石・ニツ石・ミカノ瀬・目当川原・ハヤフサノ難所・獅子岩・釜石・砥色淵・鶴石・刻石・胴木岩・見すヶ瀬・岩鼻・しらさき・朴おろし・唐人瀬・獅子岩・大石・一ノ杭・大瀬・川童淵・天狗瀬・チャハミカ瀬・狐まき・小セキマキ・地藏マキ・ヤムキマキ・澗山瀬・澗山マキ・象鼻・大黒マキ・梢沼淵・セコキ瀬・タテ石乃瀬・抱石・兄弟石・樽水マキ・片目石・アケマキ・大石
流入河川	古沢川・ほうし川・千座川・白水川・三沢川・樽石川・おいれ川・松ぼ川・西ノ沢・深沢・山内沢・小滝・五十沢・おぼろげ川・丹生川・鷹巣川・ひばら沢・さへね川・烏川・内の沢・鮭川・滝取沢・増り沢・ぬか塚川・角川河・小滝川・滝ノ沢・かつら沢・なだれ滝・三ノ滝・まん滝・響滝・甲滝・くつはみ沢・たけくらべ滝・凶光滝・駒爪滝・七滝・大滝・うの滝・ひみづ滝・柳滝・桜滝・結び滝・うどぶ滝・山居沢・湯ノ沢・揚ヶ巻沢・清水沢・堺之沢・堺沢・堺沢・水上沢	白水川・ぜんざ川・樽石川・小栗沢川・松坪沢川・泥沢・カレキ川・深沢・山ノ内川・五十沢川・ヲボロヶ川・小身山沢・丹生川・鷹巣川・名木沢川・谷地沢川・小屋坪川・小沢川・稲沢川・赤松川・烏川・松之沢・鮭川・滝取沢・□去沢・角沢・ムカ塚沢・滝ノ沢・小滝沢・桂沢・万滝・なくれ滝・壘滝・三滝・クツハミ滝・甲滝・頭光滝・駒爪滝・長ヶ鏡滝・七滝・鶴野滝・大たき・ひみつ滝・桜滝・柳滝・結滝・ウトカ沢・山居沢・湯神沢・よけ沢・阿希巻沢・清水沢・下滝・上滝・立谷沢
渡船場	野田・大谷地(永面舟渡・押切舟渡)・志満(吉田舟渡)・大久保・稲下(牛尾舟渡)・大嶺・深堀(小六ヶ渡)・(舟渡場)	荒小屋・大久保・深堀(芦沢舟場)・(小六ヶ渡)・(川原子舟場)
寺社	社(吉田)・地藏堂(同)・観音堂(岩木)・社(大原)・熊野堂(湯野沢)・稲荷堂(稲下)・築山堂(同)・竜神(貝塩)・薬師堂(長善寺)・羽黒山(大淀)・地藏堂(長崎)・白山堂(深沢)・愛宕堂(平林)・社(沼尻)・熊野堂(小菅)・薬師堂(今宿)・弥陀堂(来光寺)・寺(横山)・八幡(いゝで)・向川寺(黒滝)・観音堂(深堀)・くわんおん堂(川前)・猿羽根山地蔵・天神堂(折渡)・熊野堂(ミクリ屋)・熊野堂(たてこ)・熊野堂(絹縫)・社(沢口)・社(同)・社(同)・社(同)・社(同)・明神(長者原)・寺(堀内)・地藏堂(烏川)・興源院(白洲)・くわんおん堂(清水)・八幡(同)・八幡(本合海)・七所明神(同)・明神(同)・山神(畑)・薬師堂(蔵岡)・寺(同)・明神(同)・くわんおん堂(岩鼻)・太子堂(津谷)・山神(古口)・明神・甲明神・明神(くつはみ村)・山神(小外川)・仙人堂(同)・佐々木明神・不動堂・山神(土湯)・明神	熊野(湯沢)・羽黒山(大淀)・長瀬堂・明神(新田)・弥陀堂(来光寺)・クハンヤン(境ノ沢)・薬師(今宿)・八幡宮(井出)・観ヲン(川前)・地藏堂・天神(折渡)・クマノ(沢口)・根津権現(同)・白山(同)・大明神(同)・明神(長者ヶ原)・クハンヤン(清水)・寺(白須賀)・八幡(本合海)・七所明神(同)・矢向大明神・クハンヤン(岩鼻)・明神・白山(真柄)・山神(古口)・明神・甲ノ明神・仙人宮(小戸川)・佐々木大明神・不動・山神(土湯)・稲荷
その他	御境石(谷地)・赤沼(新吉田)・楯(白鳥)・石塚・堤・白鳥村米出場・なべ沼・たけくらべ杉・楯(深沢)・たて(いゝで)・御分杭(黒滝・川前間)・薬杓越道(大浦)・御分杭(名木沢・川原子間)・御分杭(毒沢・ミクリ屋間)・楯(沢口)・式本松・要の松・楯(稲沢)・たて(本合海)・楯(金打坊)・八幡楯(大外川)	新庄領碑(谷地)・赤沼(新吉田)・楯岡道(長澗)・楯(白鳥)・塩沼(山口)・古石塔(同)・田沢沼(田沢)・新庄領尾花沢領碑(黒滝・川前間)・「尾花沢・新庄領境」(名木沢・押渡間)・尾花沢新庄領碑(毒沢・ミクリヤ間)・二本松(長者ヶ原)・永松銅山道(稲沢)・番所(古口対岸)・「最上新庄領」(柏沢)・「庄内」(同)・「庄内・最上境」(土湯・清川間)



最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図(乾) (基点~三ヶ瀬付近)
致道博物館蔵

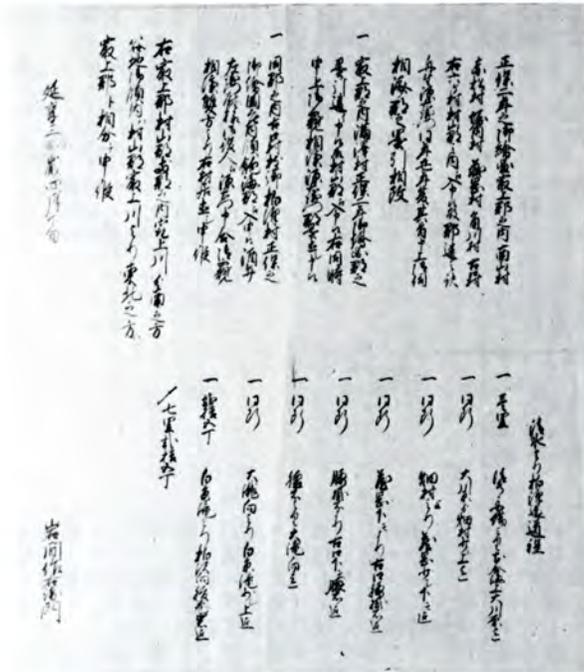
滝が詳しく描かれてはいる。渡船場は八表5Vの通りであるが、実際の数はもっと多かつたものであろう。寺社・堂舎も八表5Vの通りで、最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図の方に数多く描かれている。

両図共に描かれている三ヶ瀬付近、大淀(村山市)の羽黒堂や猿根山(舟形町)の地藏堂、本合海(新庄市)付近の矢向大明神、小外川(戸沢村)の仙人掌(仙人宮)等々は特に信仰を集めたものである。

その他では、新庄藩領と天領や庄内藩領との境界には境石や分杭が建てていたことがうかがわれ、白鳥(村山市)に新庄藩の米出場、古口(戸沢村)の対岸には番所があり、大浦(大石田町)から蘆杏街道とよばれる道路があり、稲沢(大蔵村)からは永松銅山への道路が通じていたことがうかがわれる。

尚、最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図には、川を上下する多数の川船が描かれており、坤の巻末には次のような記載がある。すなわち、上段に

正保二年之御絵図、最上郡之内南山村・赤松村・堀内村・蔵岡村・角川村・古口村、右六ヶ村山郡之内江入申候故、郡違之沢丹生源右衛門同年丑年夏其旨申上、御伺相済郡之墨引相改
一、最上郡之内満沢村正保二年御絵図郡之墨引違イ申候故村山郡江入申候、右同時申上御窺相済、源右衛門郡墨直シ申候
一、同郡之内古口村枝郷柏沢村正保之御絵図庄内領飽海郡江入申候、酒井左衛門尉様御役人江源右衛門申合御窺相済、双方より右村居



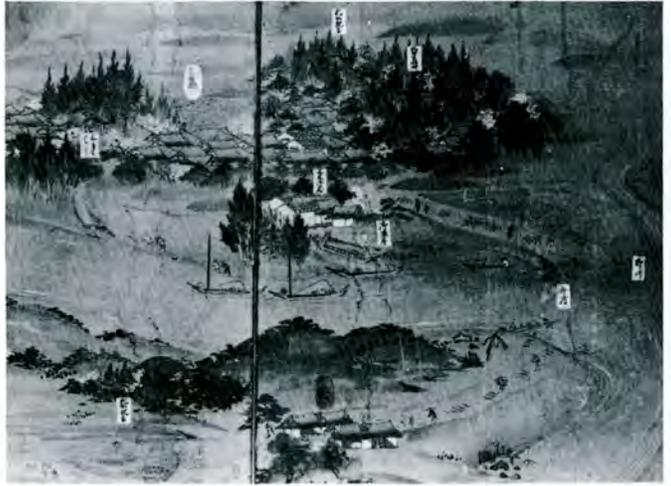
最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図(坤)(奥書)
致道博物館蔵

〈表4〉最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図・最上川絵図(稲村家蔵)に記載されている町村

最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図		最上川絵図(稲村家蔵)		
	右岸	左岸	右岸	左岸
乾	野田・かに沢・大堀・志満・荒小屋・松沢・長瀬・貝塩・山口・浮沼・名取・大淀・長崎・清水・本生田・土生田・赤石・今宿・大石田・いゝで・横内・おぼろけ・尾花沢町・深堀・岩ヶ袋・貝屋・駒込・名木沢・川原・折渡・絹縫・沢口・猿羽根・長者原・清水・合海	大谷地・改・吉田・岩木・新吉田・笹本・大原・湯野沢・山添(上野枝郷)・大久保・平野・上野・樽石・稲下・長善寺・水口(長善寺枝郷)・白鳥・大槇・矢崎(大槇枝郷)・鹿子沢(大槇枝郷)・深沢・早ふさ・里・駒居・平林・山内・小滝・堺目・結城新田・田沢・沼尻・小菅・新田・来光寺・里・横山・黒滝・川前・大浦・毒沢・ミクリ屋・たてこ・須崎・瀬脇・堀内・赤松・烏川・通り・白洲・稲沢	荒小屋・松沢・長瀬・貝塩・山口・大淀・長崎・清水・土生田・赤石・今宿・大石田・井出・横内・臈気・尾花沢・深堀・岩袋・海谷・駒籠・名木沢・折渡・キン子・沢口・猿羽根・長者ヶ原・清水・合海・本合海・岩清水・金打棒・岩鼻・津谷・出船・さらしま・クツハミ・大戸川・小戸川・柏沢・あら小屋	谷地・岩木・新吉田・大原・笹本・湯沢・上野・大久保・平野・牛ノ尾・稲下・水口・長善寺・白鳥・大槇・鹿子沢・深沢・ハヤフサ・里・駒居・平林・小滝・田沢・堺ノ目・結城新田・来光寺・里・堺ノ沢・横山・黒滝・川前・大浦・毒沢・ミクリヤ・タテ子・大サキ・瀬塚・堀内・烏川・トヲリ・白須賀・稲沢・サクノマキ・畑・真柄・古口・行人・高屋・土湯・清川
	坤	本合海・岩清水・金打坊・岩鼻・津谷・出舟・皿嶋・くつはミ・大外川・小外川・柏沢	作巻・畑・蔵岡・真柄・古口・行人・高屋・土湯・清川	

の町や村はハ表4Vの通りである。用字のちがひなど若干の差異はあるが、両図はかなり共通しており、また、土生田(村山市)・横内(尾花沢市)・臈気(同)・尾花沢(同)等、一部ではあるが、最上川の川筋からかなりはなれた羽州街道沿いの村々も描かれており、かなり広い範囲にわたって描かれていることがわかる。最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図にみえる志満は島のこと、大堀とは別個の村として描かれており、同図の本生田は本飯田、いゝでは井出、貝屋は海谷、白洲は白須賀のことであり、最上川絵図の金打棒は金打坊、大戸川・小戸川はそれぞれ大外川・小外川のことである。また両図共にみえる貝塩は河島、山口は下山口、来光寺は来迎寺、長崎は下長崎、駒居は富並のことである。

描かれている難所はハ表5Vの通りで、両図共にほぼ同じで、かなりくわしく描かれ、特に三難所の一つ、基点は岩礁にもそれぞれ名称が付されている。最上川に流入する河川もハ表5Vの通りで、特に最上峡では兩岸にかかっている多数の



松川舟運図屏風(宮付近) 宮坂考古館蔵

・梨郷付近の三か所に蛇行した旧流路が描かれて「古川」と注記があり、激しい流路の変化の跡をうかがうことができ、梨郷の前館や大塚（川西町）の古壘、河井（長井市）付近の茶磨館（茶臼館）、介ノ巻（朝日町）付近の古館など、旧城館跡も描かれている。

また、松川舟運図屏風には、川魚を獲った築場を指すとみられる「やなは」の注記が宇津野（朝日町）および大巻（大隅、同）に、四つ手網漁をしている姿が森（長井市）付近に描かれ、さらに船衆の姿や街道を往来している人々の様子も生き生きと描かれており、この松川舟運図屏風は、舟運史上は勿論、当時の風俗を知る上でも貴重な資料といえることができる。

以上詳述してきた羽州川通絵図および松川舟運図屏風は、前述の通り、描かれている範囲は米沢又は糠野目から左沢までとほぼ同じで、

大部分が米沢藩領と庄内松山藩左沢領となっている。そして、米沢藩関係者によって、同藩の舟運関係者が利用、觀賞することを目的として描かれた絵図であることが、記載内容からもはっきりうかがうことができる。

すなわち、難所の名称の注記をはじめ、両絵図の間にはその記載内容にかなりの差がみられるものの、村々および難所や船屋敷等、舟運関係の注記については、米沢藩領・他領を問わず、ほぼ同等にかなり詳しく描いており、一方、流入河川や渡船場、社寺・堂舎等の沿岸の景観については、米沢藩領はかなり詳しく描いているのに対し、他領では簡略になっている。

それにしても、両絵図共に描かれているものもかなりある。糠野目（高島町）・宮・正部・左沢（大江町）は米沢藩の最上川舟運経営にあってきわめて重要な港であり、サイカチ洲（さいかちふじ）・黒滝（畔滝）・ツブテ石（礫石）・大滝瀬・稲荷瀬・地藏洲・広瀬・後藤洲・カマノ洲（釜洲）等々の難所は、特に危険度が高く、荷主や船衆を悩ました難所だったのである。そして、松沢（長井市）の不動はじめ、小出（同）対岸の金谷神（金井神、同）の八幡宮、宮の惣宮大明神、成田（同）の八幡宮、鮎貝（白鷹町）の八幡宮、正部の大明神（畔滝大明神）、佐野原の不動堂等々の堂舎は、特に舟運関係者の信仰を集めたものであろう。

(二) 最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図 と最上川絵図(稲村家蔵)

次に、最上川中流部を描いた③の最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図と④の稲村家蔵最上川絵図についてみると、両図に記載されている沿岸

〈表3〉羽州川通絵図・松川舟運図屏風の主な記載内容

	羽州川通絵図	松川舟運図屏風
船屋敷・米蔵等	御役屋（糠野目）・舟屋舗（同）・御米蔵（梨郷）・木場（宮）・御米蔵（同）・舟屋敷（同）・御役屋（新砥）・御蔵屋敷（同）・新屋敷（正部）・舟御改所（同）・舟屋舗（同）・御番所（高岡）・御番所（大瀬）・御番所（杉山）・舟屋敷（左沢）	上米御蔵（糠の目）・上米御蔵（宮）・御陣屋（同）・御陣屋（正部）・御番所（高岡）・米沢御番所（枳窪）・米沢御番所（大瀬）・舟改所（同）・左沢御番所（杉山）・左沢御番所（大舟木）・米沢御陣屋（左沢）
難所（瀬・洲・岩礁等）	ナベヅル・ササブチ・サイカチ洲・長洲・箕ノ輪洲・梨ノ木洲・八幡洲・貴布祢洲・黒滝・エボシ岩・ツブテ石・銚子ノロ・大滝瀬・稲荷瀬・ムロカド・地藏洲・水神洲・三階滝・八目マキ・広瀬・後藤洲・カマノ洲・面白岩・ウノ石・大明神洲・サクラノセ・ドウギ岩	アカ洲・お寺洲・てらすかふち・さいかちふじ・はいのふじ・ひはふじ・よしふじ・三ツ石・からかま・太郎兵へ石・みのわ・亀子石・畔滝大難・おたくた・礫石・鍛冶屋敷小難・柳島□難・横のり小難・碁盤石・出岩・□□・中石・ふつ付・待石・長堀水戸・出水・大滝大難・□□・稲荷瀬大難・道□・地藏洲・苗代巻・高瀬・ふり□・□□・広瀬・後藤洲・て□し・高瀬・釜洲・面白岩・□之洲・獅子岩・立石・□□・左中ノ盤・転瀬・中沢下瀬・左巻
流入河川	羽黒川・吉原川・成島川・和田川・吉野川・タンジュ川・犬川・伊佐沢川・白川・ムクレ川・野川・新砥川・サ子ブチ川・マギ川・滝沢・境川・界沢・立木川・小漆川	鬼面川・赤湯川・露橋川・たんしゅ川・池黒川・犬川・大石川・白川・野川・新戸川・実洲川・境沢・境沢・立木川
舟渡・橋	糠野目<橋>・栖島・宮崎・大塚・巻（中舟渡）・小出・宮・成田（作場渡）・鮎貝	糠の目<橋・樋>・夏苺・宮崎・梨郷・伊佐沢・宮・鮎貝・舟渡・大巻・用・中郷
寺・社・堂・舎	八幡宮（栖島）・雷公堂（関根）・本覚寺（荒町）・建向寺（梨郷）・羽山堂（大塚）・高德寺（同）・熊野堂（同）・不動堂（松沢）・日月堂（荒館）・八幡宮（金谷神）・惣宮大明神（宮）・八幡宮（成田）・八幡宮（鮎貝）・大明神（正部）・明神（高岡）・不動堂（佐野原）・イナリ堂（大滝）・天神堂（介ノ巻）・天神（左沢）	山王（糠の目）・山王（夏苺）・綱正寺（宮崎）・札所観音（同）・札所観音（伊佐沢）・松沢不動（同）・あたこ（同）・白山（小出）・八幡（同）・札所観音（宮）・惣宮明神（同）・札所観音（森）・八幡（成田）・札所観音（東五十川）・諏訪（浅立）・瑞竜院（高玉）・札所観音（同）・八幡（鮎貝）・札所観音（同）・熊野（畔藤）・札所観音（同）・八幡（新戸）・畔滝明神（正部）・越王（高岡）・畔滝明神（同）・剣□不動（佐野原）・正一位稲荷（せん作）・正一位稲荷（大瀬）・九里大明神（用）・伏熊明神（伏熊）
その他	前館・古壘・大館・茶磨館・亀ガ森・アナゼキ・深山林・古館・地藏岩	窪之桜・茶臼館・松茸森・志もくはし・亀森・境松・やなは・やなは

〈表2〉羽州川通絵図・松川舟運図屏風に記載されている町村

羽州川通絵図			松川舟運図屏風		
	右岸	左岸		右岸	左岸
前半	福沢新田・夏刈・宮崎・露橋・関根・砂塚・荒町・梨郷・巻・松沢・金谷神・カス林・浅立・広野・畔藤・(正部)	米沢・中田・窪田・糠野目・平柳・栖島・門野目・町田・大塚・岡・ゾウキウ・荒館・小出・宮・成田・五十川・白兔・高玉・田尻・鮎貝・箕輪田	右隻	福沢・夏刈・宮崎・露橋・関根・砂塚・梨郷・伊佐沢・森・東五十川・浅立・広野・畔藤・新戸	糠の目・上平柳・栖島・大塚・川合・和泉・小出・宮・成田・五十川・白兔・高玉・田尻・鮎貝
後半	新砥・正部・下山・佐野原・センザク・大瀬・杉山・スガウ田・松原・宇津野・大滝・雪谷・介ノ巻・四ノ沢・和江・大巻・用・深沢・伏熊	高岡・四ツ屋・今平・大淀・坂ノ上・大舟木・松程・水口・赤釜・一穀・夏草・舟渡・八沼・野中・川通・栗木沢・中沢・富沢・藤田・左沢	左隻	正部・佐野原・せん作・大瀬・杉山・松原・宇津野・大滝・雪谷・助巻・宮宿・前田沢・四の沢・和合・大巻・用・深沢・伏熊・中郷	箕輪田・深山・高岡・古屋敷・栃窪・今平・大淀・大舟木・松程・水口・赤釜・一石槇・夏艸・舟渡・能中・川通・栗木沢・左中・けはい坂・中沢・富沢・藤田・左沢

・伏熊(同)等、一六か所に上っている。
 松川舟運図屏風には、荷物を積んで上り下りする小鶺鴒船とみられる数多くの川船が描かれ、最上川が上流部にあっても重要な交通路であったことがうかがわれるが、宮(長井市)のすぐ上流に二人の人足に曳かれて上流に向かっていている船が見え、羽州川通絵図にも正部のやゝ上流に、二人の船乗りが船先と櫓で櫓をあやつり、三人の人足が船を曳いている場面があり、曳船人足に頼らざるをえなかった最上川上流舟運のきびしい実態をうかがうことができる。
 流入河川は名称の注記あるもののみを上げたが、八表3Vの通りで、吉原川は掘立川、成島川は鬼面川、赤湯川は吉野川、露橋川は上無川、タンジュ川・たんしゅ川は誕生川、池黒川は機織川、伊佐沢川・大石川は逆川、サ子ブチ川は実淵川、境沢は平田川、立木川は朝日川、小漆川は月布川を指すものとみられる。
 絵図に描かれている寺社や堂舎は八表3Vの通りで必ずしも多くはないが、これらは特に舟運関係者の信仰を集めたものであろう。佐野原(白鷹町)の不動堂は、元禄六年(一六九三)、西村久左衛門が黒滝開削着工直前に再建した剣尖(剣先)不動堂で、現在もその当時の棟札が残っている。松川舟運図屏風にみられる八つの札所観音はいずれも置賜三十三観音に属するもので、観音信仰と札所順礼の盛行がうかがわれる。
 その他、羽州川通絵図には、露橋(南陽市)・砂塚(同)

船方役所とみられるので、寛政四年以後となる。

この絵図は、石山儀左衛門の子孫で、東根市在住の石山忠司氏より寄贈されたもので、石山家は行沢村（尾花沢市）にあって代々陣屋守を勤めた家柄という。^(注10)

以上、九点の最上川絵図を概観してきたが、大小・体裁・内容・手法等、各自各様である。しかし、いずれも、江戸時代から明治時代にかけて隆盛をきわめ、山形の経済・文化の発展に大きな役割を果たした最上川舟運を物語る貴重な資料であることが理解できる。

三、絵図の記載内容

次に各絵図の記載内容について、それぞれもう少し詳しく見てみたい。尚、表中の記載順は原則として上流からとした。

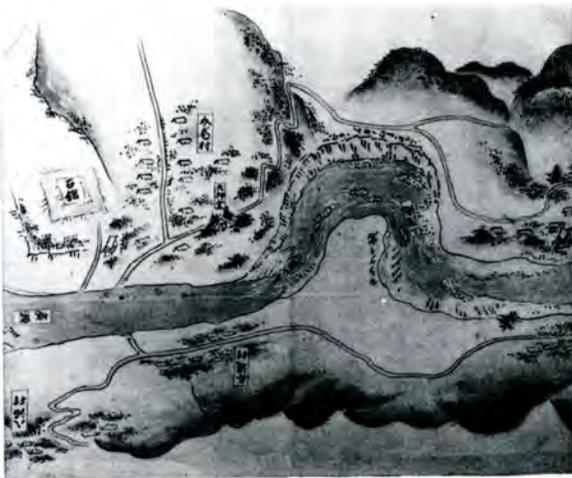
(一) 羽州川通絵図と松川舟運図屏風

まず最上川上流部を描いた①の羽州川通絵図と②の松川舟運図屏風についてみると、両絵図に記載されている沿岸の町村は△表2▽の通りである。両図共にみられる栖島は洲島であり、羽州川通絵図にみられる新砥は荒砥、正部は菖蒲、センザクは千作、介ノ巻は助ノ巻、和江は和合、野中は能中、松川舟運図にみられる川合は河井、和泉は泉、新戸は荒砥、夏艸は夏草、左中は真中、けはい坂は粧坂である。

これらの町や村について、羽州川通絵図では家並や樹木で示してあり、△表3▽に示した舟屋敷や米蔵等、舟運に関わる施設は竹垣状のもので囲んで描くなど、特に強調されている。中でも、梨郷（南陽市）に米蔵があること、正部（菖蒲、白鷹町）の船屋敷の一角に「新屋敷」の注記があることが注目される。松川舟運図屏風では村々はより写実的

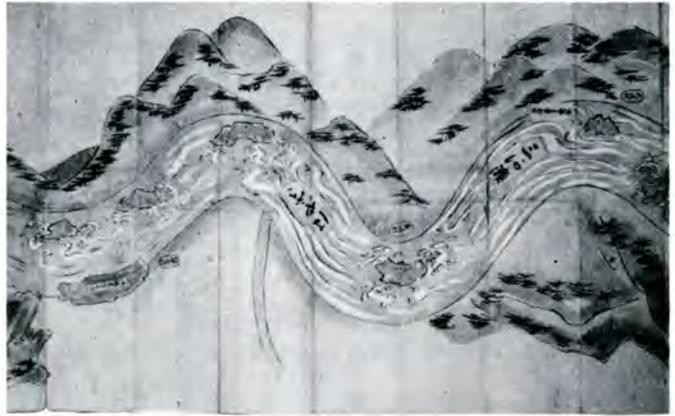
に描かれており、船屋敷や米蔵等は△表3▽の通りで、本屏風の陣屋・上米蔵は、それぞれ羽州川通絵図の船屋敷・米蔵にあたるものであるが、羽州川通絵図にあった梨郷の米蔵は見えず、大瀬（白鷹町）には番所の外に「舟改所」がみえる。

難所の注記は△表3▽の通りで、松川舟運図屏風の方が多い。そして「畔滝大難」、「大滝大難」、「銀治屋敷小難」、「地蔵淵」、「転瀬」等、危険度により大難・小難・名称のみの三段階に分けて示してあるのが特徴で、このような注記は九点の最上川絵図中この松川舟運図屏風のみである。一方、羽州川通絵図では、注記のある難所のほか、淵や瀬・渦巻・岩礁等が詳しく描かれ、特に五百川峽には流路に白色



羽州川通絵図(介ノ巻付近) 山形県立博物館蔵

で渦巻や急流の様子を表現した箇所が数多くみられる。そして川岸には曳船人足が通った綱手道を示すとみられる赤の線が描かれており、その数はセンザク（千作、白鷹町）・大瀬対岸・大舟木（朝日町）・松程（同）対岸・四の沢（同）・深沢（大江町）



最上川絵図(三河瀬・はやぶさ付近) 横真司氏蔵

この絵図も、①の羽州川通絵図同様、故長井政太郎氏が収集されたものであるが、原蔵者は不明である。

⑥の最上川絵図は三難所と最上峡がかなり詳しいほかはかなり簡略に描かれている。「こてん」、「三河瀬」、「はやぶさ」の三難所に「御城米番船所」、酒田に「御会米置場」の注記があることから、幕領の城米輸送に関する絵図とみることができ、所蔵者の横家は代

々久右衛門を名のり、幕領の名主を勤めた家柄である。作成年代については、三河瀬の「御城米番船所」の注記のみ貼り紙となっているのが手がかかりとも思われるが、特定できない。

⑦の川絵図は、もともと船町の船問屋阿部三右衛門家に所蔵されていた絵図である。川は青色で描き、中洲や岩礁・淵・瀬などかなり詳しく描かれているが、沿岸については村名のみを注記する場合が多いなど、簡略になっている。描かれた年代については、大石田に「御代官所 山形領 東根領」と注記されていることから、寛文八年(一六

六八)から寛保二年(一七四二)の間と推定されている^(注5)。大石田が幕領(寛永十三年ノ幕末)・山形藩領(元和八年ノ延享三年)および宇都宮藩東根領(寛文八年ノ元禄五年)又は白河藩東根領(元禄五年ノ寛保二年)の入組み支配が行なわれていた時期となるわけである。

⑧の須川・最上川絵図は、色彩が異なり、村名その他、表記のちがいが若干あるが、長さ、内容共にほとんど⑦の川絵図と同一で、その写本とみられる。所蔵者横山家は、下桜田村(山形市)の庄屋を勤めた家柄であるが、明治八年(一八七五)、須川の逆巻河岸開設を願った際の「須川筋船道御見分願書」(横山裕氏蔵)に寺津村(天童市)の船持管谷小右衛門や船町村の船持伊藤市左衛門等とともに「下桜田村 荷宿 横山三九郎」と連署しており、出願にあたって、⑦の川絵図を借り出し、模写したものとみられるのである。

⑨の最上川通舟案内書は、川の流路を緑で、沿岸の山々は墨で描き、村々も村名のみであるなど、九点の最上川絵図では最も簡略である。ただし、大石田の「最上川上下通船第一御取締所 御役所」や酒田の「御陳屋 最上御米積替場所」等の注記は注目される。

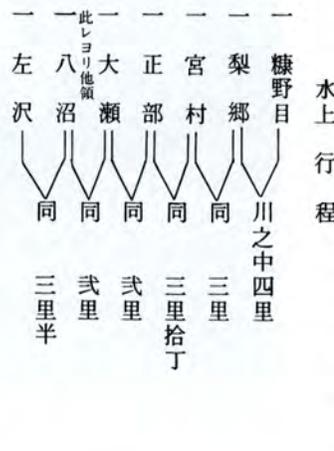
奥書に

最上川案内書旧キ付、行沢松之助三代之孫石山儀左衛門懇望ニ付、
延沢新町八幡山金剛院義弁法印写之早

于時天保七申年八月吉日

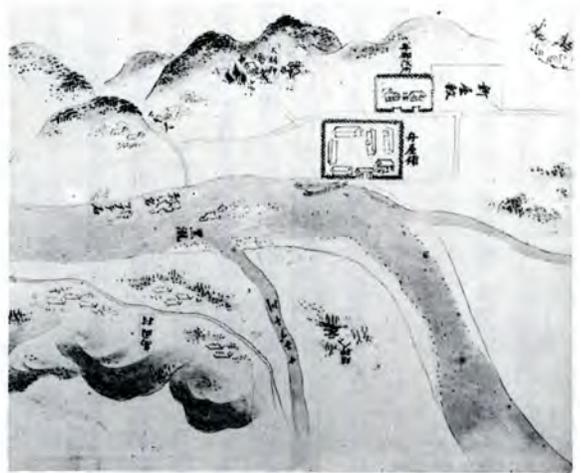
とあり、天保七年(一八三六)に義弁法印が模写したことがわかる。「最上川案内書旧キ付」とあるので原絵図が描かれたのはかなりさかのぼるものとも考えられるが、「最上川上下通船第一御取締所」と注記のある大石田の「御役所」は寛政四年(一七九二)に設置された川

次に、各絵図の来歴や内容について概観したい。まず、①の羽州川通絵図は、題箋には「羽州川通絵図 自米沢正部最上左沢」とある絵図で、米沢城下の一角から左沢まで描かれている。^(注6)ただし、中間で、米沢から正部(菖蒲)までと、新砥(荒砥、白鷹町)から左沢までとに二つに分かれており、描写法も前半は俯瞰法、後半は展開法と異った手法をとっている。また次のような注記があり、この絵図が米沢藩のために描かれたものであることが歴然としている。



そして、前半が、新砥の名は見えず、「正部舟屋敷」の注記で終了しているのに対し、後半は、「御役屋」や「御蔵屋敷」のある、整然とした新砥の町割の図からはじまり、正部の舟屋敷を再度とりあげて、「舟屋敷」、「舟御改所」および拡張予定地とみられる「新屋敷」かなると詳述している。

この絵図の描かれた年代は明示されていない。寛政七年(一七九五)に完成した、糠野目で最上川を渡る黒井堰の大樋が描かれていないの



羽州川通絵図(正部付近) 山形県立博物館蔵

でそれ以前とみられるが、正部の「新屋敷」の注記など手がかりはあるものの、年代を特定することはできない。

この絵図は故長井政太郎氏が収集されたものであるが、原蔵者を確認することはできなかった。『藻上川通船記』(米沢市

立米沢図書館蔵)に「此書は寛政三年片桐六郎左衛門正部詰之節、舟道の濫觴無之相札候處、佐藤長兵衛此書ものを持候ニ付、相借写し正部江置付にいたし候、此外川通り之絵図も相残し候事」とある「川通り之絵図」はこの絵図を指している可能性も考えられる。

②の松川舟運図屏風は、前述の通り全国的にも珍しい屏風仕立ての川絵図である。六曲一双の屏風で、右隻の右上方、糠野目から左へ描きはじめ、上・中・下の三段に曲流させて、左下方の新戸(荒砥)で右隻が終っている。左隻はこれをうけて、右下方、正部からはじまり、逆に下・中・上と三段に曲流させ、左上方の左沢で終っている。

沿岸の村々の家並や堂舎をはじめとする景観、最上川を往来する船、

見やすいのが特徴である。一方、展開法は、風景等は原則として川を正面として描かれているが、注記の文字の記入方向はまちまちで、かなり見にくい。ただし、川の中の岩礁や瀬・淵等の注記は上流を上にしてあり、展開法の絵図は、下流を下にして縦に置いて見るように描いたものとみることができる。

全絵図共に彩色がほどこされているが、用いている色彩、とりわけ川の流れと山々の表わし方で二つに大別できる。一つは、川の流れを青色に、山々を緑にするなど、青と緑を基調とするもの、一つは、川の流れや山々を黄色や茶色で表現するなど、黄・茶を基調とするものである。前者には①の羽州川通絵図をはじめ、②の松川舟運図屏風、③の最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図、④の最上川絵図、⑦の川絵図、⑨の最上川通舟案内書の六点があり、後者には⑤の須川・最上川絵図、⑥の最



最上川絵図(大石田付近) 稲村七郎左衛門氏蔵

上川絵図、⑧の須川・最上川絵図がある。ただ、川や沿岸の様子を描き方をはじめ、文字注記、彩色は、絵図により精粗さまざまで、觀賞を目的としている②の松川舟運図屏風をはじめ、③の最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図および④の最上川絵図は非常に詳細に、色彩豊かに描かれており、①の羽州川通絵図や⑥の最上川絵図、⑦の川絵図等がこれに次いでいる。

最上川絵図は、また、描かれている範囲によっても三つに大別することができる。一つは、最上川上流、糠野目から左沢までを主な範囲とするもので、①の羽州川通絵図および②の松川舟運図屏風がこれに入る。元禄七年に黒滝が開削されると、米沢藩は、糠野目や宮・菖蒲・左沢に船屋敷や上米蔵を設置して利用しており、二点の絵図は米沢藩の舟運経営に関わる絵図とみることができる。

二つ目は、最上川中流、谷地(河北町)から清川までを範囲とするもので、③の最上川谷地押切渡り柏沢迄絵図および④の最上川絵図がこれにあたる。谷地から清川までの地域は兩岸又は一方が新庄藩領となっており、新庄藩に関わる絵図とみることができる。

三つ目は、最上川の支川、須川を含め、最上川の中流および下流を範囲とするものである。須川は高湯(蔵王温泉、山形市)又は船町から描き、最上川は左沢または長崎(中山町)から酒田までを描いたもので、⑤の須川・最上川絵図をはじめ、⑥の最上川絵図、⑦の川絵図、⑧の須川・最上川絵図、⑨の最上川通舟案内書の五点がこれに入る。村山地方に広大な幕領を持っていた幕府や、それと入組んでいた諸藩、さらに、紅花や青芋等の特産物や塩・木綿等を取扱って大いに活動した商人たちに関わる絵図とみることができよう。

〈表1〉 最上川絵図

名 称	形 状	寸 法	範 囲	紀 年	所 蔵 者
① 羽州川通絵図	折畳み式	幅 28 cm 長 1,180 cm	米 沢～左 沢		山形県立博物館
② 松川舟運図屏風	屏 風 (六曲一双)	右 隻 縦 113 cm 横 335 cm	糠野目～荒 砥		(財)宮坂考古館 (米沢市)
		左 隻 縦 113 cm 横 335 cm	菖 蒲～左 沢		
③ 最上川谷地押切渡 方柏沢迄絵図	巻 物 (2巻)	乾 幅 68.5 cm 長 736 cm	谷 地～清 水	延享3年 (1746)	(財)致道博物館 (鶴岡市)
		坤 幅 68.5 cm 長 670 cm	本合海～清 川		
④ 最上川絵図	巻 物	幅 55 cm 長 980 cm	谷 地～清 川		稲村七郎左衛門氏 (山辺町)
⑤ 須川・最上川絵図	巻 物	幅 16 cm 長 469 cm	左 沢～酒 田 高 湯		山形県立博物館
⑥ 最上川絵図	折畳み式	幅 64 cm 長 825 cm	左 沢～酒 田 船 町		楨 真司氏 (河北町)
⑦ 川 絵 図	巻 物	幅 27 cm 長 870 cm	長 崎～酒 田 船 町		山形市立 大郷小学校
⑧ 須川・最上川絵図	巻 物	幅 30 cm 長 866 cm	長 崎～酒 田 船 町		横山 裕氏 (山形市)
⑨ 最上川通舟案内書	巻 物	幅 29.5 cm 長 712 cm	長 崎～酒 田 寺 津	天保7年 (1836)	大石田町立 歴史民俗資料館

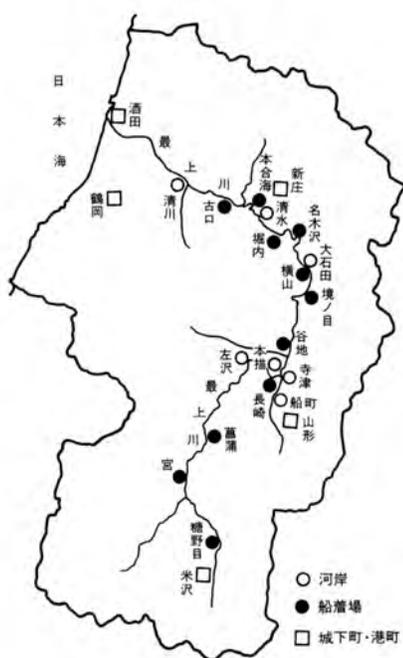
点は各絵図に付いている標題、⑨の最上川通舟案内書は絵図の前置、⑦の川絵図は箱書を取り、他は適宜付したものである。ただし、⑥の最上川絵図の名は、過去の展示会の際に貼り付けた名称札に依るものである。

これらの最上川絵図については、すでに小野寺淳氏が、その作成目的や技法、内容等について紹介しており、重複する点も多くなるとみられるが、「資料紹介」という本稿の主旨から割愛するのは不適切と思われるので、敢えて稿を進めて行きたい。

形状別にみると、屏風が一点、折畳み式が二点、巻物が六点である。屏風仕立ての川絵図は非常に珍しいものであり、一般的には巻物の形をとるよう^(注5)で、折畳み式の二点ももとは巻物かもしれない。装丁の程度もまちまちで、②の松川舟運図屏風はもちろん、①の羽州川通絵図、③の最上川谷地押切渡方柏沢迄絵図、④の最上川絵図、⑦の川絵図はきちんとした装丁となっているが、⑤の須川・最上川絵図、⑧の須川・最上川絵図は裏打ちもない。

巻物および折畳み式の絵図は、右側を上流、左側を下流として描いている。したがって、上方が右岸、下方が左岸となっている。描写方法は、一定方向からの俯瞰法と、川を中心に兩岸を俯瞰する形で描く展開法とがあるが、①の羽州川通絵図の一部、および②の松川舟運図屏風が俯瞰法をとっている以外は、すべて展開法をとっている。俯瞰法の場合は、注記の文字をはじめ、山々や家並等が一定の方向に描かれており、

〈図1〉最上川の河岸と船着場



に力を入れ、商人たちも積極的に利用した。漕船や小鵜飼船が往来して、米をはじめ、紅花・青苧等の特産物が積み出され、塩や木綿・茶・魚、すぐれた文物が運びこまれ、鶴岡藩や庄内松山藩の参勤交代、出羽三山参詣道者の往来にも利用された。

最上川沿岸には、米や紅花・青苧・塩・木綿等の荷物を積みおろしするために多くの河岸や船着場が設けられた。米沢藩の上米蔵や船屋敷が設置された鶴野目（高島町）・宮（長井市）・菖蒲（白鷹町）・左沢（大江町）、山形城下の外港船町（山形市）、鶴岡藩等の参勤交代や出羽三山参詣道者の乗降にも利用された清水（大蔵村）・清川（立川町）、そして河口の酒田などで、大商人や船衆が集まり大いに繁栄した。中でも大石田（大石田町）は、川船会所や幕府直轄の川船役所が置かれるなど、最上川随一の河岸として繁栄した。

明治三十年代から大正初年にかけて、奥羽線や陸羽西線等の鉄道が開通すると急速に衰えたが、最上川舟運は、酒田で海上航路と結ばれて、江戸時代から明治時代の山形県にとって、羽州街道とならんで、経済・文化の大動脈の役割を果たした。

特別企画展「最上川―紅花の道―」では、以上のような最上川の姿を紹介するために、県内各地から、絵図・古文書・船絵馬・川船模型等々、種々の資料を借用して展示し、多数の観覧者の好評を得ることができた。

中でも、最上川舟運が盛んだった頃、川の様子や沿岸の村々の姿を描いた最上川絵図を、現在確認されている九点全部展示することができたが、全絵図を一展覧会で展示するのははじめてのことで、大変幸せであった。資料保存上の問題や展示スペースの関係で、全絵図を全期間展示することはできず、期間を区切ってではあったが、可能なかぎり全場面を展示するよう努めたので、研究者や愛好者はもちろん、一般観覧者にも喜ばれたと思っっている。

今回の特別企画展「最上川―紅花の道―」を機会に、全最上川絵図を身近に閲覧することができたので、各絵図の記載内容を紹介して、資料所蔵者をはじめ、御指導・御協力をいただいた多数の方々への恩返しの一端としたい。

二、絵図の所在と概観

現在確認されている最上川絵図は九点で、^(注3) A表1Vの通りである。

図名は、②の松川舟運図屏風は従来からの通称であり、①の羽州川通絵図、③の最上川谷地押切渡方柏沢迄絵図および⑥の最上川絵図の三

資料紹介 最上川絵図

主任学芸員 金 山 耕 三

一、はじめに

本館では、昭和六十年、特別企画展「最上川―紅花の道―」を開催して、山形県の母なる川最上川について、江戸時代に隆盛をきわめた舟運を中心に紹介した。

最上川は、山形県の南、吾妻連峰に源を発し、北流して米沢・山形・新庄の各盆地を貫き、ついで西流して庄内平野を横断、酒田で日本海に注いでいる。その間、上流を松川ともいい、置賜白川・野川・須川・寒河江川・鮭川・立谷沢川等、大小二〇〇余の支川を合わせるが、全国でも珍しい、山形県一県だけを流れる大河である。全長二二九キロメートルで全国第七位、流域面積は七、〇四〇平方キロメートルで第九位、山形県の総面積の七六パーセントを占め、県民の七八パーセントがその中で生活している。^(注)

最上川は、当然のことながら、古くから山形県民のくらしと深く関わってきた。田畑を潤し、魚獲をもたらすと共に、古くから舟運が開かれて経済・文化の大動脈の役割を果し、一方、渡船を必要とするなど交通の障害ともなり、また大洪水で田畑や家屋を流すこともしばしばあった。

しかし、今日では、ダム建設や堤防工事、架橋が進み、発電や農業・工業用水、そして上水道の水源をおおぎ、さらには観光にと、最上

川は山形県民のくらしに欠くことのできない、山形県の母なる川となっている。

今回の特別企画展「最上川―紅花の道―」では、このような多面性を持つ最上川を、主に舟運にスポットをあてて紹介した。

最上川は、球磨川・富士川とならんで日本三急流の一つに数えられている急流であるが、古来舟運が開かれ、流域の経済・文化の発達に大きな役割を果してきた。「延喜式」に野後・避翼・佐芸の三つの水駅が見え、「古今和歌集」に「最上川上れば下る稲舟のいなにはあらずこの月ばかり」(読人しらず)の歌があって、古く平安時代には最上川の舟運が開かれ、また、遠く都の人々にも最上川が知られていたことがうかがわれる。

近世初期、山形城主最上義光が基点・三ヶ瀬・隼の三難所を開削して山形付近までの舟運を開き、元禄七年(一六九四)には、米沢藩御用商人西村久左衛門が黒滝を開削して置賜地方までの舟運が可能になった。その間、寛文年間(一六六一―七三)に河村瑞賢による西廻り航路の開発があって、最上川舟運の重要性が高まった。

村山地方に広い幕領を持つ幕府や、米沢藩・山形藩・新庄藩等々の流域の諸藩は、城米や特産物を江戸や上方に輸送するため、川船役所や船屋敷を設置し、手船を建造、配置するなど、最上川舟運の整備に

51. 報故伯太参事柁原某書（文部省出仕に際して）
 52. 与老盟社書
 53. 与高山悌某書
 54. 送大木参議婦東京序（第三十五帖19と）
 55. 与清客王藩清書
 56. 綜理得宜議（県議会上申書）
 57. 勉勵論
 58. 不論人物論
 59. 真言論
 60. 孝人材論
 61. 毀譽論
 62. 鑑人論
 63. 不事宜不可無論
 64. 喜山樓記（相山寺近くの仮寓）
 65. 評註東萊博義序
 66. 釈了空碑銘
 67. 呈某貴官書
 68. 祝盛宴書
 69. 粟浜尾文部大書記官
 70. 紀佐々木一等侍講顧問顛末
 71. 自信說
- 第四十二帖 愚文漫草 乙酉年
1. 送姚君婦吳中序

2. 超然詩鈔序
 3. 監古亭記
 4. 桑林書屋記（新具有孚新居）
 5. 西湖樓記（弟国分氏邸増築）
 6. 公園賞月記
 7. 書榎本公使書後
 8. 祝折田県令臨校序
 9. 祝長崎学校開業式
 10. 百一書房記
 11. 看雲書屋記
 13. 名順說
 14. 狗尾險草（引並に九首）
 15. 送小牧大書記官赴清国序
 21. 呈某貴紳書
 22. 啓某儒官書
- 第四十三帖（最終稿なく略）
- 第四十四帖
1. 与大陽寺順叔書
 2. 長崎村郵船開業祝辞・代次官作
 3. 賀小倉翁七十初度序（恩師友于堂教授）
 5. 与齋藤季書（齋藤一馬へ）
- 第四十五帖
1. 送堀君三友赴京序

- 第四十六帖
4. 養浩堂詩集序
 5. 書森立之寿蔵碑後
- 第四十七帖
1. 稟柴原知事書
- 第四十八帖 先考行述
1. 先考「松軒府君」行述（父君）
- 第四十九帖～第五十二帖
履歴書関係につき略

23. 遊松島記
 24. 書襍帖後
 25. 書岳麓帖後
 26. 紀山形県令三島君事績
 27. 同代祝文(栗子隧道開業式祝文)
 28. 千歳山賜酒記
 29. 養苗園記
 30. 送三島県令序
 31. 曩祖英信君墓誌(第一代)
 32. 清信君伝畧(第六代)
 33. 曾祖英信君墓誌(第十一代)
 34. 呈穴戸清公使書
 35. 書紀平洲書牘後
 36. 接物説
 37. 郵程馬車説
 38. 後説
 39. 紀板倉重宗京都罹災処置事
 40. 書御箸筥
 43. 奉賀松軒大翁八十誕辰序(父君)
 44. 会心亭記(米沢自宅)
 45. 呈松方内務卿書
 46. 十六橋記
 47. 涉湖記
 48. 観疏水賣記
- (県令の命により佐々木参議に随行して)
49. 遊那須野記
 50. 毛太夫業広伝(米沢藩大参事)
 第四十帖
 2. 紀青原寺所蔵牧溪画事
 4. 教育の方向
 10. 与足立宮内書記官書
 第四十一帖
 1. 杉原楽水翁墓碑銘(在戸氏後裔)
 2. 送佐々木参議序
 3. 与南某書
 4. 自恥帖序
 5. 文明帖序
 6. 瓢遊漫記序
 7. 書欧陽帖後
 9. 酬恩碑(聖上鶴岡巡幸記念碑銘)
 10. 臨幸記
 11. 祭祖先野州公文(第一代)
 12. 論為人之道
 13. 楽説
 14. 真率記
 15. 滝巖橋碑銘
 16. 上三條相公書
 17. 再上相公書
 18. 観海楼記(上杉公芝浦邸)
20. 送肝付君遊東京序
 26. 題鷹山公書幅後
 27. 贈足立宮内権大書記官書
 28. 祝三余学校開業代
 29. 巡校申告之概旨
 30. 贈長井敏卿序(第三十五帖22と合わせて)
 31. 祝議事堂開場式
 32. 紀七浦小学校盛事
 33. 祝天童学校
 34. 某墨先生碑碣
 36. 送成富永錫序(琢成学校長)
 37. 賀宮嶋東溝翁七十誕辰序(家久父君)
 38. 盍簣記
 39. 椗陰寓居記
 40. 無事慮記(木脇済生館長寓)
 41. 体操便蒙題辞
 42. 観桃花記(山形市郊外にて)
 43. 賜暇説
 44. 独坐記
 46. 屈伸説
 47. 幸説
 48. 接物説
 49. 振学議(県令へ教育の重且大を宣示あれ)
 50. 呈某卿書(文部省出仕に際して)

27. 福運随勤勉説
28. 論旨概言 (師範生へ立志を)
29. 小論旨
30. 千歳山記
31. 書画帖小序
32. 探梅記二章 (山形郊外にて)
33. 与多田誠書 (区長、今は県会議長)
34. 与宮島栗香書
35. 無題 (大蔵大輔松方公あて)
36. 無題 (内務卿伊藤公あて)
37. 内務卿伊藤公論旨
38. 大蔵大輔松方公論旨
39. 一等侍講元田永孚奉
40. 賀小田切翁七十初度序 (小田切盛徳父君)
41. 送齋藤教授序
42. 栗子隧道記
43. 呈杉内大輔書
44. 興讓学校開業祝辞
45. 南溝浅間先生墓誌銘 (興讓館提学)
49. 芳賀実秀碑銘
50. 秋夜読書記
51. 奉祝臨幸文
52. 賛松方内務卿臨校文
53. 与岡千仞書

56. 題佐藤翁彰像 (第三十九帖41と合わせて)
57. 論旨概言
58. 足立正声伝
59. 清川新道記
60. 徴兵論
61. 作文奨励議 (生徒に作文を課して)
62. 遊上山記
第三十七帖 弁髦
18. 清川新道記
25. 送大伴編輯官序
32. 諭告大旨 (三島県令より師範生へ)
39. 友社説
42. 自恥窩記 (米沢自宅)
53. 太夫人墓表 (母君)
55. 祖考寿信君墓表 (祖父)
56. 先大妣墓表 (祖母)
58. 養素山房記 (宮島伯敬山房)
81. 文話概旨 六月廿一日 二十三項目
83. 無題 (三島県令諭告、伊藤公・松方公論旨の頒布趣意)

12. 福地歴史説
13. 史説 (福地の史説新警と雖も)
14. 福地某八谷開路祝説
第三十九帖 鄙文 庚辰年
1. 重文章説
2. 積小説
3. 節用而愛人説
4. 無不山草堂記 (肝付兼武寓)
6. 孔方兄伝 (金錢について)
7. 推度説
8. 会心叢鈔序
9. 登富士山記
10. 亡妻三股氏墓表
11. 山形公園記
12. 会心文稿自序
13. 会心漫険自序
14. 会心手帖序
15. 福島旅草小序
16. 書河米庵手帖後
17. 柏山亭記 (柏山寺附近の仮居)
18. 重光陰説
19. 重陽雅集記
21. 浩然窠記
22. 愛菊説

第三十二帖 教育編 乙酉年

1. 教育論 (教育と教師)
 2. 教育論 (富国強兵と教育)
 3. 教育論 (教育と県令)
 4. 教育説 (愛国心と教育)
 5. 教育説 (国の大本は教育)
 6. 知育論
 7. 行育論
 8. 神育論
 9. 文育論
 10. 芸育論
 11. 心育説
 12. 気育説 (教育に貴賤なく)
 13. 教育説 (教育は倫常を主とし)
 14. 教育説 (県教育会へ)
 15. 後説 (同 右)
 17. 教育説 (教育の基本は修身)
 18. 修身科論
 19. 教育説 (教育は学によって立つ)
- 第三十三帖 (山田秀曹芋川八郎筆記)
1. 中庸 齊藤篤信先生講述 於米沢中学
- 第三十四帖 篤信公御書習字本
1. 序 (羽陽叢書之序)

17. 奉送佐々木公序
18. 奉送宮内大輔杉公序

第三十五帖

8. 八谷開道式祝辞
 9. 自愚亭記 (第三十七帖43と合わせて)
 10. 自喜説
 11. 盈虚説
 14. 滝巖橋碑銘
 17. 贈横川少書記官序
 18. 与島土木局長書
 20. 論情法
 21. 涅而不緇室説 (中川千里萬)
 23. 題三條公書幅
 24. 淳風俗論
 26. 飽看山房記 (横川少書記官萬)
 27. 此君園記 (財部警部長萬)
 28. 瓢屋記
 29. 高枕吾慮記 (伊佐早萬)
 30. 古今百家文鈔序
 31. 文明開化説
 32. 權利義務説
 33. 縮交論
- 第三十六帖
1. 開庁式祝文 (県庁)

2. 師範学校開業祝文 (三島県令)
3. 祝辞 (師範学校開業式)
4. 鶴岡中学校開業式祝辞
5. 縦権雅集記
6. 山形僑居記 (旅籠町の仮寓)
7. 羽陽叢書跋
8. 片倉翁行実 (鷹山公近侍)
9. 題舟田某画像 (戊辰戦没者)
10. 米沢文運論
11. 南山学校開業祝辞
12. 山形新聞社開業記
13. 送肝付海門序 (安田遙啓)
14. 与安田老山書 (原精一著)
15. 山形地誌畧序 (酒田観海楼)
16. 観海楼記 (網島自道萬)
17. 観蘭亭記 (伊佐早編)
18. 鶴城詩集序 (伊佐早編)
19. 重盛論
20. 青来閣記 (宮島栗香萬)
21. 交際論
22. 酒田琢成学校開業記
23. 送伊藤内務卿序
24. 題左近司氏繡卷
25. 黙齋記

3. 修身鄙稿 癸未二月	二項目	1. 勉育論		7. 紀伊達邦成偉績	
4. 佐々木参議論旨		2. 択育論		8. 君子之交淡如水説	
5. 修身鄙講 癸未九月	四項目	3. 窮育説		10. 書佐久間象山翁書後	
6. 明治十七年一月七日開業	二項目	4. 総論 (具体的教育論はまわりくどい)		11. 題一瓢翁影像 (宮島栗香父君)	
第二十一帖		5. 理育論		12. 書塩谷岩陰山田長政戦艦図記手稿後	
1. 臨池漫筆序		6. 性靈論		15. 儉吝弁 (麗沢社集会課題)	
2. 贈副島一等侍講書		7. 教育論 宗教		20. 遊後楽園記 (旧水戸邸)	
第二十二帖 臨池漫筆(稿)	五十九項目	第二十七帖		第二十九帖 鄙稿	
1. 臨池漫筆(稿)		1. 奉祝臨幸表		1. 読太平記	
第二十三帖		2. 祝栗子隧道文		2. 青槐書院記	
2. 専心説		3. 紀義社願末 (米沢義社)		3. 星岡茶寮雅集記 (重野安禪寮の文会)	
第二十四帖		5. 文部省諮問答議 十五年十一月廿九日	八項目	4. 義経論	
1. 教育議論 主忠厚		6. 学事上申草 折田県令	十八項目	5. 万葉盧記 (足立正声寮)	
第二十五帖		7. 米沢県社記		7. 光風霽月樓記 (仙台の国分氏宅)	
1. 教育編序		8. 上杉従三位齊憲卿碑 (私稿)		9. 送相浦某之高岡序	
2. 志育論		9. 鄙見封事 (文部卿へか)	四項目	10. 栄辱説	
3. 資育論		第二十八帖		11. 安命説	
4. 達育論		1. 送重野紹一留学清国序		12. 友于会記 (在京米沢人会)	
5. 信育論		2. 送斎藤一馬赴任北海道庁序		13. 上三條相公書	
6. 体育論		3. 紀重野成斎文話		14. 潜字説	
7. 平育論		4. 省官不如省事論 (本帖16と合せて)		第三十帖 関原遺事	
8. 教育説 (胎教と家庭教育)		5. 撰文題不可不慎論		第三十一帖	
9. 教育論 (西欧の教育振興策から)		6. 送星野編修赴畿内搜索古文序		1. 紀事 (藤田東湖エピソード)	
第二十六帖					

斎藤篤信遺稿目録

<p>第一帖 革政大意 (米沢藩へ)</p> <p>1. 革政大意 (米沢藩へ)</p> <p>第二帖</p> <p>1. 愚衷陳言 (米沢藩へ)</p> <p>2. 奉職表</p> <p>第三帖 羈窓漫吟 自癸酉一至丙子</p> <p>1. 自叙</p> <p>2. 癸酉漫草 二十六首</p> <p>3. 甲戌漫草 三十七首</p> <p>4. 乙亥漫草 四十九首</p> <p>5. 丙子漫草 四十二首</p> <p>第四帖 研北余吟 (全て書閑係)</p> <p>1. 研北余吟 (引並詩) 二十七首</p> <p>第五帖</p> <p>1. 小金井遊草 (引並詩) 十七首</p> <p>第六帖 巡回余草 自甲戌一至乙亥</p> <p>1. 旅中漫吟 甲部(北陸) 六十四首</p> <p>2. 旅中漫吟 乙部(奥羽) 七十五首</p> <p>3. 行旅吟草 蕪章 (最終稿なく略) 三十首</p> <p>第七帖</p> <p>第八帖 登嶽詩草 九年八月 六十一首</p> <p>1. 登嶽詩記 (富士山)</p>		<p>2. 余偶読河寛斎北里雜詞風情流麗頗不能無</p> <p>古今沿革之感戲効其響 二十五首</p> <p>3. 羈窓漫吟 二十九首</p> <p>第九帖 野草 (最終稿なく略)</p> <p>第十帖 巡回旅草 壬午十月</p> <p>1. 巡回漫草小序</p> <p>2. 兩郡旅草 二十七首</p> <p>3. 千歳山賜酒時天長節也 二首</p> <p>第十一帖</p> <p>1. 呈大木司法卿以下 十一首</p> <p>2. 題滝和亭蘭竹画以下 六首</p> <p>3. 寄斎藤栞石以下 十首</p> <p>第十二帖</p> <p>1. 西莊観梅遊記 (新宿郊外)</p> <p>2. 同僚遊草 (音羽へ)</p> <p>3. 小金井遊記</p> <p>4. 孤遊漫草序 (横浜郊外)</p> <p>5. 椛田遊記 (同右)</p> <p>6. 観梅後記 (姥湯)</p> <p>7. 雲婆泉遊記</p> <p>8. 山寺遊記 (山形郊外)</p> <p>9. 遊東山記 (山形郊外)</p>		<p>10. 遊佐渡島記</p> <p>11. 過平泉記</p> <p>第十三帖</p> <p>1. 登月山記 鄗草(最終稿なく略)</p> <p>第十四帖 鄗草(最終稿なく略)</p> <p>第十五帖 (最終稿なく略)</p> <p>第十六帖 登見七日記 辛巳五月</p> <p>1. 登見日記 (登日光日記)</p> <p>第十七帖 (最終稿なく略)</p> <p>第十八帖 己酉年東京文稿</p> <p>1. 与清姚文棟書</p> <p>2. 再与姚志梁牘</p> <p>3. 遊州崎記</p> <p>4. 東台観花記 (上野へ)</p> <p>5. 遊墨水記 (偶田川)</p> <p>6. 延遼館盛會記 (清国交渉の成功を祝し)</p> <p>第十九帖</p> <p>1. 鄙言大意</p> <p>2. 修身鄙説</p> <p>第二十帖 修身鄙言 辛巳十月</p> <p>2. 修身演説 壬午三月 二十四項目</p> <p>修身鄙言 辛巳十月 四十一項目</p> <p>(学習院における修身論)</p>	
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

果断にそれを見ることができぬ。

(九)

篤信が畢生の力をこめたものに臨池(書)がある。書に関する遺稿が二十篇余と多い所以である。臨池漫筆(稿)(二二)は二十四枚に及ぶ大作である。先の(六)で引用したように、意見百五十項とあるが、現在残されている稿は六十一項になっている。表紙の次の一枚が前半七分が切り取られた変則の紙になっているので、その前の部分百項位が、何等かの意図で削除されたものか。そのへんのこととは判然としない。書の心構えについて述べられている。

書を学んだ経過については、贈副島一等侍講書(二二二)に詳細に述べている。中国古代の書聖王羲之の法帖に初まり、各代の書家二十余名の書を手本として独習したもののようである。「書を受すること命の如し」と自ら言い、臨池漫筆序(二二一)に、「前略一余、素長槍汗馬を長とび僅かに書を読むを知るのみ。何んぞ臨池に及ぶ暇あらんや。而れども性臨池を好み、時に零時を偷んで以て自ら強ふ。苛くも名帖遺墨に逢へば、之を求獲せんとすること衣食より甚し。真蹟宝書有りりと聞けば、則はち必ず造り観るに千里を厭はず一後略」とあり、その力の致しようの一端がうかがえる。

名帖遺墨、真蹟に関する随想、書に関する詩編(四一)もある。

(十)

維新後米沢藩の治政に、土佐藩の改革に似たものがあるが、それは何によるものか判明しない、という話しを聞いている。遺稿第一帖革政大意は、「高知藩大革政大ニ有所感故ニ粗伝ヘ聞ク所ノ大意私ニ憶記

布演シテ正ヲ乞フ如左」なる米沢藩への建議である。待詔院時代のものか、その退任後か時期は判然としないが、三ノ五年の頃のものと思われる。米沢藩の改革とこの建議との関連は明らかではないが、内容は民意を汲み誠に大局を見通したものと考えられる。その他の建議書、上申書等約十篇についても、大局を見通し、私情を交えずに大胆素直に意見を申し述べている。維新政府何するものぞとの風調の高い米沢藩の中にあつて、内容も斬新であり篤信の気概が感じられる。

(十一)

「馬陵齋藤篤信行迹」では、勇猛果敢にして深謀遠慮、剛毅果断の武人としての篤信を余すなく述べている。百篇余の随想、三十篇の書簡その他からは、謙虚に自らを反省し、こうあるべきであると自らを強いている姿や、清廉潔白にして意志堅固な古武士の風格が感じられる。他から求められて随想風にまとめられた稿や、同じく求めに応じて書かれた碑の跋文等二十篇余もあり、如何に信望が篤かつたかがうかがえる。

篤信自身は三島県令の達見と気概に大いに感じ、県令の事跡にふれながら、そのことを讀んでいる稿が十数篇にのぼる。三島県令も篤信の深い識見とその果断実践する力に、信を置いていたようであり、互に深く通じ敬し合っていたのではないかと思われる。

十分な検討のないまま、偏見と独断で以上述べたが、今後、多くの識者の批正を得られれば幸甚である。

太田久悠 不詳。一篇のみ。

浅間義昌 越後番匠町 歩兵曹長とあるも不詳、一篇のみ。

長井吉徳 門下生とあり不詳。十九年九篇に拝読とあり。

以上であるが、推測するに、詩文に志した当初は、知己であった宮島、片山等の指導を受け、校内の斎藤、肝付の批評や論議により深め、後おそらくは宮島の紹介であろうと思われる当代一流の名士に、批評を乞われるようになったと考えられる。十六年頃までは改訂も多く、文不練、起意不明等かなり酷評も見受けられる。篤信は十八年上京するが、重野安繹主宰の麗沢社月例会に参会し、堂々の論を張り、又謙虚に批を受けていることが遺稿の中に見られる。この頃になると讚評も多くなり、文を志して七年、天下の諸文士に認められる迄に至っている。

(六)

この遺稿の読解が困難である理由は、ほとんどが白文であることばかりではない。随所に引用されている中国の故事、四書五経のみならず、各種の史記等広汎な儒書からの引用にある。この遺稿の中で自分の少壮時代のことはいふまでもない。「少にして書を好み」とか、「壮は長槍汗馬に過ぎて二十年」等のように概括的にふれ、文詩にふれる暇なしと述べるにとどめている。しかし、「馬陵齋藤篤信行述」によると、「二十一才藩校興讓館上席生に、擢んでられたが、宮島昇先生の言によれば、彼は穎異にして、神童の目ざしあり其の藩校に入るや学者は何れも左を虚して相譲れりと、評して居られた」とあり、ついで二十五才より九年間、興讓館勤学兼助読として研讀を積まれたので、当時すでに名実共に儒者として一家を成しておられたことは相

像に難くない。

遺稿の多くは、随って儒教の心を心として書かれていることは当然であろう。特に五十八枚の大作をなす第二十帖の修身論は、約五十項に整理されているが、ほとんど儒教に拠を求めて生徒に講義されていることがわかる。

文部省諮問答議(三七五)、稟浜尾文部大書記官(四一六七)その他の二・三篇にも引用されているが、篤信は、大いに修身に着目し、教育の根本は修身にありと断言し、そのために文部卿と会い、又、上申書を奉呈し修身論を建言している。その上申書とは、まだまだ検討を要するが、あるいは鄙見封事(二七九)がそれか。上申の内容の重点は、他の遺稿の引用も含め勘案するに、儒教を基本とし古今東西の美談嘉事を収録した、修身書の採択が必要であるというところらしい。

教育論約六十篇を含め論説は百篇余あるが、大半は儒教を中心とした修身論であり、教育は国の大本とした教育振興論である。

しかし、教育議論―主忠厚―(二四一)では、「前略―我は唯、皇上を奉り彝倫を主とするを知るのみ、所謂、君義たり臣忠たり、父慈たり子孝たり、夫婦の別、朋友の信、之を総称して忠厚と曰ふ―後略」とあり、この道に悖らなければ、天教、仏教、洋学を問わないと言っている。単なる儒教を金科玉条とする頑迷固陋の徒でない。

このことは、二年待召院出仕、六年教部省出仕により、諸国の人志と交わり、中央政界の流れをつぶさに見聞したことによるとも思われるが、何にもまして儒学の深い研究が、篤信をして大局を見る目を培かかせたことによると考える。戊辰の役出兵の折「この戦に名分なし」と喝破したり、戦に利あらずと衆の反対を押し切って兵を米沢に引く



岡千仞評

重野安繹評

関心を示す。東大教授、女高師校長。十六、十九年にかけて随想を中心に十一篇に朱。

重野安繹（成斎） 薩摩藩士、漢学者史学者で修史事業の基礎を確立。東大教授、東大史料編纂所長。十六、十九年にかけて論説随想等十五篇に朱。

揚 春樹 清国人か、不詳。十九年第二十八帖に朱。

三島 毅（中洲） 備中の人、漢学者。東大教授、東京高師教授。

二松学舎創設。十九年四篇に朱

藤野正啓（海南） 松山藩士、史学者。修史局編輯官。東京府史編纂。十五、十九年にかけて八篇に朱。

姚 文棟 清国公使館員。十八年論説中心に七篇に朱。

岡 千仞（鹿門） 仙台藩士、漢学者。東大教授、東京図書館長。

十四年以降十七篇に朱。年来の知己。

斎藤一馬 会津藩士、文章家。山形師範教授（十二、十四年）

十三、十四年にかけて五篇だけに署名があるが、初期の作品についてはかなり朱を乞うていると推測される。

和 姓か名か不明。第三十五帖一篇に朱。

南摩鋼紀 会津藩士、詩文の大家。東大教授、東京高師教授。

十八年随想を中心に十六篇に朱。

片山一貫 米沢藩士、儒学者。慶応三年興讓館提学、八年米沢中学校初代校長。師友の交深し。十二篇に署名があるが、初期から

晩年まで相当多く目を通されていると思われる。

肝付兼武 薩摩生、山形県編集官を経て山形師範教諭（十二、十五年）、署名は一篇のみ。初期作品に影響ありと推測。

この細分された綴じ方が重大な意味を持つとも推測されるが、未だそれを検討する余裕をもたない。

(五)

遺稿目録の作製にあたっては、その内容はかなりの分野にわたっているので、分野別に整理することは大きな意義がある。しかしながら、(一)で述べたような作業段階では、私案(四)に略記)はあるがまだまだ検討を要するものがあり、発表するまでに至っていない。随って各帖毎に整理したものを末尾に付す。

尚、紙面の都合もあり全遺稿の目録ではなく、最終稿のみの目録にとどめた。各帖の欠番の項は最終稿でないので表示していない。(三)の中段で述べたように最終稿でない稿は、凡そ二百篇にのぼる。題名だけで内容の不明確なものがあり、最少限だが(一)内に要点を補したが、成立年代の特定は問題が多いので付記していない。

(六)

これらの遺稿を概読してみると、そもそも、篤信自身の考えを世に問う為に書かれたものでないことが推測できる。

勿論、建議上申関連のもの、修身鄙稿等の講義原稿、書簡、乞われて書いた碑文等の必要によって書かれたものもある。

終生力を注がれた書について、「前略―且つ浅著有り、臨池漫筆と曰ふ。意見百五六十項に至る。未だ脱稿せず。若し呈するの日幸い覽観を賜はるること有らば、庶幾くは、驥尾の余勢を借りて以て老迂積年の積志を発起する有らん―後略―」と副島種臣に書き送っている(二一―二)が、ここでいう積年の積志とは、「この論を世に問う」というよりは、「老迂に鞭打って書の道に益々磨きをかけた」と、とった

方が自然であるように思われる。特に意を用いられた書についてもこのように考えられる。

それに、清書された最終稿のうち約二十篇をのぞく、大部分の稿に推稿の跡が認められるのは当然としても、三百篇近くの稿を、当時の識者知人に批評を乞われておられるなど、晩年に志を樹てられたことと併せ考え、これ専心文章に精魂を傾けられることを、第一義とされたのではないかと推測する所以である。

(七)

朱が入り(墨訂もあり)返送されてきた遺稿が約三百篇ある。その中に署名入り(年月日入りもある)のものが、詩六編、他百十八篇ある。残る約百八十篇については、筆跡から誰か推測できる稿も五十篇余あるが、今後の十分な検討を必要とする。

朱の署名は、二十名に及ぶが、当時一流の漢学者が多く、清国人四名も含まれ、篤信の文章道へかける決意が並々でないことがわかる。その氏名、略歴、概要等を、氏名の発現順に整理すると次のようである。

恭 処魯 清国人か、不詳、詩五編に朱。

宮島誠一郎(栗香、養浩堂) 米沢藩士、詩人。修史館宮内省を経て貴族院議員、当時有数の支那通で中国語学校創設。

篤信と交友篤く詩にはほとんど朱を入れている。

渋谷 啓 彦根生、中村正直に学び後学習院教授、東京高師教授。鄙見封事(六九)に朱。

張 滋助 清国公使館員。十九年頃か論説三篇に朱。

中村正直(敬字) 幕臣、昌平黌教授。慶応二年渡英。洋学にも

のではない。相当数の成立はあったと思われるが、不明の点が多い。十八年上京後、重野安禪主宰の麗沢社月例会への提出論文、第三十二帖教育編（十九稿あり）は表紙に十八年稿とあり、その他にも内容からして十七、十九年成立と推測されるものがある。最終稿の中には、当時名のある漢学者（後述）の批正を受けるために、十七年以降清書されたと推測されるものも多い。

粟子隧道記（三六四）、清川新道記（三六五）、開庁式祝文（県庁開庁式一三六一）、祝議事堂開場式（四一三）、師範学校開業式祝文（三六二）、酒田琢成学校開業記（三六二）等、当時の県事蹟、教育事蹟に関する四十余篇、上三條公書（二九三）呈実戸清公使書（三九三）等当時の貴官、知人等あての書簡原稿三十篇、先祖代々の業績、父君母君記（三七二、三七五）等十余篇は、ほとんど十七年までの成立であろう。

四

前(三)項で遺稿の成立年度を大凡検討した。しかし、それは各分野の序を手がかりとし、各稿の明記された年度、年度の明記のないものはその内容により推測される年度、などを勘案して検討したものである。実際は年度を明記した稿は比較的少なく、内容による推定も、その内容以前でないことははっきりしても、成立年度の特定はむずかしい等、今後十分の検討が必要である。現段階で推測される範囲で整理すれば次の通りである。

1. 建議上申書等 十余篇 米沢藩あて四、五年

他は十四、十六年 十九年以降一篇

2. 詩 十二編 四、十年 十五年が一篇

3. 旅行記・遊記 約三十篇 七、十七年（以降は少々）

4. 論説 約百篇余 十一、十九年（相当数は十七年まで）

5. 随想等 約百篇余 十一、十九年（同 右）

6. 県・教育事蹟等 約四十篇 十一、十七年

7. 書簡 三十通 十一、十七年（以降は少々）

8. 先祖業績等 約十篇余 十二、十七年（同 右）

以上一応の見通しをつけたが、そもそも遺稿の各帖に番号がついていたわけではなく、今後の検討を重ねる上で通し番号の必要を感じ、遺稿の成立年代を勘案して、筆者が第一帖から第五十二帖の番号を付した。更に各帖の中は、題名ごと綴込み順に1、20のように通し番号を付した。

第三帖、第十一帖は詩編、第十二帖、第十八帖は旅行記、第二十帖は修身論、第二十三帖、第二十六帖、第三十二帖は教育論と統一され、単一稿で一帖（一・二・二一・三〇・三一・三三・四五・四七・四八）をなすものもある。しかし、他の多くは成立年代も分野もばらばらであるのは、一体何によるものか。又、この帖作りは篤信自身によるものか、或は関口氏がある意図によって作りなおされたものか、不明の点もある。

随って第一帖から第五十二帖まで、必ずしも年代順になっているとは言えない。その上、第四十九帖は校長退職時の教え子の送序、第五十、五十一帖は履歴書、第五十二帖は伊佐早謙著「馬陵齋藤先生行迹」なので、意図的に最後の方に位置づけたものである。

第二十七帖、二十九帖、第三十五帖、四十一帖の十帖は、二、八に細分した綴じ込みを一括している。各稿の成立年代を考究する上で、

明治二十四年十月(一八九一) 米沢にて病没 六十六才

(三)

第三帖「羈窓漫吟自叙に、「前略」余少壯にして詩を学びて成らず。其の文に於けるも愈々然り。「中略」槍馬に奔走し未だ文詩に違あらざるなり。聖世革新に朝官の末に叨^{トウ}劇し、旁ら四方文藻の士と交はるを得たり。翰墨の人に及ばざるを恥ち爽然自失す。「中略」癸酉再び教部に官へるに及び、官暇に随ひ筆に随ひ、是れを起草の始めとなす。「後略」」とあり、篤信が本格的に詩(漢詩)や、文(漢文)にとり組んだのは、明治六年四十八才にならんとする時からである。

遺稿の中で最も早い時期の明治四一五年(以下年号は明治を略す)の第一・二帖は仮名交り文であり、遺稿の中にこれ以前の文詩が皆無であることも、この引用から理解できる。

詩については四年二月米沢藩毛利参事と共に上京の途次、賦詩したものが第六帖3、行旅吟草におさめられている。六年教部省出仕以降十年頃まで、北陸奥羽の巡察、小金井、富士登山等の旅行の折に賦詩したものを中心に、十数章五百首近くある。十一年文に専心することを志し、一たん詩を絶つが、十五年両郡旅草(第十帖2)以下十2のように略す。東西村山地方学校巡察の途次)約三十首がある。尚第三帖、第六帖収録の七章は、二十一年再び推稿されていることが、表紙のメモで明らかである。

孤遊漫草序(一二4)に、「前略」癸酉一月又教部の辟^{ヒキ}く有り、篤信拭涕して家君に告別す。家君乃ち曰く、音に平安のみならず、奇聞佳遊も宜しく報ずべしと。「後略」」とあり、旅行記や遊記を書くのは家君即ち父君の命を受けたためであり、その勝概と実況を悉^シすを主

とし、文の功拙はあまり問題にしないと結んでいる。第十二帖の小金井・相田・佐渡・平泉、第十三帖の月山、第三十九帖の富士山・松島の旅行記は教部省時代のものであり、師範学校校長時代、十八年からの東京在住時代にも遊記があり、凡そ三十篇となる。特に篤信は梅花・桜花を愛しその関係のものが八篇を占めている。

遺稿の中で特に重要なものは、百篇余の論説と、百篇余の随想であらう。このことについては、専心説(二三2)で、「志を樹て専心是れを致せば業は成る」と、古来中国賢哲の例を引き老迂は問題でないことを説き、「前略」吾が年五十四にして(師範学校校長就任時)始めて文を学ぶ。此の時に当たり、朋友親戚其の迂を笑ふ。余と雖も亦自らの愚を笑ふなり。時より厥^ソの後、目は復た新誌紀聞に触れず。「中略」遂に賦詩の宿好を絶ち亦以て文に専心す。「中略」爾來五年有紀にして、稿凡そ三百余編を得たり。「後略」」と述べている。当時としては誠に高齡に達しながらの一大決心であり、強固な意志と身を削る刻苦勉勵によって、偉大なる遺稿を残されたことに、ただただ崇高の感にうたれるのみである。

このことは、単にこの稿だけでなく、随所に引用され、又、如何に目的を定め自らを強いたかの引用もある。更には、初稿を推稿し清書され、推稿を重ねてまた清書された三稿、或は、他に批評を求められそれを推稿して清書される等、最終稿以外のものが、この遺稿の中に二百編近くもある。最終稿だけのものも、その内容から膨大な初稿、二稿等があったであろうことを推測するとき、高齡にして刻苦精勵されている姿が、眼底に髣髴と浮かび上ってくる。

勿論、これらの論説、随想は師範学校校長時代にすべて脱稿されたも

(一)

しかし、前述したようにほとんどが白文である。但

1. 第一帖 革政大意 十枚 仮名交り文
2. 第二帖 愚衷陳言等 四枚 仮名交り文
3. 第三十七帖の33・37・38・83 三島県令、伊藤内務卿、松

方大蔵大輔公論旨、この三論旨を県内に頒布する山形県師範学校名の趣意書 十一枚 訓点付き

があるだけで、全文を解読し理解することは至難の事である。わずかに最終稿(後述)約三百五十篇のうち、約一割四十篇について、山形東高等学校伊藤行生先生の御指導を得て、解読することができた。他の三百余篇については、題名の確認、梗概、成立年度等の推定、又、当時の有名な漢学者の批正を受けているので、その批正者の確認等にとどまっている。随ってこの稿は、現在までの筆者の作業範囲内で行ける、遺稿目録の整理を中心に、遺稿成立の過程、遺稿の概要等外形的な整理の現状を主として述べ、今後の研究に資する所あれば幸甚と考えている。

勿論、前述のような作業段階であるので、理解不十分な事項や、誤解している事項も多くあり、それが今後の研究の障害とならないよう、配慮しながら以下稿を進めたい。

(二)

齋藤篤信の経歴行迹については、その詳細は「馬陵齋藤篤信行迹」にゆずるが、稿を進める上で必要な概要を整理して次に示す。

文政八年九月(一八二五) 米沢藩士齋藤庸信長男として出生、幼少より書を好み励む傍ら、父君より儒学の指導を受

け、後興讓館に学ぶ。この間長槍汗馬にも意を致す。

嘉永三年十月(一八五〇) 二十五才 興讓館勤学兼助読、以後九年間その職に在り。(年令は満年令、以下同)

文久元年七月(一八六一) 三十五才 糠之目岩将

同 三年二月(一八六三) 三十七才 高島岩将

慶応元年十二月(一八六五) 四十才 典調(奥取継) 中士隊頭

明治元年五月(一八六八) 四十二才 戊辰の役に大隊長として参

戦、長岡城攻略に功あり、藩主の感状を受ける。

同 七月(同) 軍務参謀 和平交渉の全権を担い果す。

継いで藩命により会津藩、庄内藩の説得と和平交渉に

あたる。

同 二年九月(一八六九) 四十四才 待詔院下院出仕

同 三年十一月(一八七〇) 四十五才 米沢藩宣教使准少参事

同 四年八月(一八七一) 同 藩校総掛兼任

同 六年一月(一八七三) 四十七才 教部省出仕(権大録)

七年北陸庄内方面、八年福島宮城山形秋田方面巡察

同 九年十月(一八七六) 五十一才 第十大区(米沢)長、

粟子隧道開鑿に奔走

同 十一年九月(一八七八) 五十三才 山形県師範学校副校長

同 十二年二月(一八七九) 同 校長

同 十七年二月(一八八四) 五十八才 師範学校長退職(帰米)

同 十八年一月(一八八五) 五十九才 文部省編輯局出仕

同 十月(同) 六十才 学習院教授補

同 十九年六月(一八八六) 同 退職(帰米)

山形県師範学校初代校長齋藤篤信遺稿について

囑託 松田源惠



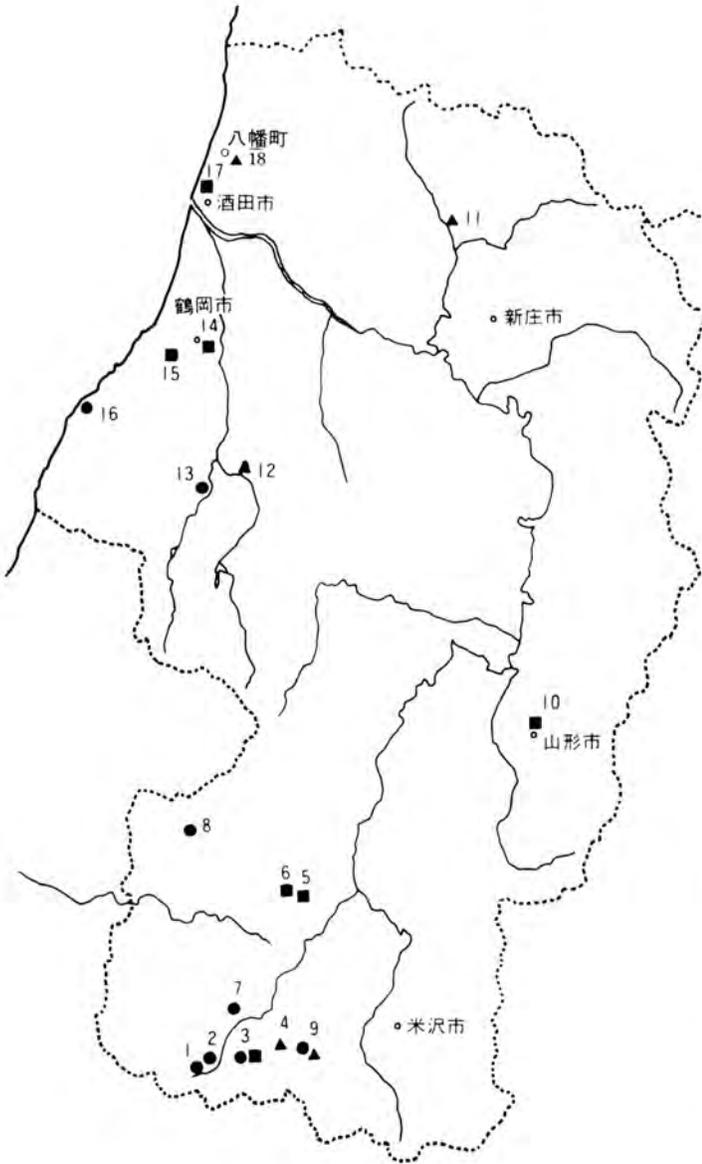
齋藤篤信遺稿 (その一部)

明治十一年山形県師範学校創設にあたり、時の県令三島通庸に特に乞われて、初代校長に就任した齋藤篤信について、研究された文献がなく、米沢市史資料関係等でその生涯の概要を知るのみであった。それを憂いられた前米沢信用金庫理事長種村一郎氏（篤信の外曾孫にあたる）が、故関口信介氏著（同孫）による「馬陵齋藤篤信行迹」を昭和四十一年五月発刊された。

これによると、篤信の遺稿が数百篇現存し、全容白文である故、解説困難であるとしながら、かなりの部分に引用されその行迹を詳細に論述されている。勿論この本によって遺稿の全容を推測すべくもないが、我が県近代教育の方向づけに、大きな足跡を残された齋藤篤信について、研究を深める上で是非この遺稿について調査を進めたいと考えていた。

昭和五十九年一月種村氏の御好意により、故関口信介氏女婿内田映氏所蔵の齋藤篤信遺稿を拝見することができた。遺稿は五十二帖に綴じ分けられ、奉書紙・和紙（B4版1封あり）、白紙約千二百枚、一行二十字、十八〜二十行平均にていねいに墨書されたものである。多寡の差はあれ、ほとんどの稿に朱・墨の加筆があり、幾度も幾度も推敲された様子がうかがわれるものである。幸い全文コピーのお許しを得た。以下そのコピー稿の検討によりこの稿を進めたい。

近世期山形県内の木地物・曲物・剝物の生産地一覧



1. 飯豊町岳谷
2. 〃 岩倉
3. 〃 広河原
4. 〃 小屋
5. 〃 新沼
6. 〃 大平
7. 小国町赤沢
8. 〃 五味沢
9. 米沢市入田沢
10. 山形市内
11. 真室川町大沢
12. 朝日村大網
13. 〃 大針
14. 鶴岡市内
15. 〃 大山
16. 温海町五十川
17. 酒田市内
18. 八幡町観音寺

— 凡 例 —

- 木地物 … ● 印
- 曲物 … ■ 印
- 剝物 … ▲ 印

・生産地は現在の地名で記した。

親類直右衛門

波合村罷在候木地師

伊兵衛

右

平谷村

向方村

波合村

右三人差添

平谷村

名主

組頭

藤三郎

文化四卯年九月

寺社御奉行所様

前書之通り御裁許并大貫右衛門外三人、御仕置被 仰付候趣、京都可申遣段被仰渡承知奉畏、依之奥書印形差上申候以上

白川家家来

関東執役 山本曲膳

注 蛭谷派と君ヶ畑派の激突が、文化元年（一八〇四）三河国土

津具村で起った。この争いは江戸へ持ち込まれ寺社奉行の吟味を受け同四年裁許が下った。この事件を「白川一件」と呼ぶ。

申渡（木地屋掟）

一 惟喬親王御願所、日本国中木地師之惣鎮守筒井 正八幡宮御由緒、旧例之儀、木地師輩者知礼類也、數百年來に今迄、御高德世に顯然として、日本随一之木地職業專ニ被行、其規本違失致シ間敷事第一也、依之先規之任例、折々人別令改正候得とも、先年京都白川家より紛敷故障申立、江府於 御奉行御吟味請之候処、往古 勅許公文所無隠所之由緒、正敷蒙 御裁許、依之諸国職方之面々、益々職業之規本分明ニ候得者、難有被存、聊も無鹿抹大切ニ崇敬可有之事ニ候、尚其職方江、諸役御免許相渡有之事ニ候得者、其旨先規急度相守リ可申事

一 御公儀御法度之邪宗門無之様、相互ニ吟味致し、若紛敷もの一人ニ而も有之候得ハ、早々可申出候事

一 博奕・賭諸勝負、其外万々御法度之品々、急度相専リ、諸事猥リニ無之様、常々可相心得事、惣而印鑑無之者へハ不依何事ニ、一切取敢申間敷候

右之趣急度相専リ、一統職業大切ニ相励可申候、依之夫々厚ク申渡候間、往昔元祖之御恩沢忘脚致し間敷もの也

安政四年巳ノ七月日

日本国中木地師支配所

江州筒井公文所 回

注 安政四年（一八五七）蛭谷派の巡国使が出羽国を廻った時木地

屋小椋銀右衛門に与えたものと思われる。

木地師、六左衛門、五郎右衛門、御吟味中病死いたし候間、其旨可
 存段、被仰渡候
 右被 仰渡候趣、一同承知奉畏候、若シ相背候ハ、重罪被仰付候、
 且過料錢之義ハ三日之間、当 御奉行所様可相納旨被仰渡候、是又
 奉畏候、依而御請証文奉差上候迄如件

白川御家家来

大貫 右衛門

同 伊藤 主膳

右兩人人代

同 富永 左衛門

同 青山 帯刀

井伊掃部頭領分

江州愛知郡

蛭谷村

筒井八幡宮ノ神主

大岩 右近

同村名主惣代

組頭 長大夫

君ヶ畑村名主惣代

惣左衛門

組頭 定平

松下内匠御代官所

三州設楽郡上津具村ニ罷在候

木地師 要蔵

佐多郎

同村百姓代

吉蔵親

新左衛門

百姓七郎兵衛

名主組頭惣代

名主 山三郎

内藤山城守領分

同郡下津具村百姓

弥助

小野田三郎右衛門御代官所

信州伊奈郡根羽村ニ罷在リ候木地師

甚右衛門

忠左衛門

同村名主

庄左衛門領ニ付

弟勇吉

坂部村ニ罷在候木地師

源右衛門

十 蔵

喜左衛門

善三郎

惣左衛門

右五人惣代兼

源右衛門

平谷村ニ罷在候

同 勇助

向方村ニ罷在候木地師

新右衛門領ニ付代

江罷越シ、職業之道具取上候故、根羽村旅宿江大勢罷越シ、及騒動ニ候始末ニ相成リ候段、不届成る取斗不埒ニ付、三人共ニ押込被仰付候

一大岩右近義、木地師支配仕来リ候迄白川家家来廻村致、木地師ハ白川家配下之由申聞、職業之免許状等相渡、金子取立、木地師一統難義之趣、浪合村伊兵衛義惣代引請注進致候節、木地師職之義、白川家把リ合セ無之間、如何様申参候共、心得違不致様申聞候を、書面受取度旨、伊兵衛任申旨ニ、心得方之廻状差出候ハ、不騒立様之義可書載所、認方不行届、無念ニ付御叱リ被置候

一要蔵、佐太郎義、白川家家来申渡候趣、難波致候段者無謂之義ニも無之候へども、職業差留メ道具取上、難義之詛を以、村役人江相懇候節、青山帶刀江相佗、道具取戻可遣旨申候へ者、其意ニ可任之所、同職六左衛門任申旨、根羽村江罷越、上津具村新左衛門外式人、青山帶刀江相働候得共、承引無之間、直々相願候様申候、右旅宿江罷越シ、帶刀江面談之義申込、面会不致、大岩右近江相届ケ候積リニ幕懸札取外之、村役人共取扱ルニ任候義者乍申、誤之一札并ニ会符・桃灯等受取、其上元木地師吉左衛門、繁次郎ニ可有之与存シ、青山帶刀召仕之者を縛相糺候始末、不埒ニ付、兩人共手訴被仰付候

一新左衛門、七兵衛、弥助儀、木地師要蔵外三人白川家家来之申渡を以拒、職業之道具取上難氣之趣、村役人共申出ルニ付、白川家家来ニ相佗、道具取戻遣シ候積リニ、村役人共方願請候へバ、青山帶刀不承知之旨申候得共、木地師不騒立様、宥置可申候処、要蔵其外之者共相尋之節、帶刀江懸合候得共、承引無之間、直ニ相

頼候様申聞候故、木地師及不法候始末ニ相成リ候段、不埒ニ付、三人共ニ過料錢三ツ文宛々取仰付候

一甚右衛門、忠左衛門義、上津具村木地師共、白川家家来申渡候儀ヲ相拒、職業之道具取上及難氣候、及承見舞罷越、六左衛門外三人、村役人共方養育受候積リ之相談加リ、名主半右衛門宅江供々罷越シ候節、道具取戻シ可遣段、村役人申候ニ付、右否可承る事出向新左衛門外式人、任申旨、其節参り合候者共一同、青山帶刀旅宿江罷越シ、誤之一札・会符・桃灯等受取候始末、不埒ニ付、兩人共ニ屹度御叱被置候

一源右衛門、十蔵、喜左衛門、善三郎、惣右衛門、要助、新右衛門儀、上津具村木地師六左衛門外三人、白川家家来申渡之義相拒候、職業之道具取上、及難氣候旨為知来、六左衛門方江罷越候節、村役人共方養育請候積リ相談加リ、名主半右衛門宅江供々罷越シ候迄、道具差戻可遣段、村役人申候ニ付、右否可承り根羽村江罷越シ、新左衛門外式人任申旨参り、召候者共一同、青山帶刀旅宿江罷越、誤之一札・会符・桃灯等受取候始末、不埒ニ付、一同屹度御叱被置候

一伊兵衛儀、白川家家来国々相廻り、木地師共江免許状等相渡、金銀取集メ候趣及承り、近村々木地師惣代引受、兼而支配ヲ請候大岩右近方江罷出、木地師一統騒動難氣之段申立、心得方々廻文受取、返達致候へ者、不騒立様可申通候迄、不行届儀無念ニ付、屹度御叱被置候

右之外、先達而吟味ニ付、被召加候者共も不埒之筋無之、御構無御座候間、今般不罷出者共江者、其旨可申通、且上津具村ニ罷在リ候

差上申一札之事（白川一件関係）

白川家家来青山帯刀外式人、木地師共及不法候間、申立候一件、再
 応被遂御吟味迄、大貫右衛門外三人義、木地師共白川家配下之由申
 立候得共、木地師支配の義、今更御輪旨を以可被極筋無之、天正年
 中丹羽五郎左衛門殿、増田右衛門殿迄ニ相渡候職業之免状、氏子斬と
 唱木地師共より初穂被集候往古方之帳面大岩右近所持致、右之免状
 宛所ニ簡井公文所与有之、右近義無謂公文所与認候義ニも無之、君ヶ
 畑村ニ而大皇明神之神社主小椋信濃与唱、百姓共年番ニ右之名目越以
 木地師支配致、従往古両社中ニ而支配仕来り候段ハ、木師共申口も符
 合致、白川家方木地師共江会符渡置候由日記有之候、所持致者無之、
 貢納料差出シ候段日記ニ有之由ハ、元禄・宝永・寛延年中三渡ニ限
 リ連綿不致、神祇官之記ニ近江国小野神社木地器物進上之由茂、
 木地師支配之証拠ニ者難御取用、君ヶ畑村方品々申出候義者、宝曆
 年中以来ニ而、往古申出候証拠無之、宝曆六年君ヶ畑村之者始而白
 川家江館入候段ハ、其頃之奉加帳ニも記有之、領主江も無沙汰会符
 預ケ置、既ニ明和年中君ヶ畑村与蛭谷村与及出入ニ候節、地会符用
 ひ申間敷旨、領主迄ニ申渡シも有之、加熟之一札被為取替、其後申
 出候義も無之上ハ、不和合中之書面者信用難成、宝曆以来会符渡シ
 置又者金龍寺を配下等心得取扱候段も不相当之至、君ヶ畑村・蛭谷
 村両村者勿論、木地師共相指ミ候上者、今般職業之免状鑑札江相渡、
 冥加金并貢納料取立、木地師共支配可致由者、新規之義ニ付、申分
 難立候、諸国ニ散在之木地師、其所之人別ニ不加、君ヶ畑・蛭谷兩
 村ニ由緒有之、井伊掃部頭方ニ而取停申付置候を、他方支配致、往
 古方之仕来り可致筋無之、依之神祇官江木器物相納義ニ付、白川家

伯職之訳を以君ヶ畑・蛭谷兩村江下知可被致者格別、木地師者是迄
 之通り君ヶ畑大皇明神、蛭谷簡井八幡宮両社中ニ而支配致、君ヶ畑村ニ
 預置候会符者白川家江返納いたし、宝曆六子年以前之通り相心得、諸
 事仕来り之通り取斗候様被仰渡、銘々不埒之段者右之通り被仰渡候
 一 大貫右衛門義、木地師共者君ヶ畑村大皇明神、蛭谷村簡井八幡宮
 両社中ニ而支配仕来り候段、相弁罷在候上者、木地師共取締改正
 之趣、兩村江掛合、故障之筋有之候ハ、主人江申聞非分無之様
 ニ可取斗等、木地師共住所取調候積リ、君ヶ畑村江罷越し白川家
 配下取締之義、奉行所方申渡候趣申出シ、木地師共名前認候帳面
 等差出シ候様申聞、改正之趣申渡候処、領頭方も差図無之候而者、
 帳面差出シ候義者勿論、請書も難差出シ旨相答候ヲ、内々一覽い
 たし度旨申聞、帳面為差出写取候上、奥印形押切等致候段、理不
 尽成る致方、既ニ村役人共事、六ヶ敷申聞江候故、写取候帳面を
 も相添差戻、蛭谷村大岩右近江掛合候而者、故障出来可申与諸国
 江相廻り、木地師共江改正之趣申渡シ、屈眼不致者も職業免状・
 鑑札与相渡シ、冥加金為差出、以来貢納料可差出旨之請書申付、
 拒候者ハ職業之道具取上候積リ、新規之取斗致候故、木地師共及
 騒動ニ候始末ニ相成候段、不届ニ付、軽追放被仰付、但ッ御構之
 場所徘徊いたし間敷旨被仰渡候

一 青山帯刀、伊藤主膳、富永右衛門義、大貫右衛門随徒致取斗候義
 者候得共、白川家配下為取締、右衛門一同国々相廻り、木地師共
 も改正之趣申渡、屈眼不致者江も職業之免許状・鑑札与相渡、冥
 加金取立、其上以来貢納料可差出旨之請書申付、右衛門与立別、
 以後上津具村罷在候木地師共、申渡ヲ相拒候迎、木地師共之小屋

ミヤこにもにぬ住居とぞおもふ
さざなみの御池に木々の枝たれて

いまつ君にあひおひのまつ 中納言

月宮殿学、宣柴庵引結心寂座所鹿鳴声紅葉散行見、宣発心修行菩提涅槃悟、宣元慶三己亥年御歳三十三此山住十九年、霜月九日崩御被成、宣君畑社立奉宮移、勅々鈴音迷殿上当々鼓響聞宮前、南無皇大明神守護、宣御子神主愛貴、同写愛智郡岸本太子殿南表皇大明神正八幡宮並立、宣毎月八日九日小掠大政大臣出仕畢

千時承久庚辰年九月十二日

大蔵卿雅仲

民部卿頼貞

藤原 定勝

素鑽表祇命記（惟喬親王縁起）

夫素鑽ハ、四品親王惟喬の製作也、皇都に住憂之時、此国にうつらせ給ふ、当山筒井峠に皇居を定、時に貞観七年霜月八日に、正八幡宮を觀請あり、新居之御殿ニおひて、每日一乗の妙典經を訓誦給ふ、或時誦誦經の軸の廻るに御心をつけさせ給ひ、轆轤之軸を工夫し給ふ、大木主膳重春に課て、瑞籬之内ニ床をすへ置、須叟、青々然とし而諾若たり、丹誠を抽て謂日、南無正八幡宮、轆轤師木地司之鎮守、器質を日本六十余州にひろめ給へと、祝詞して表婚たまへける

道具の因縁之事

自鉈を御手にとらせ給ひ、后女に繩を扣へさせけるハ、伊奘諾・伊奘冉尊、天之浮橋の下にて昔為、夫婦して此六合を初給ふ処也、か

りそめにも、二人によらねバ成ぬわざ也、去に依而、床ハ秋津嶋に表して蜻蛉の形ニ作らせ給ふ、かま男は、神道ニ而ハニタ柱神、天津児屋根之命・天太玉之命なり、仏道ニ而ハ金胎兩部之大日如来、合ハ日輪月輪、はなつれば三日月、柱男ニも表、軸ハ法花經之軸、繩ハ紐也、鉢ハ四隻の星、鉈ハ玉斗の星、軸杵ニ而器地の形を作るハ、陰陽和合、轆轤の廻るハ、十二因縁の過去・現在・未来をめぐる処也、鉢跡ハ四天王、多門・持国・增長・広目也、扱軸に向ての徳心は、出ル息にて繩を引、入ル息ニ而鉈をあて、陰陽阿吽の二字を試みせふ妙、円頓止觀を悟り得て、即身に妙法を兼、聡には五相成身と觀し、心に月輪を澄し、円頓四教の宗を開キ、五時八教之玉をミかき、興蹟ニてあまねく国土の常器となし、諸天仏神の法器となし、人輪貴賤の日用物ニつかわす成ハ、朕ケ菩提之種と成バならさらむ哉、同十四年七月四日に、宝算廿六にて出家し、素覺と改名し給ふ也、正に皇ハ阿弥陀の化身ニして、一切衆生に利益の方便を以、素鑽を始メ給へは、尤如来の本願ニも相叶、去に依而、皇卯之御年にて、本封震下連の仏体ハ、文殊菩薩なれども、阿弥陀を本尊ニし給へ、後にハ願を踏て、掲婁のため、習合の八幡宮と神ニ崇給ふなり、全此職を勤る者ハ申ニ及ハズ、世の人器地之思沢疎に思ふへからず、器地司・轆轤司等之根元如斯、杓子師同前也

日本国器地師轆轤司根元

江州愛智郡

筒井公文所

御繪旨を下し給ふ、また正親院御宇、轡轡師・杓子師・塗物師・挽物師等之四職者、代々器質之基本として、御繪旨頂戴いたし、織田信長公御代丹羽五郎左衛門殿、豊臣秀吉公御代増田右衛門尉殿兩所より、御免状に名宛簡井公文所と認有シ、依日本国中右四職とも、簡井公文所支配所ニ而、御繪旨・御免状之四通者、職頭大岩右近所持ニして、諸国ニ散在之木地師者、御繪旨・御免状之写ヲ以、四職とも諸国ニ山入して、益繁榮なり、悉是簡井正八幡宮の氏子ニして、慥成証の近きは、文化年中、京都何某御殿より、木地師支配之儀ニ付、出入ニ及び一件江府御奉行所ニおいて御穿鑿有之、由緒無隠処の蒙り御裁許、今本朝職業之品多といへども、其源一ニして、其末の乱れざるは、偏ニ元祖御高德仰尊むべくもの也

日本国中木地師支配所

江州簡井公文所圖

(惟喬親王緣起)

抑惟喬親王御位清和天皇奪取儀、宣親王鱗乱座宛迫身捨、宣貞觀初曆卯三月五日階出白馬乘東路飛、宣悉達太子檀特山飛、宣不異大政大臣実秀卿堀川中納言其外一兩輩無準御供駒歩覺、江州愛智郡岸本城橋着、宣遙後悉觀覺、日輪日没及爰一塔仏閣見、立寄一夜可明、宣翁一人見此所謂語聞、宣翁益言、昔年聖德太子此所守屋大臣軍、宣時城郭構被掛渡橋城橋名付、八棟作千盤屋、經奈良都被立置春日大明神七堂伽藍、本堂春日大明神御作、業師如来並聖德太子御社、是々侍言玉哉、阿誰彼時太子殿親王奉移三日三夜平籠座滿八日、朝催愛智河上駒歩覺、弓手山流出河原珍敷在石下益雄問、宣此所小椋郷言、昔千手姫此河上山居

有御經読、宣諸天仏供養覺、此旧跡分登、宣九尺四方計有岩屋行燈跡、終夜法華經読誦、宣雲明方大政大臣覺、宣小椋郷滞在自今以後小椋大政大臣実秀卿可号、愛智河上駒早、宣所山坂鹿駒足不立漂行、宣山里家間荒棘道行覺、杳人声山彦谷峰響深山辺

世をいとふえちの深山のよぶこ鳥

ふかきころを誰がしるらむ

讀、宣區所行覺所、亜小屋二三間在、寺々親王奉移白地溢旅放御座、

杳人交先飯屋立覺、都公家人々御跡慕有奏聞覺

東路の深山の奥のきみがはた

はこぶあゆみはけふの宮人

いまほとと瓜木こるべきやどのまつ

千代をバ君と猶祈るかな 大納言

峰雲谷月詠詩歌管絃慰、宣公家人々杳人近付器木地作世營、君運歩年月送覺、常仏道不懈、宣大乘妙典經教訓読、釈迦大日弥勒回向御座覺、同七年乙酉霜月八日、簡井峠正八幡宮勸請簾上十一面掛、貴賤運歩本意叶、宣天下奇特靈夢御座、逆風逆雨或雷電早魁冷気病国土民不易、公家殿上人寄集有評定座覺、有正占、宣畏算面勘、惟喬親王東山家飛、宣謂也占、誥左有、宣旨立御領付皇大明神可守護宣覺、勅使君畑下向此奏聞親王、難不非觀覽御座小椋大政大臣敬、拜領畢、皇御領等傍示之事、近江國愛智郡之内岸本愛智河界八風峠迄、伊勢界峰雨分、犬上郡界峰雨分、簡井堅木坂迄、白濟寺界峰雨分大覚寺門前迄、自是愛智領小椋郷仍如件

御製

有時河上分入、宣一池汀松桜神瀾迄枝垂新

深山辺の池の汀に松たちて

往来手形

一、此木地師新右衛門、当方支配之者ニ而、則免許相渡し置、諸国山々致居住、山木相尽候へ者、折々住所替仕り候而、諸国散在之儀ニ候間、往来之節者、妻子眷属不残相連罷越候間、其節者、所々御関所無滞御通し可被下候、為其手形仍而如件
文政十亥六月日 日本国中木地師支配所

江州愛知郡

諸国御関所

筒井公文所

御役人衆中

往来手形

一、此木地師太右衛門、当方支配之者ニ而、則免許相渡し置、諸国山々致居住、山木相尽候得者、折々住所替仕り候而、諸国散在之儀ニ候間、往来之節者、妻子眷属不残相連罷越候間、其節者、所々御関所無滞御通し可被下候、為其手形仍而如件
文政十亥六月日 日本国中木地師支配所

江州愛知郡

諸国御関所

筒井公文所

御役人衆中

往来手形

一、此木地師銀右衛門、当方支配之者ニ而、則免許相渡し置、諸国山々致居住、山木相尽候得者、折々住所替仕り候而、諸国散在之儀ニ候間、往来之節者、妻子眷属不残相連罷通り候間、其節者、

所々御関所無滞御通し可被下候、為其手形仍而如件

文政十亥六月日

日本国中木地師支配所

江州愛知郡

諸国御関所

筒井公文所

御役人衆中

櫛器 小野宮惟喬親王略伝記

元祖

夫本朝木地の肇と申けるは、人皇五十五代文徳天皇第一の皇子、惟喬親王御示教なり、其来由者、親王常々穩遜の御志ありて、太政大臣実秀卿隨身致され、纒の供奉ニして、貞観元年己卯三月、愛智郡の深山ニ分入らせ給ひ、筒井山ニ柴の庵引結、かり初ニも御殿の経営とす、此辺者すべて幽邃寂莫の地なれハ、詩歌詠し給ひし、御製数章あり、又毎日大乘法花経を誦誦し給ひけるに、有時御経を巻返し給ふに、紐の巻附しを、御心寄せ給ひ、轆轤挽物御製作思召ありて、実秀卿ニ命せられ、実秀卿ハ、仙人大木主膳召れ、御示しあれハ、主膳謹而承り、轆轤并道具を調達し奉る、時ニ実秀卿始め、主膳同床にて挽物の所作有に、御示教互者す、木地器物出来せり、然しより大宮人始め主膳類親のもの共挽習者せ、次第ニ職業の基となりける、是即本朝御器の基本也、親王御感斜ならず、筒井峠ニ正八幡宮勧請あり、器地師之氏神となし給ふハ、其職業益繁榮の故なり、同十四年、親王御飭落し給ふて素覚法親王と唱奉る、元慶三年、崩御之後、勅諡皇大明神と賜之、時ニ木地職業之者、愛智の深山ニ木地木相尽し、諸国江出職之砌、小野宮御製作之謂ニよりて、朱雀天皇御宇、西者櫛權之立程、東者駒之蹄之通程、諸国江出職之免許・

地 (1)五味沢

注7 「朝日村誌(四) 神社誌」(東田川郡朝日村役場) 砂川八幡神社

注8 大針村の他川上村と記されたものも二つある。川上村は明治九年大針村に合併しており、両村は江戸期から深く関わりがあったことが窺える。

注9 資料の所在は不明だが、立川町歴史民俗資料館にコピーが保存されている。

注10 「こけし辞典」(鹿間時夫監修 東京堂出版)は「木地師系統」の項で、「山形県大井沢のように古い筒井系の木地師集団で(以下略)」と述べている。

注11 「舟形町史」(舟形町)第九章民俗 第八節屋根葺文書

注12 酒田市工藤幸治氏所蔵

注13 「こけし手帖」二九〇(東京こけし友の会)「こけしと山形の古川柳」(舟山達著)

注14 「玉井茂先生遺稿 山形名所案内松木枕」(松木枕刊行会)

注15 「山形市史資料」第40号(山形市史編集委員会)

注16 「大泉掌故」(鶴岡市) 天地門

注17 「酒田市史」史料篇第七集生活文化篇(酒田市)

△木地屋文書▽

(伝「朱雀天皇繪旨」写)

近江州愛智郡小椋庄筒井鞆師職頭之事、称四品小野宮製作、彼職相勤之所神妙之由候也、専為器質統領、諸国令山入之旨、西者櫓權

立程、東者駒蹄之通程、被免許訖者

天氣之所候也、仍執達如件

承平五年十一月九日

左大承在判

器空助

(伝「正親町天皇繪旨」写)

近江国筒井職頭之事

諸国鞆師・杓子師・塗物師・引物師等、其職相勤之族、末代無相違可進退旨定訖、故以代々為器質其本、兼亦諸役可免許、全公役可相勤之由依

天氣執達如件

元龜三年十月十一日

左大弁在判

小野宮社務

(伝「織田信長免許状」写)

日本國中鞆師事、従先規如有来、諸役令免除之条、商売不可有異儀者也、仍如件

天正十一年六月日

丹羽五郎左衛門在判

江州筒井公文所

(伝「豊臣秀吉免許状」写)

従当畑諸商売之事、於惣國中如有来不可有別議、若違乱之族在之者、可注進可申付候也、仍如件

天正十五年十一月十五日 増田右衛門在判

近江国筒井公文所

た様子が窺える。大井沢の林地は現在息子の志田栄氏に受け継がれている。大井沢の場合もそうだが、大正期には水力を利用しての林地挽きが随分行われた様だ。五味沢（小国町）林地を再興した齋藤千代吉は、大正九年水力式轆轤を使用して椀木地の製作を開始した。飯豊町岩倉伊東用吉宅では大正時代、水車利用の轆轤を使い一〇年間椀木地を作ったという。

西川町大井沢には曲物製作もあり、大正期に曲物組合が作られていたという。大井沢見付渋谷守也氏は昭和三五年頃まで曲物を作っており、機会があればまたやってみたいという。山形市小姓町佐藤利作氏（明治二九年生れ）は明治四四年酒田の伊藤伝兵衛で修業を積んだ。その腕は酒田の田畑久作に勝るとも劣らなかつたという。佐藤宅には盆や弁当など、昔氏が作った曲物が幾つか残っている。山形市薬師町今野与一氏（明治三六年生れ）は漬物や練り油を入れる曲げの容器を多く作った。また朝日村東岩本鈴木仁太郎氏（明治四五年生れ）は、昭和二〇年頃から五〇年頃まで当地で曲物を作った。

昭和八年三月農林省提出の「雪害地農山漁村経済更生機関設置に対する経費」が議会を通過し、同八年五月「積雪地方農村経済調査所」（雪害調査所）の設置が決定。当時の新庄町（現新庄市）にも雪害調査所が設置された。設置の目的は、「積雪地方農山漁村の経済更生計画および雪害防除の調査研究指導」だった。雪害調査所は、県内各地の林地業等の再興も進めた。昭和九年、農林省農村振興助成金を得て始められた、最上郡及位村（現真室川町）新及位の「新及位ロクロ木工組合」などもその一つだった。一方東京はじめ東北各地での民芸品展も、農民達の作った品々の販路を開拓する目的もあって始められたも

のだった。しかし太平洋戦争を経て戦後、県内の林地業・曲物作り・削物製作は新しい時代の動きに対応することができず、製作地は次々に姿を消していった。今日県内の林地業は、こけしの製作など民芸品として命脈を保つだけで、華やかだった往時を忍ぶことはできない。しかし今後、再び手作り木製品の良さを認識する時代がくれば、県内にもかつての様な生産地が表われる可能性があるだろう。

最後に木地屋文書の読み下しを載せた。読み間違いなども多いと思うが、ご指導頂ければ幸いである。なお、読み下しに読点をつけ、漢字はできるだけ常用漢字に改めたが、慣用助詞はそのままにしている。

注1 この木地屋文書については、大友義助著「柿崎伝蔵家所蔵『木地屋文書』について」（『郷土研究史料集』大蔵村教育委員会）がある。

注2 小椋銀右衛門家には、他に、貸し出されたまま戻っていない木地屋文書もあるという。

注3 『小国町史』（小国町）第三編上杉時代 第二章産業(二)木製品―木地 (2)赤沢

注4 『飯豊町史』（飯豊町）第5章近世の飯豊 第4節農林業の発達「木地屋の生活」（但し、図5「木地屋の集落と伝播経路」の中、岳谷は君ヶ畑系と記されている。）

注5 「村史なかつがわ」中津川村史編纂委員会 第三章上杉氏治下の郷土の発展 (4)土地屋のくらし

注6 『小国町史』第三編上杉時代 第二章産業 (二)木製品―木

のは山形市切畑地区だけである。切畑臼は寸胴型が中心であり、置賜地方や大井沢産の臼が腰切型なのを考えれば、大沢臼を産した最上地方と関わりが深いといえよう。この切畑臼の起源も明らかでないが、江戸期までは遡らないと思われる。

県内唯一個所だけ残る庄内杓子は、朝日村の荒木利一氏が整型を、鶴岡市の進藤庄三郎氏が漆塗りの分業体制で作り続けられている。現在の頭の凹部は中掘りカンナで次々に作られるが、元はチョウナを用いての手掘りだった。轆轤は使用しなかったという。県内で作られた杓子を見ると、頭と柄が一本ものと別木のもの、頭が轆轤で挽かれているものとそうでないものがある。先の木地屋文書は杓子師を木地屋とっているが、これら杓子を作る者がすべて木地屋の流れを汲むというには問題がある。庄内杓子は庄内藩の保護育成の下に始まったと



新庄御国産名物尽し

もいうが、その実態は不明である。また先にみた大針木地との関わりなども不明である。

終りに

明治期から大正期にかけて、西川町大井沢では木地業が栄えた。当地中村の志田五郎八が木地製造を綴った、大正七年一月一日の日付のある冊子が残っている。それによれば、明治三〇年秋田県雄勝郡川連村漆器行商人樋渡菊蔵より、大井沢村木地業の有望なことを五郎八が聞いたのが、大井沢木地業の第一歩となった。明治三二年四月、五郎八以下五人が、川連村より木地職六人、塗師一人、塗下地職女四人を招き木地業と漆器業を始めたという。この後数度の離合集散を繰り返して行く。大正六年の製造戸数は專業二戸、兼業一〇戸の一二戸、製造人数は男子のみで一五名だった。大井沢では明治末から大正にかけて薄荷容器を多く作った様だ。五郎八は最後に大井沢木地業の今後の離勢として四項に分けて述べている。その一つに、「本工場ノ職工木地ヲ專業スルモノニ、其家庭ニ於テ現今ハ二男三男ノミ多ク、本業ニ従事シ農業ヲ本業トセル父兄ノ元ニ生活スルモノナレバ、少シモ不都合ヲ生ゼザルモ、其妻子ヲ携ヒ一戸ヲ構フルモノトスレバ、妻子ノミニテ農業を営ム訳ニモ成ルマジク、サレバトテ農閑ノミ木地業ニ従事スルト云フコトモナラザレバ、是非木取り等ハ女子ノ仕事トシ之ヲ分担セシメ、男子ハ挽方ニ全力ヲ注ギテ生産ヲ増進スルノ方針ヲトラザルベカラズ」と記している。大井沢の木地業は、近世期の家内工業的な木地業とはかなり変質しているが、当時として、将来に向け産業としての木地業を振興するには幾多の問題を解決しなければならなかつ

仕事にメンツ・お汁入れ・柄杓などの曲物を作ってきた。長く新沼に住んだ土屋清五郎氏（現萩生在住・明治四一年生れ）によると、新沼地区は昔から六軒で、冬ほどの家庭でも曲物を作り、戸数三〇戸の太平地区も同様だったという。両地区とも木地物は全然作らなかったとのことだが、この地区の曲物作りがどの様な歴史を持つのか明らかでない。ただどの地区でも曲物製作と木地業が別個に行われていた訳ではなく、先にみた中津川郷広河原の様に、木地物を多く作る一方、曲物を作った処もあった。



曲物作り(故長南富吉氏)

県内の刳物製作

ここにみる刳物とは、轆轤を用いて掘り窪めた容器ではなく、チョウナやマリカリを用いて作ったものをいう。木地物や曲物は製作道具等から小型の容器が多いが、刳物は幾ら大きなものでも自在に作る事ができた。

刳物の代表的なものは「木臼」と「木鉢」であろう。木臼は米を精白する時、餅を搗く時、粉を叩く時などその用途は広く、木鉢も食器に、挽臼の台に、蕎麦粉の練り鉢にと用いられた。豆腐作りに用いるニガリを取る「シオブネ」や、澱粉を取る為ワラビの根を搗く「ネツキブネ」などもあった。

刳物は木地物や曲物に劣らない需要があり、製作地も県内各地にみられたと思われるが、木地師や曲物師の様な、刳物を作る人々を呼ぶ名称は定かでない製作地もあり知られていない。もちろん木地屋の手になった刳物も多くあったであろう。近世期において刳物の産地として明らかなのは、天保五年（一八三四）板行の「新莊御国産名物尽し」（新庄市立図書館蔵）に前頭で紹介されている「大沢臼」である。

大沢（現真室川町大沢）臼は寸胴型を特色とし、昭和二〇年代まで製作された。また先の「出羽国風土略記」の「田川郡産物」の中に、「大網臼」が記されている。大網臼の存在を示す資料は不明だが、朝日村大網今野与喜雄氏によれば、江戸期この地区から臼作りの為の「臼木」をよく伐採したという。舟形町堀内字松橋、同字西又などでも臼を作ったというが、その起源は明らかでない。飯豊町小屋などは木地屋の集落ともいわれるが、木地屋が轆轤を挽きながら臼作りも行った様だ。しかし、その実態は明らかでない。現在も臼作りがみられる

とは不可能の様である。また天保版産物番附「庄内産物集」に「五十川ノ椀」がみられ、温海町五十川にかけて木地業のあったことが窺える。

『こけし辞典』（鹿間時夫監修 東京堂出版）によれば、西川町大井沢は蛭谷系の木地屋集団とされるが、それを証明する様な資料は今の所確認できない。当地の木地業が明らかなのは明治後期からである。また舟形町長沢伊藤長一家（現山形市在住）に、木地物やこけしを描いた明治一二・三年頃の巻物があったというが、現在その所在は不明である。一方、村山地方を中心とする風物・名所・旧跡を詠んだ安政二年（一八五五）板行の『俳風最上仙流 全』に、「龍山の陰にこけしかうるける」の歌があり、龍山の陰いゆる蔵王温泉とこけしとの関係を示す資料として注目される。明治二〇年頃とされる蔵王高湯系こけしの起源との関わりなど、今後の研究の進展が注目される。

県内の曲物作り

曲物は良質の檜や杉を薄くそぎ、曲げ合わせて作った容器で椀物ともいった。先の木地屋文書の一つ、「伝正親町天皇繪旨写」によれば、轆轤師・杓子師・塗物師・引物師を広い意味で木地屋と呼んでいることが判るが、曲物師がこの四職に含まれるかは定かでない。一般に、木地屋が檜・樺・朴・樺の伐採など良材の確保の為もあり山里深く居住したのに対し、曲物師は塗物師などと同じく城下に住んで職人町を形成した。城下町の曲物師や塗物師達は、山里に住む木地屋が城下に移住し、曲物等を専門に作る様になったと考えることもできる。

県内でも山形や鶴岡の城下、酒田に曲師町（椀物町）が作られてい

た。江戸中期頃に書かれた『山形風流松木枕』は、山形の椀物町の様子を、「比所方椀物町とて、指物・手桶・手箱・長命草盆・ひしゃく・まげ物奇麗に致し、あの手早キ事御覽候へ、二六時中鉦・鋸の音のみ耳を驚かし、姦敷事そかし、惣て此通り裏町にて、何れも家職々の御免町迎、人足免れ候なり」と記している。町は横町の東、小姓町の西、七日町と桶町の間にあり、元禄期に成立したとされる『山形城下新古銘記』には「椀物師廿九人 但、倅・弟子・召仕共ニ」とある。

鶴岡の椀物町は鶴ヶ岡城下と大山城下にあった。鶴ヶ岡城下の椀物町は当初城の南内川沿いにあったが、寛文十一年（一六七一）の火災の後現在地（現三光町）へ町替になった。鶴岡市三光町正栄会所蔵、慶応三年（一八六七）筆とされる「椀物町絵図」には一三名の椀物師が記されている。その一人、惣右衛門は長南惣右衛門のことであり、子孫に当る長南富吉（昭和四八年没）、同憲吉（昭和五二年没）兄弟は昭和四〇年半ばまで曲物を作り、鶴岡最後の曲物師となった。

酒田の椀物町は光ヶ丘図書館蔵の「酒田町つくし」にもその名がみえる。安政二年（一八五五）板行の『東講商人鑑』に描かれた「羽州飽海郡酒田湊」には、かじ町・名古屋町・十王堂町に接し「曲し小路」と記されている。また同本には、呉服太物古手店伊藤屋与平治と、曲師町の酒田商人の名もみえる。酒田の曲物は、昭和一六年東京三越の第二東北民芸展出品「曲物抹茶碗入箱」で特選となった、田畑久作氏まで受け継がれたが、昭和四二年氏の没後、酒田の曲物作りも消滅した。昭和五一年の酒田大火は、曲物資料さえも焼失させてしまった。

もちろん、県内の曲物作りはすべて城下などの町場で行われた訳ではない。飯豊町萩生の大平地区や新沼地区では、昭和一〇年代まで冬

朝日村本郷地区にみる近世期の木地物一覽

名 称	所 在 地	法 量 (cm)	銘 文 等
高 杯	朝日村本郷 河内神社	口径 16.5 高 9.0 高台径 7.5	元禄三年午ノ正月
同 上	同 上	口径 12.0 高 7.0 高台径 7.0	同 上
饌 米 鉢	朝日村下名川 円秀寺仁王堂	口径 26.0 高 12.5 高台径 14.0	奉寄進御鉢 諸願成就 于時元文 五庚申八月吉日 大針村 松之助
饌 米 鉢	朝日村砂川 八幡神社	口径 30.0 高 9.5 高台径 15.5	奉納御宝前 延享三日天寅二月吉 日 川上村 難波伊左衛門
大筒鉢(2個)	朝日村下名川 円秀寺	口径 18.5 高 14.5 高台径 12.5	漆塗 十五世寛誉代天保十四卯年 旦中寄付
饌 米 鉢	同 上	口径 26.0 高 26.0 高台径 23.5	胴部腰部等に和紙貼付
高 杯 (?)	朝日村本郷 河内神社	口径 25.0 高 24.0 高台径 8.5	
饌 米 鉢	同 上	口径 33.5 高 29.0 高台径 28.5	
花 立 (?)	朝日村砂川 八幡神社	口径 17.0 高 8.5 高台径 8.5	ラ ッ パ 型
饌 米 鉢	同 上	口径 20.0 高 13.0 高台径 9.0	
同 上	同 上	口径 23.5 高 12.0 高台径 13.0	諸願成就所 出羽庄内田川郡 串引 通本郷組 大針 藤兵衛 半次郎
同 上	同 上	口径 25.0 高 13.5 高台径 12.5	川上村 助右エ門
ローソク立	同 上	口径 7.0 高 9.0 高台径 12.0	御 宝 前
饌 米 鉢	朝日村大針 石動神社	口径 24.0 高 13.0 高台径 15.0	奉納御針 ⁽²⁾ 諸願就之所 月日 当村たけ



円秀寺蔵「饌米鉢」



河内神社蔵「高杯」

子を迎えているといい、会津方面とは深い関係を持つ処だったことが知られる。なお川崎家は、先の赤沢の小椋徳次郎家から養子を迎えている。

江戸期の大石沢村(旧津川村、現小国町)は中津川村(現飯豊町)と接し、現在九才峠を越えての小国中津川線は主要地方道として車も往来する。この様な地理的な状況を考えれば、口黒に移住した小椋家の人々は、会津から岳谷などの中津川郷に移り住んだ人々の流れを汲むといえるかも知れない。米沢市入田沢地区も、昔会津からやって来た木地屋が住み付いた処ともいう。

なお、「村史なかつがわ」によれば、小椋銀右衛門の木地屋文書は、蛭谷派の出羽廻国の年である安政四年(一八五七)の「申渡」もみられることから、この年に下付されたものとしている。しかし一連の木地屋文書をみると、「申渡」と「椀器之祖小野宮惟喬親王略伝記」は文末「江州筒井 公文所」の文字と同じ印章が使用され、「往来手形」は「江州愛知郡 筒井 公文所」と記され、先とは別の印章が用いられている。筆蹟は前者後者ごとと同じで、後者の三通は「素鑽表 祇命記」の筆蹟と同一である。これらのことから、木地屋文書は二度以上に亘って下付された可能性もあるのではないかと考えられる。

小国町民俗資料館に保存されている「二人挽轆轤」は、小国町五味沢で使用されたものである。「小国町史」によれば、五味沢の木地業は「上杉治憲が農閑期の副業として着目し、寛政二年(一九七〇)会津若松より木地塗物の師を招いて五味沢につかわし、村人をしてこの術を習得させた。以来副業としてこれを奨励したため、生産に多少の一進一退はあったが、明治の末までつづいた」という。村内では白木

地の生産だけでなく、漆塗も行い「五味沢塗」の名声を得たというが、近世の五味沢の木地業を伝える資料は残っていない。

庄内地方の山間部、朝日村本郷地区は、近世期の木地物が多く残っている処として注目される。ここはかつて東田川郡の一村をなし、本郷・大針・砂川・行沢・上名川・下名川・熊出の七地区に分かれていた。「朝日村誌(四)神社誌」は、「旧本郷村の神社には、多かれ少なかれ一つ以上、右に示した略図(省略)の様なもの神前におかれている。その置き場所から想像して「初穂入れ」であろうと察せられるが、その由来を尋ねても教えてくれる人がない」と記している。これら一連の木地で最も古いと考えられるのが、朝日村本郷河内神社に保存されている、作占に使用する「高杯」一六個(大一二個、小四個)で、その一五個の高台内に「元禄三年 午ノ正月」の墨書銘がみられる。同村下名川円秀寺仁天堂奉納の「饌米鉢」には、「奉寄進御鉢 諸願成就 于時元文五庚申八月吉日 大張村松之助」と、奉納者や村名も記されている。その他の饌米鉢等にも、奉納年や奉納者の記されたものがみられる。管見した範囲で、本郷地区における近世期の主な木地物を示したのが別表である。この中に、大針と記されている木地物が二つある。大針については、宝暦一二年(一七六二)進藤重記の著した「出羽国風土略記」の「田川郡産物」の項に「大針木地」とみえ、江戸期頃から木地業の有名な処だったことが知られる。大針の石動神社に「饌米鉢」一個奉納されているが、盛んだった往時を伝える資料は残っていない。大針の菅原森治氏(大正二年生れ、家名半左エ門)は一七歳の時から轆轤を回したというが、菅原家での木地業は森治氏の父の代からとのことであり、菅原家と近世期の大針木地を結びつけるこ

長く岳谷に住んだ川崎みよ氏（明治四四年生れ）によれば、葡萄
 沢には会津から移り木地業を行っていた立派な構えの家があったが、
 子供に恵まれず絶えた、と聞いているという。また当地には慶長二
 年（一五九七）の年号が刻まれた「山の神」もみられたという。

一方、岳谷には家名三太郎（渡部家）・松兵エ（田中家）・藤左
 エ門（小椋家・後小倉姓に改める）・円次郎（川崎家）の四軒（後
 三太郎・松兵エから新家が出て六軒になる。）があったという。川崎
 家は代々「ジキヤ」と呼ばれ三〇〇年の歴史を持つ旧家とのことで
 ある。ジキヤとは、轆轤の心棒をジキ棒といったことから轆轤を挽
 く部屋をさすが、岳谷の木地業の歴史を証明する言葉でもあろう。

渡部家は川入（現熱塩加納村）に親戚を持ち、田中家も会津から養



往来手形 (31.5cm×42.5cm)

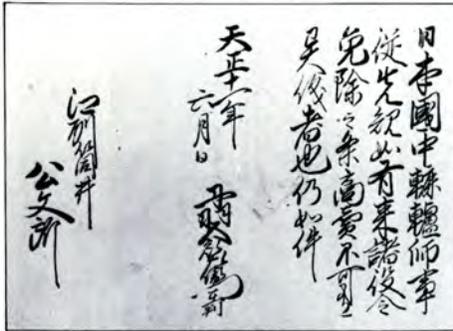
「村史なかつがわ」は、
 化政期の専門的な木地
 屋の集落として、武頭
 沢（葡萄沢）・岳谷・
 広川（河）原東俣の三
 箇所（現飯豊町）がみ
 られたと記している。^{（注）}
 本館には中津川郷「下
 谷地 天保十三年十一
 月 靱御蔵」と記され
 た盆木地が収蔵されて
 いるが、先の三箇所の
 いずれかで作られた可
 能性が強いと思われる。



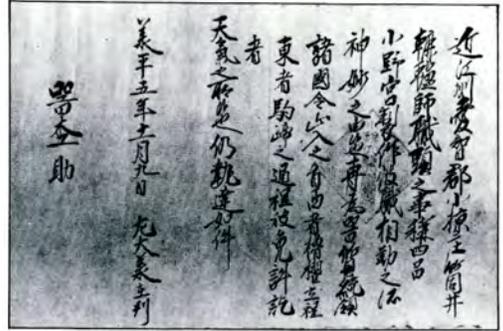
腕器元祖小野宮惟喬親王略伝記 (30.0cm×125.0cm)

抑惟喬親王御位清和天皇奪取儀宣
 親上精乱先宛身捨宜貞親初崩
 三月五日階上白馬末路荒宜悉達
 太子禮持山荒宜不其大政大臣実秀
 卿坂川中納言其外一兩輩無罪御供
 駒矢荒江州愛智郡寄木城橋宜宣
 後悉親免日輪日没及夏一塔佛洞見
 忘寄一夜可明宜翁一人見此可謂治
 蘭宜翁益吉昔年聖德太子此可守屋
 大臣軍宜特城郭構被掛渡橋城橋石
 付八棟作干盤屋経奈良郡被立置奉
 日大明神七空伽藍本堂春日大明神
 御作樂師如來並聖德太子御社是々
 侍言玉哉阿謀被持太子殿親王奉移
 三日三夜平笔全海今日朝惟愛智河
 上駒矢免了手山流河原玖敷在石
 下盈雅問宜此所小持神言昔千手姫

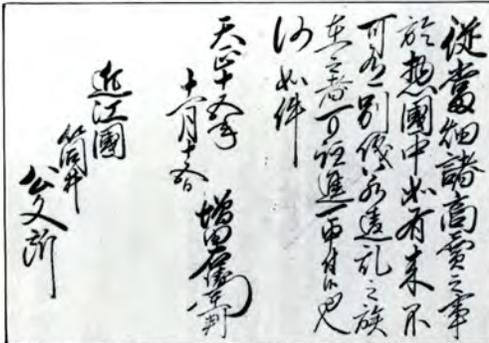
惟喬親王縁記
 （部分）
 （軸物、本紙のみ）
 30.0cm×178.0cm



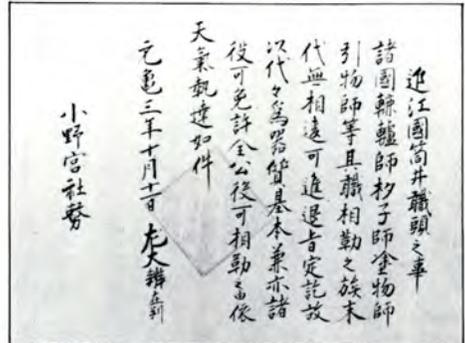
伝織田信長免許状写(軸物、本紙のみ24.0cm×35.5cm)



伝朱雀天皇綸旨写(軸物、本紙のみ24.0cm×41.0cm)



伝豊臣秀吉免許状写(軸物、本紙のみ24.0cm×33.5cm)



伝正親町天皇綸旨写(軸物、本紙のみ24.0cm×35.5cm)



祈禱札(表)赤沢・山の神社



祈禱札(裏)赤沢・山の神社

はじめ口黒に入居した。口黒は豆納すのりより大石沢川をさかのぼることおおよそ半里で、当時の墓所も残っている。と記している。注3 銀右衛門家が嘉永年間信州より来住したとするには疑問がある。赤沢の「山の神社」に三枚の祈禱札が納められている。この中で年号の一番古い木札には、表に「奉建立山神三所大権現氏子繁昌所 天下泰平 大小ノ神祇 諸神諸佛 導師別當吉祥寺敬白」と、裏に「なま天保拾三歳寅九月廿二日 大施人小椋安太良 小椋銀右衛門 小椋徳次良 大工御名字藤右衛門」と記されていることから、小椋三家は、天保年中に口黒から赤沢に移住したと考えられよう。また三通の往来手形の発給が文政一〇年(一八二七)であり、銀右衛門家一代を二五年とみれば、文政頃に口黒に来住したと考える事も十分可能である。

豊臣秀吉の全国制覇後、会津に入部した蒲生氏郷は君ヶ畑派の木地屋を移住させたというが、氏郷以前芦名氏時代は蛭谷派が勢力を持っていたという。「飯豊町史」によれば、蛭谷派の木地屋は五枚沢(現福島県耶麻郡熱塩加納村内)から中津川郷(現飯豊町)岳谷に移ったとい注4い、

む氏子狩りを進めながら、互いに木地屋の本山を主張して激しく争った。一方氏子達も、樹木の伐採など木地屋の立場を有利に保つ為に木地屋文書を持ち、また木地屋の祖、太政大臣藤原実秀（後、小椋実秀と改名）の子孫と称して小椋姓を名乗ることが多かった。

紀年銘のみられる県内木地物で、現在最も古いと考えられるのが舟形町堀内字松橋三蔵院に伝わる「饌米鉢」（口径四〇、七〇四二、〇cm 高さ一五、〇〇一五、五cm 高台径二六、七〇二八、二cm）である。かなり大型の木鉢で、胴部に「奉納南無（素）神如來御宝前御（五七）」十二神御鉢 元龜三年壬申四月八日 諸願成就□□□□と、また高台内に「南無薬師十二神 諸病悉除 □□ 松橋別當代 三蔵院」と記されている。三蔵院のある松橋地区や西又地区には明治頃、臼やコシキを作る人々がいたというが、この饌米鉢は、近世初



三蔵院蔵「饌米鉢」胴部墨書銘



三蔵院蔵「饌米鉢」高台内墨書銘

頭における当地方の木地業の存在を窺わせる貴重な資料といえよう。

県内の木地屋文書は、現在三個所で確認されている。一つは、大蔵村肘折の柿崎伝蔵家に伝わる「御縁起之写」である。「こけし辞典」八鹿間時夫監修 東京堂出版によれば、柿崎藤五郎（二代目伝蔵）が明治二三年、遠刈田での木地修業から帰る時に持参したもので、古くから肘折に伝わったものではないという。^{（注）}また飯豊町落合（現同町手の子在住）小椋三右衛門家（現当主利雄氏）にも、菊紋の付いた木箱に納められている木地屋文書のあることが確認されているが、その内容は明らかでない。

小国町幸町小椋銀右衛門家には一三点の木地屋文書が伝わる。内訳は、^{（注2）}「伝朱雀天皇綸旨写」・「伝正親町天皇綸旨写」・「伝織田信長免許状写」・「伝豊臣秀吉免許状写」・「往来手形」（三通）「惟喬親王縁起」

（一卷）・「差上申一札之事（白川一件関係）」（一卷）・「申渡（木地屋掟書）」（一通）・「折封」（一枚）である。いずれも筒井公文所の発給であることから、小椋銀右衛門は蛭谷派に属していたことが分かる。小椋家は現在七代目で小国町内に在住しているが、先祖が最初に來住したのは大石沢村口黒（旧津川村、現小国町）の地で、その後同村赤沢に移り、昭和四七年まで当地に住んでいた。現在は夏分は銀右衛門氏のみ、かつての住居近くに小屋を建て農業を営んでいる。

小椋家が何代まで木地業に携わっていたか、赤沢でも木地挽を行ったかは不明だが、廃屋となった赤沢の家の蔵には手挽き轆轤や椀木地が多く残っていたとのことであるから、口黒から赤沢に移ってからも木地業は続いたと思われる。銀右衛門家の來歴について「小国町史」は、「嘉永年間に信州より來たのが小椋銀右衛門・同安太郎・同徳次郎の三氏で、

山形県における木地物・曲物・刳物の製作

— 近世期を中心に —

学芸員 野口 一雄

はじめに

豊かな森林資源に恵まれた日本では、古くから人々と木との関わりが深かった。人々は木の実を食料にし、木を加工して家を建て、家具・調度類を拵えた。また神仏も木を彫ることが多かった。

生活用具をみても、陶磁などに比べ、木製の容器は用途も広くかつ使用された年月も長い。しかし昭和三〇年代以降、プラスチックなどの安価な合成樹脂製品の出現により木製品は減少していった。また家族の核家族化は木鉢など大型の食器を不必要にし、便利な家電製品が出回る中で臼は姿を消した。その為、県内各地にみられた木地物や曲物・刳物などの生産地は続々と廃業に追い込まれていったのである。

昭和六〇年度、本館主催企画展「くらしの用具 山形の曲げとくりもの」は、先人達が営々と作り続けたくらしの用具としての木製品を展示し、手作り製品の良さを見直すと共に、私達と木の文化との関わりをもう一度考えてみる為に開催したものである。

この小論は、企画展に展示した資料から、特に近世期のものに焦点を当て、県内における近世期の木地物・曲物・刳物の製作地を考えしてみたものである。しかし、当時の製作地の全貌をみるにはまだまだ

だ先のことであり、今回はその一部を紹介したにすぎない。

なお、西置賜郡小国町幸町小椋銀右衛門氏のご厚意により、代々当家に伝わる木地屋文書を拝読させて頂いたので、木地屋文書の読み下しを小論の最後に紹介した。解説に当っては、佐藤大吉氏、松田源恵氏、寺崎厚一氏、大友義助氏にご指導を賜わった。また木地物等銘の記されているものは、竹田賢正氏に赤外線写真を撮って頂いた。記して厚くお礼を申し上げたい。

県内の木地業

木地物とは、轆轤を用い円形に拵えた木製品で、掘り窪めた場合もそれが手掘りでなく轆轤を使用していれば木地物という。近世期、これら木地物を作る人々は木地屋(師)と呼ばれた。

全国の木地屋は木地の祖神、文徳天皇の第一皇子小野宮惟喬親王を祀る、近江国小椋郷(現滋賀県神崎郡永源寺町)蛭谷の筒井八幡神社と、同郡君ヶ畑の金龍寺による全国的な支配、いわゆる氏子狩り(駈)の制度下に置かれていく。蛭谷側は筒井公文所、君ヶ畑側は高松御所を通して氏子支配を行っていた。この両者は氏子達に「繪旨」・「免許状」・「往來手形」・「印鑑」・「縁起書」などを与えて自らの側に取り込

昭和61年3月20日 印刷

昭和61年3月30日 発行

山形県立博物館研究報告 第7号

発行者 山形県立博物館
山形市霞城町1-8
TEL(0236)45-1111

印刷所 アベ印刷(株)

